

令和5（2023）年度
事業報告書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

目次

I.	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報.....	1
1	法人の概要.....	1
(1)	事業内容.....	1
(2)	所在地.....	1
(3)	教員及び職員の数（令和6年3月31日現在）.....	1
(4)	沿革.....	1
(5)	設立に係る根拠法.....	1
(6)	主管省庁名.....	1
(7)	組織図（令和6年3月31日現在）.....	2
2	役員状況（令和6年3月31日現在）.....	3
(1)	役員・監事.....	3
(2)	理事.....	6
(3)	評議員.....	17
II.	業務実績報告.....	19

I. 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報

1 法人の概要

(1) 事業内容

- 1) 沖縄科学技術大学院大学を設置し、これを運営すること。
- 2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康に関する相談その他の援助を行うこと。
- 3) 学園以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の学園以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- 4) 沖縄科学技術大学院大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- 5) 科学技術に関する研究集会の開催その他の研究者の交流を促進するための業務を行うこと。

(2) 所在地

メインキャンパス	沖縄県国頭郡恩納村字谷茶 1919 番地 1
シーサイドハウス	沖縄県国頭郡恩納村字恩納 7542
マリン・サイエンス・ステーション	沖縄県国頭郡恩納村字瀬良垣原 656 番 7

(3) 教員及び職員の数（令和 6 年 3 月 31 日現在）

教員（除、アジャクント、トランジショナル教授）： 79 人
職員（除、派遣職員）： 924 人

(4) 沿革

平成 23 年 11 月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園設立

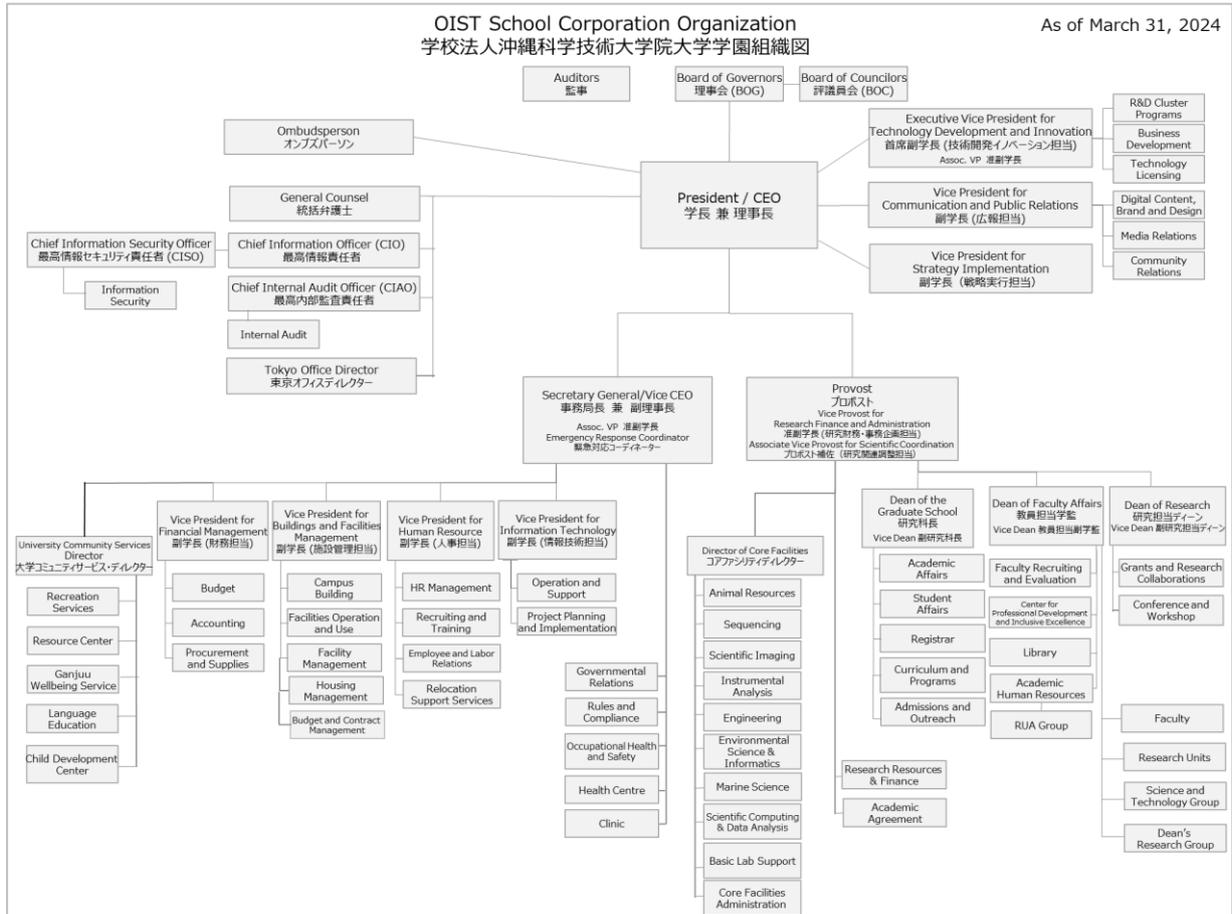
(5) 設立に係る根拠法

沖縄科学技術大学院大学学園法（平成 21 年法律第 76 号）

(6) 主管省庁名

内閣府、文部科学省

(7) 組織図 (令和6年3月31日現在)



2 役員の状況（令和6年3月31日現在）

● 定数

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第5条第1項、第7条、第19条第2項の定めるところによる。

● 任期

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第9条第1項及び第24条第1項の定めるところによる。

● 役員賠償責任保険契約の状況

令和3年2月18日第30回理事会において、役員賠償責任保険（補償対象は訴訟費用及び損害賠償請求等）の更新を全会一致で承認。

(1) 役員・監事

役職	氏名	任期	主要経歴	
臨時理事長・臨時学長	アルブレヒト・ワグナー	2022年12月1日～ 2023年5月31日	1971年 1984年 1991年 1999年 2005年 2006年 2007年 2008年 2010年 2011年 2015年 10月 2022年 12月	ハイデルベルク大学（ドイツ）博士号（物理学） ハイデルベルク大学教授 ハンブルグ大学教授 ドイツ電子シンクロトロン研究所（DESY）所長 DESY 理事会委員長 TESLA Technology Collaboration Board 委員長 将来加速器国際委員会（ICFA）委員長 ヘルムホルツ協会副会長 ハンブルグ大学評議委員会委員長 ヨアキム・ヘルツ基金委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員 同 理事長臨時代理兼学長臨時代理 同 臨時理事長兼臨時学長
理事長・学長	カリン・マルキデス	2023年6月1日～ 2028年5月31日	1984年 1975年 1984年 1985年 1989年 1989年	ストックホルム大学博士号（分析化学）取得 ストックホルム大学 化学部門研究所長 ブリガム・ヤング大学 化学部門（米国） 博士研究員 ブリガム・ヤング大学 化学部門助教 ブリガム・ヤング大学 化学部門准教授 ウプサラ大学分析化学部門（スウェーデン） 分

役職	氏名	任期	主要経歴
			析化学部門主任教授 1996年 ウプサラ大学科学技術部門化学・化学工学研究科長 2003年 スタンフォード大学 化学部門（米国）客員教授 2006年 チャルマース工科大学（スウェーデン）学長兼理事長 2015年 チャルマース工科大学学長上級顧問 2019年 アルメニア・アメリカン大学学長兼理事長 2021年 デンマーク工科大学（DTU）理事会議長 2023年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園学長・理事長 6月
副理事長・事務局長	加藤 重治	2022年 4月1日 ～ 2025年 3月31日*	1980年 東京大学工学部卒業 1986年 ハーバード大学公共政策学（修士号） 1980年 科学技術庁入庁 1991年 OECD 日本政府代表部一等書記官 1994年 科学技術庁放射線医学総合研究所企画課長 1995年 科学技術庁原子力局核燃料課バックエンド推進室長 1995年 国務大臣科学技術庁長官秘書官 1996年 科学技術庁長官官房秘書課企画調査官 1998年 科学技術庁科学技術政策局調査課長 1999年 文部省教育助成局海外子女教育課長 2000年 科学技術庁原子力安全局核燃料規制課長 2001年 経済産業省原子力安全・保安院核燃料サイクル規制課長 2002年 理化学研究所フロンティア研究推進室長 2003年 理化学研究所企画部長 2002年 文部科学省科学技術政策局原子力安全課長 2004年 内閣府政策統括官（科学技術政策担当）付参事官（総括担当） 2007年 経済産業省原子力安全・保安院審議官（実用発電炉担当） 2009年 文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当） 2011年 内閣府大臣官房審議官（原子力安全委員会担

役職	氏名	任期	主要経歴
			<p>当)</p> <p>2012年 文部科学省国際統括官</p> <p>2014年 理化学研究所理事長特別補佐</p> <p>2015年 国立研究開発法人理化学研究所理事</p> <p>2017年 文部科学省科学技術・学術政策研究所所長 (2017年12月退職)</p> <p>2018年 国立研究開発法人理化学研究所理事 (2022年3月任期満了)</p> <p>2022年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園 事務局長・副理事長</p>
監事	池田 博之	2023年 11月1日 ～ 2026年 10月31日	<p>1991年 東京大学教養学部卒業</p> <p>1991年 総務庁(行政監察局企画調整課) 入庁</p> <p>2006年 総務省企画課企画官 併任 情報システム室長 (～2007年)</p> <p>2007年 総務省行政管理局行政情報システム企画課国際企画官 併任 内閣府本府規制改革推進室企画官 (～2008年)</p> <p>2010年 併任 総務省人事・恩給局恩給企画課 (～2012年)</p> <p>2012年 併任 総務省行政評価局 (～2013年)</p> <p>2013年 総務省統計審査官 (政策統括官付)</p> <p>2014年 総務省国際統計管理官 (政策統括官付)</p> <p>2016年 総務省恩給企画管理官 (政策統括官付)</p> <p>2017年 総務省官民競争入札等監理委員会事務局参事官 併任 行政管理局公共サービス改革推進室参事官 (～2018年4月)</p> <p>2018年 内閣府官民人材交流センター総務課長</p> <p>2021年 日本下水道事業団監査室長</p> <p>2022年 全国市町村研修財団審議役 命 市町村職員中央研修所調査研究部長 兼 教授</p> <p>2023年 内閣府沖縄振興局参事官</p> <p>2023年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事 11月</p>
監事	兼島 規	2023年	1976年 神戸大学法学部卒業

役職	氏名	任期	主要経歴
		11月1日 ～ 2026年 10月31日 *	1976年 沖縄県庁入庁（沖縄県労働商工部商工課） 2005年 沖縄県企画部科学技術統括監 2007年 沖縄県八重山支庁長 2009年 沖縄県総務部長 2012年 沖縄県企業局長 2013年 沖縄振興開発金融公庫理事 2015年 株式会社那覇空港ビルディング代表取締役社長 2023年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事 11月
監事	ジョージ・ クラーク	2020年 11月1日 ～ 2026年 10月31日 *	1979年 バッテル・パシフィック・ノースウェスト国立 研究所基礎科学予算マネージャ、上席内部監査 官等 2000年 テネシー大学バッテル校首席財務担当官 米国オークリッジ国立研究所担当財務マネジメ ント部長 2003年 ハワイ大学天文学研究所事務局長 2005年 米国国立電波天文台事務局長 2011年 セントラルワシントン大学業務及び財務担当副 学長 2016年 米国ブルックヘブン国立研究所首席財務担当官 2020年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事 2021年 米国スタンフォード大学 SLAC 国立研究所首席 財務担当官

*重任 **再任

(2) 理事

氏名	任期	主要経歴
チェリー・ マレイ	2017年 5月24日 ～ 2026年 5月23日 **	1973年 マサチューセッツ工科大学学士号（物理） 1978年 マサチューセッツ工科大学（米国）博士号（物理） 2001年 ルーセントテクノロジー ベル研究所（米国上級副社 長（物理科学・ワイヤレス研究担当） 2004年 ローレンス・リバモア国立研究所（米国カリフォルニ ア州）科学技術担当副所長 2007年 ローレンス・リバモア国立研究所科学技術担当プリン シパル・アソシエイト・ディレクター

氏名	任期	主要経歴
		<p>2009年 ハーバード大学（米国）工学・応用科学研究科長 ハーバード大学大学院工学・応用科学研究科ジョン A & エリザベス S アームストロングプロフェッサー</p> <p>2015年 ハーバード大学大学院工学・応用科学研究科ジョン A & エリザベス S アームストロングプロフェッサー & 物理教授（2015年7月まで）</p> <p>2015年 ハーバード大学ベンジャミン・パース技術公共政策学教授／ジョン・A・ポールソン工学・応用化学物理学長室教授（2019年6月まで）</p> <p>2015年 米国エネルギー省科学局長（公務遂行のためハーバード大学を一時的に休職）</p> <p>2017年5月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事会議長</p> <p>2019年 ハーバード大学ベンジャミン・パース技術公共政策学名誉教授／ジョン・A・ポールソン工学・応用化学物理学長室名誉教授</p> <p>2019年 アリゾナ大学物理学教授、Biosphere 2 サイエンス・ディレクター</p>
ジェームス・比嘉	2020年1月1日～2025年12月31日*	<p>1981年 スタンフォード大学（米国）学士号（政治学）</p> <p>1981年 ヒガ・フォトグラフィー 写真家</p> <p>1984年 アップルコンピュータジャパン株式会社 プロダクトマーケティング／国際マーケティング担当ディレクター</p> <p>1989年 NeXT コンピュータ アジア</p> <p>1996年 リアルネットワークス社、消費者担当副社長、アジア担当副社長</p> <p>2001年 アップル CEO オフィス シニア・ディレクター</p> <p>2012年 株式会社ローソン イノベーション諮問委員会顧問</p> <p>2012年 フィランソロピック・ベンチャーズ・ファンデーション 事務局長</p> <p>2012年 インデックス・ベンチャーズ メンター・イン・レジデンス</p> <p>2013年 Kano Computing インベスターディレクター</p> <p>2013年 株式会社ユニクロ 顧問</p> <p>2015年 Airbnb 顧問</p>

氏名	任期	主要経歴	
		2018年 2019年 2020年 1月	シーメンス 顧問 WorldCover 理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
カーティス・ カラン	2014年 11月1日 ～ 2026年 10月31 日*	1964年 1968年 1969年 1972年 1974年 1986年 1989年 1990年 1995年 1998年 2004年 2005年 2008年 2014年 11月	プリンストン大学（米国）博士号（物理学） JASON スタディグループメンバー プリンストン高等研究所長期メンバー プリンストン大学物理学部教授 アメリカ物理学会フェロー プリンストン大学ユージン・ヒギンス・プロフェッサー アメリカ芸術科学アカデミーメンバー 米国科学アカデミー会員 JASON スタディグループ運営委員会委員長 プリンストン大学ジェームス・S・マクドネル物理学 ディスティングイッシュトプロフェッサー プリンストン大学物理学部長 ディラック賞（国際理論物理学センター） プリンストン大学理論物理学センターディレクター アメリカ物理学会会長・副会長 プリンストン大学物理学部長 プリンストン高等研究所評議会会員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
モンテ・カセム	2023年 1月1日 ～ 2025年 12月31日	1970年 1976年 1976年 1982年 1985年 1994年 2004年 2011年	スリランカ大学自然科学部建築学科 東京大学大学院工学系研究科修士課程都市工学専攻修 士 マレーシアサインズ大学専任講師、大学院設立委員会 事務局長 東京大学大学院工学系研究科博士課程都市工学専攻単 位取得満期退学 国際連合地域開発センター（UNCRD）主任研究員・ 国連専門官 立命館大学教授 立命館アジア太平洋大学学長 沖縄科学技術大学院大学評議員

氏名	任期	主要経歴
		2014年 学校法人立命館評議員 2015年 学校法人立命館理事補佐 2017年 日越大学（VJU）理事 2018年 大学院大学至善館学長、理事、教授 2021年 公立大学法人国際教養大学 理事長・学長 2022年 沖縄科学技術大学院大学 評議員会議長 2023年 沖縄科学技術大学院大学 理事
リタ・ コルウェル	2011年 11月1日 ～ 2026年 10月31日*	1961年 ワシントン大学（米国）博士号（海洋学） 1991年 メリーランド大学（米国）生命工学研究所所長 1998年 全米科学財団 11 代理事長 国家科学技術会議（米国）共同議長 2004年 キヤノン US ライフサイエンス（米国）会長・上席副社長 メリーランド大学特別教授 ジョン・ホプキンス大学（米国）公衆衛生大学院特別教授 2006年 キヤノン US ライフサイエンス（米国）上級顧問名誉会長 科学技術振興機構国際諮問委員 東京大学プレジデント・カウンスル・メンバー 2007年 米国生物化学研究所所長 2006年アメリカ国家科学賞 2011年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 11月 2013年 ローザリンド・フランクリン協会会長 シグマ XI ウィリアム・プロクター科学功績賞 2014年 一般微生物協会賞
ベン・L・フェ リンハ	2021年 7月1日 ～ 2024年 6月30日	1978年 ロイヤル・ダッチ・シェル（オランダ・イギリス）リサーチ・サイエンティスト 1984年 フローニンゲン大学講師 1988年 フローニンゲン大学教授 2004年 フローニンゲン大学ヤコブス・ファント・ホッフ分子科学特別教授（現在に至る） 2004年 アメリカ芸術科学アカデミー外国人名誉会員 2006年 オランダ王立芸術科学アカデミーメンバー

氏名	任期	主要経歴
		<p>2008年 オランダ王立芸術科学アカデミー アカデミー・プロフェッサー</p> <p>2010年 オランダ国立科学財団化学部門長 (2016年まで)</p> <p>2011年 ミュンヘン工科大学高等研究所ハンス・フィッシャー名誉フェロー (現在に至る)</p> <p>2011年 オランダ王立芸術科学アカデミー (KNAW) 副会長 (2016年まで)</p> <p>2016年 ノーベル化学賞</p> <p>2017年 華東理工大学 (中国、上海) フェリンハ・ノーベル賞科学者共同研究センター共同ディレクター (現在に至る)</p> <p>2019年 欧州研究評議会メンバー</p> <p>2021年 沖縄科学技術大学院大学学園理事</p> <p>7月</p>
藤田 浩之	2021年 5月1日 ～ 2024年 4月30日	<p>1991年 オークリッジ国立研究所 個体物理学研究助手 (米国)</p> <p>1992年 マンマス・カレッジ 数学・物理学学士号 (米国)</p> <p>1993年 ケースウェスタンリザーブ大学 大学院物理学部研究助手 (米国)</p> <p>1997年 ピッカーインターナショナル株式会社 磁気共鳴画像診断装置(MRI)部門研究者 (米国)</p> <p>1998年 ケースウェスタンリザーブ大学 物理学博士号 (米国)</p> <p>2000年 USA Instruments 社 研究開発マネージャー (米国)</p> <p>2001年 ケースウェスタンリザーブ大学 物理学部非常勤准教授 (米国)</p> <p>2003年 クイーンズランド大学 情報技術電気工学部非常勤准教授 (オーストラリア)</p> <p>2003年 USA Instruments 社 3-テスラ・セグメント・エンジニアリングプログラムマネージャー</p> <p>2005年 ケースウェスタンリザーブ大学 放射線学非常勤准教授 (米国)</p> <p>2005年 ケースウェスタンリザーブ大学 MRI・画像物理学所長、上級研究員 (米国)</p>

氏名	任期	主要経歴
		2005年 GEヘルスケア MRI RF コイルエンジニアリング部長 2006年 クオリティー・エレクトロダイナミクス創業者、社長兼最高経営責任者 2009年 ケースウェスタンリザーブ大学 (CWRU) 物理学非常勤教授 (米国) 2009年 クイーンズランド大学情報技術電気工学部非常勤教授 (オーストラリア) 2011年 ケースウェスタンリザーブ大学医学部放射線学非常勤教授 (米国) 2018年 在クリーブランド日本国名誉領事 (米国) 2019年 キヤノンメディカルシステムズ株式会社 CT-MR 事業統括部最高技術責任者 2021年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 2022年 キヤノンヘルスケア USA 会長
セナパティ・ゴパラクリシュナン	2017年11月1日～2026年10月31日*	1977年 インド工学大学マドラス校 修士号 (物理) 1979年 インド工学大学マドラス校 修士号 (コンピューターサイエンス) 2007年 インフォシスリミテッド最高経営責任者兼マネージング・ディレクター 2011年 インフォシスリミテッド副会長 2014年 Axilor Ventures 会長 2016年 インド国立工学アカデミーフェロー 2016年 インド電子通信工学研究所 (IETE) 名誉フェロー 2017年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 11月
セルジュ・アロシュ	2015年10月1日～2024年9月30日*	1971年 パリ第6大学 (フランス) 博士号 (物理学) 1975年 パリ第6大学教授 1981年 ハーバード大学客員教授 1984年 イェール大学非常勤教授 1991年 フランス大学院メンバー 1994年 高等師範学校 (フランス) 物理学部長 2001年 コレージュ・ド・フランス量子物理学教授 2012年 コレージュ・ド・フランス学長 ノーベル物理学賞

氏名	任期	主要経歴	
		2015年 2015年 10月	コレージュ・ド・フランス名誉教授 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
カリン・マルキ デス	2023年6 月1日～ 2028年5 月31日	1984年 1975年 1984年 1985年 1989年 1989年 1996年 2003年 2006年 2015年 2019年 2021年 2023年6 月	ストックホルム大学博士号（分析化学）取得 ストックホルム大学 化学部門研究所長 ブリガム・ヤング大学 化学部門（米国） 博士研究員 ブリガム・ヤング大学 化学部門助教 ブリガム・ヤング大学 化学部門准教授 ウプサラ大学分析化学部門（スウェーデン） 分析化学部 門主任教授 ウプサラ大学科学技術部門化学・化学工学研究科長 スタンフォード大学 化学部門（米国） 客員教授 チャルマース工科大学（スウェーデン） 学長兼理事長 チャルマース工科大学学長上級顧問 アルメニア・アメリカン大学学長兼理事長 デンマーク工科大学（DTU） 理事会議長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園学長・理事長
加藤 重治	2022年 4月1日 ～ 2025年 3月31日	1980年 1986年 1980年 1991年 1994年 1995年 1995年 1996年 1998年 1999年 2000年 2001年 2002年 2003年 2002年 2004年	東京大学工学部卒業 ハーバード大学公共政策学（修士号） 科学技術庁入庁 OECD 日本政府代表部一等書記官 科学技術庁放射線医学総合研究所企画課長 科学技術庁原子力局核燃料課バックエンド推進室長 国務大臣科学技術庁長官秘書官 科学技術庁長官官房秘書課企画調査官 科学技術庁科学技術政策局調査課長 文部省教育助成局海外子女教育課長 科学技術庁原子力安全局核燃料規制課長 経済産業省原子力安全・保安院核燃料サイクル規制課 長 理化学研究所フロンティア研究推進室長 理化学研究所企画部長 文部科学省科学技術政策局原子力安全課長 内閣府政策統括官（科学技術政策担当）付参事官（総

氏名	任期	主要経歴
		<p>括担当)</p> <p>2007年 経済産業省原子力安全・保安院審議官（実用発電炉担当）</p> <p>2009年 文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当）</p> <p>2011年 内閣府大臣官房審議官（原子力安全委員会担当）</p> <p>2012年 文部科学省国際統括官</p> <p>2014年 理化学研究所理事 特別補佐</p> <p>2015年 国立研究開発法人理化学研究所理事</p> <p>2017年 文部科学省科学技術・学術政策研究所所長（2017年12月退職）</p> <p>2018年 国立研究開発法人理化学研究所理事（2022年3月任期満了）</p> <p>2022年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園 副理事長・事務局長</p>
イエスパー・コール	2020年7月1日～2026年6月30日*	<p>1989年 SG ウォーバーク証券ジャパン マネージングディレクター兼チーフエコノミスト</p> <p>1994年 JP モルガン証券株式会社 マネージングディレクター兼チーフエコノミスト</p> <p>1997年 タイガー・ファンド・インベストメント・マネジメント マネージングディレクター</p> <p>1999年 メリルリンチ日本証券 マネージングディレクター兼チーフエコノミスト</p> <p>2008年 タンタロン・リサーチ・ジャパン 最高経営責任者</p> <p>2009年 JP モルガン証券株式会社 マネージングディレクター兼株式調査部長</p> <p>2015年 ウィズダムツリー・ジャパン株式会社 最高経営責任者</p> <p>2019年 ウィズダムツリー株式会社 シニア・アドバイザー</p> <p>2019年 オクターヴ・ジャパン株式会社 マネージングディレクター（現在に至る）</p> <p>ミズマー・ベンチャーズ アドバイザー（現在に至る）</p> <p>カタリスト投資顧問株式会社 シニア・グローバル・アドバイザー（現在に至る）</p> <p>2020年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事</p>

氏名	任期	主要経歴	
		7月	
小谷 元子	2014年 11月1日 ～ 2026年 10月31日*	1990年 1993年 1997年 1999年 2001年 2004年 2008年 2011年 2012年 2014年 2014年 11月 2020年 2021年	東京都立大学理学研究科 博士号（理学） マックス・プランク研究所客員教授 東邦大学理学部助教授 東北大学大学院理学研究科助教授 仏高等科学研究所（IHES）客員教授 東北大学大学院理学研究科教授 東北大学大学院理学研究科ディスティングイッシュト プロフェッサー 東北大学原子分子材料科学高等研究機構副機構長・教授 東北大学原子分子材料科学高等研究機構長 総合科学技術・イノベーション会議議員（非常勤） 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 東北大学理事・副学長（研究担当） 国際学術会議理事会（次期会長）
ヴィジェイ ラガバン・クリ シュナスワミ	2011年 11月1日 ～ 2026年 10月31日*	1983年 1984年 1986年 1988年 1998年 2005年 2009年 2011年 11月 2012年 2013年 2018年	タタ基礎化学研究所（インド）博士号（分子生物学） カリフォルニア工科大学（米国）リサーチフェロー カリフォルニア工科大学シニア・リサーチフェロー タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター 入所 タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター シニアプロフェッサー兼所長 首相府（インド）科学諮問委員会委員 ハワードヒューズ医学研究所（米国）ジャネリアファ ーム・リサーチ・キャンパス諮問委員会委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 ロンドン王立協会会員 タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター ディスティングイッシュトプロフェッサー インド科学技術省バイオテクノロジー局局长 インド政府主席科学アドバイザー（2022年4月まで）
野依 良治	2018年	1961年	京都大学 学士号

氏名	任期	主要経歴
	5月1日 ～ 2024年 4月30日*	1963年 京都大学 修士号 1967年 京都大学 博士号（工学） 1963年 京都大学工学部助手（1968年まで） 1968年 名古屋大学理学部助教授（1972年まで） 1969年 ハーバード大学博士研究員 1972年 名古屋大学理学部教授（2003年まで） 1997年 名古屋大学大学院理学研究科長・理学部長（1999年まで） 2001年 ノーベル化学賞 2002年 日本化学会会長（2003年まで） 2003年 名古屋大学特任教授（現在に至る） 2003年 独立行政法人理化学研究所理事長（2015年03月まで） 2005年 文部科学省科学技術・学術審議会会長（2015年まで） 2006年 教育再生会議座長（2008年まで） 2015年 独立行政法人理化学研究所フェロー（現在に至る） 2015年6月 国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター長（現在に至る） 2015年7月 公益財団法人日本科学技術振興財団科学技術館長（現在に至る） 2018年6月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
アルブレヒト・ワグナー	2022年 12月1日 ～ 2023年 6月30日*	1971年 ハイデルベルク大学（ドイツ）博士号（物理学） 1984年 ハイデルベルク大学教授 1991年 ハンブルグ大学教授 ドイツ電子シンクロトロン研究所（DESY）所長 1999年 DESY 理事会委員長 2005年 TESLA Technology Collaboration Board 委員長 2006年 将来加速器国際委員会（ICFA）委員長 2007年 ヘルムホルツ協会副会長 2008年 ハンブルグ大学評議委員会委員長 2010年 ヨアキム・ヘルツ基金委員 2011年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員 2015年 同 理事長臨時代理兼学長臨時代理 10月

氏名	任期	主要経歴
吉野 彰	2020年11月1日 ～ 2026年10月31日	<p>1972年 京都大学大学院工学研究科 修士課程修了 旭化成工業株式会社（現 旭化成株式会社）入社</p> <p>1982年 旭化成工業株式会社川崎技術研究所</p> <p>1992年 同 イオン二次電池事業推進部商品開発グループ長</p> <p>1994年 株式会社エイ・ティーバッテリー技術開発担当部長</p> <p>1997年 旭化成工業株式会社（現 旭化成株式会社）イオン二次電池事業グループ長</p> <p>2001年 旭化成株式会社 電池材料事業開発室 室長</p> <p>2003年 旭化成株式会社グループフェロー</p> <p>2005年 大阪大学大学院 工学研究科 博士（工学）取得</p> <p>2005年 同 吉野研究室室長</p> <p>2010年 技術研究組合 リチウムイオン電池材料評価研究センター理事長（現在）</p> <p>2015年 旭化成株式会社 顧問</p> <p>2017年 名城大学大学院理工学研究科教授（現在）</p> <p>2017年 名城大学名誉フェロー（現在） 旭化成株式会社 名誉フェロー（現在）</p> <p>2018年 九州大学グリーンテクノロジー研究教育センター訪問教授（現在）</p> <p>2019年 ノーベル化学賞 九州大学 荣誉教授（現在）</p> <p>2020年 国研）産業技術総合研究所フェロー</p> <p>2020年 エネルギー・環境領域 ゼロエミッション国際共同研究センター長（現在）</p> <p>2020年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 11月</p> <p>2021年 名城大学 特別荣誉教授（現在）</p>
川上 康	2023年5月25日～ 2026年5月24日	<p>1985年 株式会社琉球銀行 入行</p> <p>2000年 同行 人事部主任調査役</p> <p>2001年 同行 総合企画部企画総務課長</p> <p>2004年 同行 総合企画部次長</p> <p>2010年 同行 コザ支店長</p> <p>2012年 同行 営業統括部長</p> <p>2013年 同行 執行役員営業統括部長</p> <p>2014年 同行 取締役総合総合企画部長兼関連事業室長</p>

氏名	任期	主要経歴
		2016年 同行 常務取締役 2017年 同行 代表取締役頭取 2023年5月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事

*重任 **再任

(3) 評議員

氏名	任期	所属
モンテ・カセム	2011年11月1日～ 2026年10月31日*	公立大学法人国際教養大学理事長・学長
ゴヴァース 健二	2020年11月1日～ 2026年10月31日*	ベイン・アンド・カンパニー（東京オフィス）シニア・パートナー
安西 祐一郎	2020年11月1日～ 2026年10月31日*	日本学術振興会顧問
ラルフ・アイヒラー	2014年11月1日～ 2026年10月31日*	前スイス連邦工科大学チューリッヒ校学長
浜辺 美紀	2020年11月1日～ 2026年10月31日*	沖縄経済同友会代表幹事
フレデリック・ギルマン	2011年11月1日～ 2026年10月31日*	カーネギーメロン大学物理学部ブル理論物理学教授 カーネギーメロン大学マクウィリアム・コスモロジー・センター センター長
ギル・グラノットマイヤー	2021年6月1日～ 2024年3月31日	沖縄科学技術大学院大学副学長（技術開発イノベーション担当）
比嘉 伊作	2021年4月1日～ 2024年3月31日	沖縄科学技術大学院大学 財務担当副学長
東 良和	2020年5月1日～ 2026年4月30日*	沖縄ツーリスト 代表取締役会長
平澤 冷	2011年11月1日～ 2026年10月31日*	財団法人未来工学研究所理事長 東京大学名誉教授 北陸先端科学技術大学院大学経営協議会委員
キース・ホジソン	2014年11月1日～ 2026年10月31日*	スタンフォード大学化学部長
菅 大介	2020年11月1日～ 2026年10月31日*	チェリオコーポレーション専務取締役
川上 好久	2018年1月4日～	沖縄振興開発金融公庫理事長

	2027年1月3日*	
川崎 達生	2020年7月1日～ 2026年6月30日*	ユニゾン・キャピタル株式会社代表取締役
ナセル・カゼミニ	2017年11月1日～ 2026年10月31日*	ナショナル・エスニック・コーリション・オブ・ オーガニゼーションズ (NECO)
イエスパー・ コール	2021年3月1日～ 2027年2月29日	ユニゾン・キャピタル株式会社代表取締役
クリスティーン・ラ スカム	2022年9月1日～ 2025年8月31日	沖縄科学技術大学院大学 教授会議長
益戸 正樹	2018年1月1日～ 2026年12月31日*	内閣府沖縄振興審議会委員 Uipath 株式会社特別顧問
松本 良	2011年11月1日～ 2026年10月31日*	東京大学名誉教授 明治大学研究知財戦略機構特任教授
長浜 善巳	2015年2月19日～ 2026年10月31日*	恩納村村長
大嶺 満	2020年7月1日～ 2026年6月30日	沖縄電力代表取締役会長
ジェニファー・ ロジャース	2020年11月1日～ 2026年10月31日*	アシュリオンジャパン・ホールディングス合同会 社最高顧問弁護士
スコット・ルディセ ル	2021年4月1日～ 2024年3月31日	沖縄科学技術大学院大学 施設管理担当副学長
エイミー・シェン	2022年10月1日～ 2026年9月30日*	沖縄科学技術大学院大学 プロボスト
田中 信明	2014年11月1日～ 2026年10月31日*	元国連本部事務次長 ガイアコンタクト CEO
照屋 義実	2023年4月1日～ 2025年3月31日	沖縄県副知事
山崎 秀雄	2014年11月1日～ 2026年10月31日*	琉球大学理学部海洋自然科学科生物系教授
ヘザー・ヤング	2021年6月1日～ 2024年5月31日	沖縄科学技術大学院大学副学長（広報担当）
五十嵐 正和	2023年11月1日～ 2026年10月30日	MSD 製薬メディカルアフェアーズ スペシャリス ト
カミラ・ムスタフィ ーナ	2023年11月1日～ 2026年10月30日	マサチューセッツ工科大学生物工学部 博士研究 員
ルオ・イージュン	2023年11月1日～	中央研究院生物多様性リサーチセンターアシスタ

	2026年10月30日	ントリサーチフェロー 国立台湾大学生命科学部 准教授
臼井 彩香	2023年11月1日～ 2026年10月30日	バルセロナ大学宇宙科学研究所 (ICCUB) 博士研究員
嘉数 悠子	2023年11月1日～ 2026年10月30日	TMT 国際天文台 教育普及マネジャー
ダンカン・クラーク	2023年11月1日～ 2026年10月30日	BDA Partners 株式会社 会長
成田 信治	2024年2月1日～ 2026年1月31日	沖縄科学技術大学院大学副学長 (人事担当)

*理事兼任者

*重任 **再任

II. 業務実績報告

別紙「令和5(2023)年度業務実績報告」のとおり。

令和 5（2023）年度

業 務 実 績 報 告

自 令和 5 (2023) 年 4 月 1 日

至 令和 6 (2024) 年 3 月 31 日

第 1 章 教育研究に関する事項				
1.1 博士課程 目標 (1)	科学分野における世界トップレベルの教員の英知と最先端の研究機器を最大限に活用し、学生に対して傑出した学術プログラム及び研究トレーニングを提供します。			A
1.1 博士課程 取組 (1)	<p>(研究トレーニング)</p> <p>1101 学生が最先端の科学分野で授業や研究に必要なトレーニングに専念できるよう、授業やメンタリング、研究指導、試験等に関する事務手続を補助し、博士課程において優秀な成績をおさめられるよう支援します。</p> <p>1102 世界トップレベルの学園外研究者や外部試験官と関わる機会を提供し、博士課程における学生の研究機会拡大と成果向上を図ります。</p> <p>1103 学生が十分かつ適切な研究施設や設備の利用とITサポートを確実に受けられるように調整を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生による論文掲載数 学生による学外の奨学金獲得件数 論文計画書と学位論文の審査回数 博士課程修了者数 教員 1 人あたりの平均学生数 	<p>(研究トレーニング)</p> <p>1101 学術・研究トレーニングを促進し、プロセスと内容の見直しを継続して行いました。</p> <p>1102 機関協定による外部指導などを通して、学生が世界トップレベルの研究者と関わる機会を提供しました。外部試験官の任命を含む博士論文審査手続きをサポートしました。</p> <p>1103 学内外の優れた研究施設や備品を備えた教育環境を提供しました。</p>	
	<p>(カリキュラム)</p> <p>1104 準正課プログラムを含めたカリキュラムの深化・発展に向けて、多様な授業科目の増設及び厳選を図ります。</p> <p>1105 オンラインコースを含め、様々な授業形態の導入と支援を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主要授業科目数 主要科目以外の授業科目数 (ミニコース及びキャリア開発のための活動) 学外授業の受講に対する単位付与数 	<p>(カリキュラム)</p> <p>1104 当該年度は、72 の選択科目を提供し、うち 9 科目は新規科目として導入しました。また、プログラミングやプロジェクト・マネジメント、データ分析、純粋数学理論など 5 つの修了単位に含まれないミニコースをも提供しました。</p> <p>1105 通常の実験科目では提供しない分野について、29 の個別指導の機会を提供しました。また、外部事業者が提供するオンラインコースを利用し、専門性を高めるた</p>	

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己評価
	<p>1106 カリキュラムの見直しを行い、受講時期や内容の最適化を図り、教育の更なる効率化を進めます。</p> <p>1107 教育リソースの開発と教育・学習への取組を改善することにより、より質の高い学習体験を学生に提供します。</p>	<p>・ リサーチ・インターンの人数</p>	<p>めの自主学習の機会として提供しました。</p> <p>1106 コース内容や受講条件等を含めたカリキュラムの見直しを行い、受講希望者のニーズとのギャップを特定したことで、新たなコースの開発や指導者の確保に役立てました。</p> <p>1107 教育・指導スキルの向上を目的に、教員を対象としたワークショップやリトリートを開催し、加えて新任教員を対象に、コース指導の支援をしました。カリキュラムの見直しにより、提供方法の改善、コース受講の必須条件や予備知識などについて、より均一な情報提供を行う改善策が分かりました。また、全学生を対象としたプロフェッショナルキャリア開発プログラムに、個別能力開発計画策定プロセスを組み込みました。</p>	
	<p>(リサーチ・インターンシップ)</p> <p>1108 潜在的な研究能力が高い優秀な学生に対して、リサーチ・インターンシップ・プログラムの履修機会を提供します。</p>		<p>(リサーチ・インターンシップ)</p> <p>1108 リサーチ・インターンシップの履修機会を提供し、89名のインターン生を受け入れました。4月と10月に行った選考には6,500以上の応募がありました。</p>	
1.1 博士課程 目標 (2)	<p>学生個々のニーズを理解し、学修ならびに個人及びプロフェッショナルとしての成長を力強くサポートします。</p>			A
1.1 博士課程 取組 (2)	<p>(学生支援)</p> <p>1109 学生が学業に専念できるよう、転居手続、渡航準備、住居、語学支援、緊急時対応、経済的支援など、学生のニーズに応じて多様で柔軟な支援を提供します。</p>	<p>・ プロフェッショナルキャリア開発に関する取組の件数とその内容</p>	<p>(学生支援)</p> <p>1109 移転や出張などの渡航サポートを引き続き提供しました。また、個別相談や代理行政申請手続き、語学支援、生活環境整備、緊急対応等、学生に対する支援を</p>	

	<p>1110 学生に安全で健全な環境を提供するため、学生が抱える問題の早期発見を積極的に推進し、全学的な連携を円滑に進めるとともに、学生とのコミュニケーション向上を図るなど、包括的な支援体制を講じます。</p>	<p>・ 博士課程学生の定着率及び卒業までに必要な時間</p>	<p>幅広く提供しました。</p> <p>1110 個別の相談に応じたり、解決策や必要なサポートを迅速に提供するなど、学生の福利厚生と学業の両面から積極的に支援しました。</p>	
	<p>(プロフェッショナルキャリア開発)</p> <p>1111 多様なキャリア形成の機会に備え、プロフェッショナルキャリア開発プログラムの提供を通じて学生の進路選択を支援します。</p> <p>1112 プロフェッショナルキャリア開発プログラムを専門的能力開発に関する全学的な取組体制の中に組み込み、職員及び学生の成長、ひいては沖縄を含めた日本全体の発展につなげていきます。</p> <p>1113 キャリアの初期段階にある学生に対して、会議やワークショップの開催、他の研究機関への訪問、キャリアイベントの実施、学園外講演者の招聘を含むネットワーク構築の機会を提供し、若手研究者として活躍できるよう支援します。</p>		<p>(プロフェッショナルキャリア開発)</p> <p>1111 バーチャル・キャリアイベント、企業説明会、科学論文指導、助成金申請書作成ガイダンスなどを含む 66 のプロフェッショナルキャリア開発の機会を提供しました。</p> <p>1112 プロフェッショナルキャリア開発プログラムとして、OIST イノベーション、C ハブならびに研究ユニットと協働し、専門能力開発の機会を提供しました。</p> <p>1113 当該年度は、5 回の企業説明をはじめ、多様なネットワーキングの機会を提供しました。</p>	

令和 5 (2023) 年度事業計画			令和 5 (2023) 年度業績	自己評価
	<p>1114 学生に対して外部資金獲得等の公募情報を提供し、情報管理、申請書類の書き方、面接対策、申請に関する明確なガイダンスの提供を含む一連の申請手続を支援します。</p> <p>1115 学生に対して国内及びグローバル社会の発展に資する研究成果の実用化に必要なスキル習得機会を提供します。</p> <p>1116 コミュニケーション等の知的スキルを習得・強化するためのトレーニングを学生に提供します。</p> <p>1117 沖縄を含む国内の他大学との交流機会（学生交流、ネットワーク構築、教育経験等）を学生に提供します。</p>		<p>1114 学生による日本学術振興会特別研究員申請のため、申請書作成のワークショップを開催し、関連情報を適時適切に提供しました。また、Google 奨学金、日本学術振興会育志賞、T.バナージ・インディアン学生奨学金、戸部眞木奨学金への申請をサポートしました。 添付資料 1.1-1 外部の奨学金等を獲得した学生数</p> <p>1115 プロフェッショナルキャリア開発プログラムにおいて、地域社会とかかわりを必要とするグループ・プロジェクトや、信頼性の高いインパクトを社会に提供できる機会とスキルを身に着ける機会を提供しました。</p> <p>1116 すべての学生に、ビジュアル・コミュニケーション研修、助成金申請書の書き方に関するワークショップ、科学的な論文執筆に関するプログラムなどを提供しました。当該年度は、79名の学生が参加しました。</p> <p>1117 修了生との交流会や企業説明会に加え、当該年度は、博士人材育成コンソーシアム (CCDP) を通じ、県内大学における 2 件の講義の機会とその他 10 件のイベントに参加する機会を提供し、35名の学生が参加しました。また、3名の学生が九州大学で開催された研究口頭発表セミナーに参加しました。</p>	
1.1 博士課程 目標 (3)	沖縄、日本、世界との相互利益を促進するために、他の教育機関や地域社会とのさらなる連携・協働を図ります。			A
1.1 博士課程	(学生の連携) 1118 リサーチ・インターンや特別研究学生、共同研究	・ 国内外からの博士課程志願者数	(学生の連携) 1118 学生の研究成果を向上させるため、共同研究指導	

<p>取組 (3)</p>	<p>指導、スタディ・リーブ（他教育・研究機関における技術・知識習得期間）を含めた多様な交流機会を促進し、他大学との協働関係の維持・拡大に努めます。</p> <p>1119 沖縄県在住の学生や沖縄県にゆかりのある学生に対して学園の知名度向上を図るために、様々なワークショップやイベントを開催し、博士課程及びインターンシップ・プログラムへの応募につなげていきます。</p> <p>1120 個々の学生が沖縄との結びつきを強め、相互利益関係を強化していけるよう沖縄の環境や地域に密着した交流活動の充実・推進を図ります。</p> <hr/> <p>（学生募集活動）</p> <p>1121 多様なバックグラウンドを有する世界トップクラスの優秀な学生を獲得するため、募集活動の多様化を進めます。博士課程及びリサーチ・インターンシップ・プログラムを提供します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外からの博士課程入学者数 ・ リサーチ・インターンシップ・プログラム応募者数 ・ 受け入れたリサーチ・インターン生の数 ・ リサーチ・インターンシップから博士課程への進学プログラム応募者数 ・ リサーチ・インターンシップから博士課程への進学プログラムを通じて受け入れた学生の数 ・ 交流機会に係る他大学との協定締結数 	<p>を促進し、また、他大学との協働関係の維持や新たな協定を締結することで、より一層の関係拡大に努めました。</p> <p>添付資料 1.1-2 学術交流協定一覧</p> <p>1119 沖縄県内の学生 15 名を招待し、島の持続可能性について学ぶワークショップ「SHIMA」（2023 年 8 月）を開催しました。また、「OIST サイエンスチャレンジ 2024」（2024 年 3 月開催）を開催し、国内から合計 25 名の学部生及び修士課程の学生（うち、3 名は沖縄県内の学生）を招待しました。</p> <p>その他、県内外の STEM に特化した高校（SSH 校）の生徒を対象に、本学で行われている様々な研究活動を紹介したほか、出前講座として、球陽高校と開邦高校を訪問し、科学者としてのキャリアを紹介する講演を行いました。</p> <p>1120 プロフェッショナルキャリア開発プログラムにおけるグループ・プロジェクト「沖縄 101 セッション」やオリエンテーションを通じて、学生が沖縄のコミュニティと関わる機会を提供しました。また、SDGs の取組を通じて恩納村や沖縄県と連携する機会を設けました。</p> <hr/> <p>（学生募集活動）</p> <p>1121 リサーチ・インターンシップ・プログラム及び博士課程プログラムへの応募を促進するため、当該年度は以下の学生募集活動を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - OIST ネットカフェ（オンライン説明会 6 回） 	
----------------------	---	---	--	--

1122 研究科オフィス主催行事参加者に関する情報を維持管理します。

(科学教育アウトリーチ活動)

1123 学園のブランド力向上を図り情報発信を強化し、大学院大学の教育プログラムに関する認知度を高め、募集対象者の関心を惹きつけます。

1124 独自あるいは外部機関と連携し、地域や全国のSTEM分野に関心のある中高生を対象に、さまざまな科

- 64 の国と地域から 600 名以上が参加。
- OIST カフェ (於：東京 2 回)
国内の学生を対象とした対面式の説明会
 - OIST サイエンスチャレンジ 2024 ワークショップ
国内の学部生及び修士課程の学生を 25 名招待
 - 海外の大学及び大学院フェアでの説明会 (於：英国の大学 3 回、大学院フェア 2 回)
海外の学生を対象とした対面式の説明会

当該年度は、リサーチ・インターンシップ・プログラムに 6,500 名以上、博士課程の応募に 1,300 名を超える応募がありました。

添付資料 1.1-3 学生に関する情報

1122 学生募集活動にかかる各イベントの参加者情報を維持管理しました。

(科学教育アウトリーチ活動)

1123 本学で実施しているリサーチ・インターンシップ・プログラムや博士課程プログラムに関する情報をウェブサイトへの掲載のみならず、ニュースレターとして学生の活躍についての紹介や今後のイベント情報を含め、希望者に送付しました。また、ソーシャルメディアに本学の研究活動などについて投稿し、国内外の潜在的募集対象者に向け情報を発信しました。

1124 学外機関とも連携し、STEM 分野に関心のある中高生を対象としたイベントを実施しました。

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己 評価
	<p>学教室やワークショップなどの活動を行います。</p> <p>1125 科学教育アウトリーチ活動を通じて、コミュニケーションや情報共有を強化することにより、中高生の OIST の活動への参画を強化します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> - 沖縄県外の高校による本学への訪問 (14 校) - 沖縄県内の高校におけるキャリア講演 (2 校) - オンライン科学講義 (2 件) - 科学体験ワークショップ (2 件) <ul style="list-style-type: none"> ・ 「SHIMA」(那覇米国総領事館と共同) ・ 「九州大学未来創成科学者育成プロジェクト (QFC-SP)」(九州大学と共同) <p>1125 高校生や大学生向けのアウトリーチ活動に加え、恩納村立うんな中学校の科学部を対象に、講演や授業を行いました。</p>	
1.1 博士課程 目標 (4)	大学院大学の成長に合わせて、研究科オフィス機能の業務効率化、記録・方針のキュレーション (情報収集・整理)、コミュニケーションの改善を一貫して行います。			A
1.1 博士課程 取組 (4)	<p>(方針・プロセス管理)</p> <p>1126 学園内の方針、規則、及び手順の改定を恒常的にを行い、教員や学生と協力しながら博士課程の運営における効率性と有効性の向上を図ります。</p> <p>1127 規則・制度等の変更について、その管理と内外に向けた伝達の改善を図ります。</p> <p>1128 学生に関する情報記録管理体制の改善と、縦断的データの集約・分析・可視化を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生及び教員とのミーティング件数とその内容 	<p>(方針・プロセス管理)</p> <p>1126 教員・研究科間連絡委員会、教授会、カリキュラム審査委員会、学生委員会など関連する教員や学生団体組織と協力し、方針や規則を見直し、改訂しました。</p> <p>1127 規則・制度等の変更について、各事項に係る関係者が事前に最新情報や説明を受けられるようにしました。</p> <p>1128 データの収集、可視化、分析などの記録管理の点で改善されたデータベースを開発しました。</p>	

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己評価
	<p>(業務効率化とプロセスの再構築)</p> <p>1129 ワークフローとプロセスの再編及び関連ソフトウェアの導入により、業務の効率・能率向上を目指します。</p> <p>1130 個々の職員の能力開発計画を策定し、専門的な能力開発や自己成長のための研修、その他の機会を提供し、職員の成長を支援します。</p>		<p>(業務効率化とプロセスの再構築)</p> <p>1129 データの自動記録とオンライン承認を含むワークフローの開発により、職員の作業負担を軽減しました。</p> <p>1130 オンライン教材の利用を含め、就業時間の最大5%を個人の能力開発に費やすことを奨励しました。</p>	
	<p>(コミュニケーション)</p> <p>1131 相互理解の促進ならびにサービスの質向上に向け、学生、教職員、及び関係部局間の柔軟なコミュニケーションの継続的な促進を図ります。</p> <p>1132 研究科オフィスのウェブサイト充実させ、入学希望者や学外に向けた情報発信力の強化を図ります。</p>		<p>(コミュニケーション)</p> <p>1131 博士課程1年目の学生を対象とした研究ユニットの選択に関する説明会に加え、「試験に関する手順の説明会」を追加し実施しました。また、リサーチ・インターンを対象としたオリエンテーションを毎月開催し、日本の法律や学生規範などを説明し、滞在中の規律の確認を行いました。</p> <p>学生データベースの新しいプラットフォームへの移行が完了し、学業進捗のナビゲーションを強化するとともに、教職員学生への情報提供を向上させるツールを導入し、コミュニケーションのさらなる促進に取り組みました。</p> <p>1132 入学案内のウェブサイトにて、出願期限や入学手続き、カリキュラムの構成変更に関する情報について適時適切に更新しました。</p>	
1.2 研究活動に関する事項	世界最高水準の学際的な研究を推進します。基礎研究を通じて、新たな知見を追求することに尽力します。また、様々な国や地域から集まった学生・ポスドク等に対し教			A

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己評価
目標	育訓練を実施します。相互の連携を促す環境の整備、最先端の設備・機器の提供、ならびに定期的実施される厳格な研究評価制度等により、優秀な教員や学生、研究員を奨励し、高いモチベーションを維持するよう支援します。引き続き、重要な発見につながり、社会のニーズに応え、社会に有益な基礎的・応用的な研究を推進します。			
1.2 研究活動に関する事項 取組	(学際的研究の促進) 1201 新規ユニット立ち上げを支援します。 1202 教員のジェンダーバランスを改善するために、女性教員の採用に取り組みます。 1203 教員による昼食時間を利用した講義により、異なる分野のユニット間の交流を促進し学際的な研究につなげます。	<ul style="list-style-type: none"> 研究者の数（教員、ポスドク、技術者及び学生） 研究評価に関するサンフランシスコ宣言（DORA）に基づく内部質保証の基準による研究成果の評価 複数教員による共同出版数 研究に関する受賞数 研究助成金の獲得数と金額 学園研究施設の学園外利用者数と金額 	(学際的研究の促進) 1201 3つの新規ユニットの立ち上げを支援しました。立ち上げに必要な手順を精査し、新規教員が要請したリソースが利用可能かなど確認しながら、他部署と協力しプロセスを改善しました。 1202 教員採用委員会（ファカルティ・サーチ・コミッティー）及び全教員対象の研修プログラムを実施し、教員のジェンダーバランスの改善・ダイバーシティ向上に取り組みました。その結果、応募段階で16%（1,411人中228人）だった女性候補者の割合が、面接段階では52%（21人中11人）にまで増加しました。最終的な内定は今後数ヶ月以内に出される予定です。 1203 当該年度は、教員が自身の研究を互いに紹介する内容のファカルティ・リトリートを実施し、異なる分野のユニット間交流を促進することで、学際的な研究を推進しました。また、教員によるセミナー・ワーキング・グループを立ち上げ、全学的に学際的な研究を促進できるようなコロキウム・シリーズを提案し、開催に向けた準備を始めました。	

1204 図書館は電子リソースを積極的に収集し、必要なコンテンツにリモートアクセスできるようにするとともに、学術情報を効率的に検索するためのインフラを整備します。

1205 国内の他大学との共同研究の強化と、本学園では補えない研究分野の学生の指導向上を目的として、他大学連携教員による授業や学生指導を実施します。

(研究活動の支援)

1206 コアファシリティ (共用研究施設) の効率的な運用や専門的な人材の育成に努め、研究者が世界最高水準の学際的な研究を推進できるよう、その利用促進に努めます。

1207 第 5 研究棟内のコアファシリティの整備を継続します。

1208 研究倫理のさらなる向上に向け、研究倫理に関する専門家を招聘し、研究倫理セミナーを開催するなど、研究倫理教育の徹底に努めます。

- 研究支援ディビジョン、プロボストオフィス及び研究担当ディーンオフィスが主催した科学会議の数 (回数、参加者数)

- 研究支援ディビジョンがコアファシリティを使用して行った共同研究の数 (数、訪問者数)

- 研究支援ディビジョンがコアファシリティを使用して、学園外の研究者・学生に実施したトレーニングコースの数 (数、参加者数)

1204 世界最大の書誌データベースと国内の図書館システムを連携し、利用者に検索ツールと貸出サービスを提供しました。電子リソースの充実にも力を入れ、新規ジャーナル 5 誌を含む電子ジャーナル 7,234 誌、電子書籍 154,769 冊へのアクセスを提供しました。

1205 連携教授の長瀧重博氏 (理化学研究所所属) が、本学の教員では通常開講していない「恒星物理学 (Stellar Physics)」の授業科目を実施しました。

(研究活動の支援)

1206 コアファシリティの機能を学内外の利用者にさらに効果的にアピールするため、ウェブサイトの更新やパンフレットを作成しました。また、コアファシリティの効率性を向上させるため事務サポートの統合を進めました。

1207 第 5 研究棟の主要なコアファシリティ 2 施設 (クリーンルーム・実験動物飼育施設) の稼働に必要な機器の設置を完了しました。クリーンルームには、様々な化学薬品を取り扱うために必要な局所排気装置 (ヒュームフード) を設置し、実験動物飼育施設の運用に欠かせない器具の洗浄装置の設置が完了しました。

1208 すべての研究員に対し、オンライン必須研修として「責任ある研究行為」を、大学院生に対しては、C ハブ・エグゼクティブ・ディレクターによる研究倫理教育を必須研修として提供し、その理解の徹底に努めまし

令和 5 (2023) 年度事業計画

令和 5 (2023) 年度業績

自己
評価

1209 教員、研究者、学生への外部研究資金申請・管理に関する支援を強化し、公募情報についても継続して情報入手、学園内に配信します。また、共同研究を促進するための支援プログラムを提供します。

1210 令和 4 年度に文部科学省「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)」で採択された「心・体・環境の健康」を基盤とした持続可能型社会を実現するグローバル・バイオコンバージェンスイノベーション拠点における研究開発プロジェクトを着実に推進します。

1211 政府が掲げる「量子未来社会ビジョン」(令和 4 年 4 月統合イノベーション戦略推進会議策定)に基づき、「量子技術イノベーション拠点」の体制強化を担うため開設された「OIST 量子技術センター」において、国際的な環境の下で、学際的な研究とイノベーションを推進していきます。

1212 コアファシリティの学園外利用を促進し、外部資金の多様化を図る他、国内外のコアファシリティネットワークを強化します。

(研究内容・成果の発信・公表)

1213 教員が重要かつ新しい研究結果を発表した場合、学園の広報ディビジョンに連絡するよう教員に勧めま

た。

1209 共同研究を促進する学内研究助成金「SHINKA」の新規公募を行いました。

1210 令和 4 年度に文部科学省「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)」で採択された「心・体・環境の健康」を基盤とした持続可能型社会を実現するグローバル・バイオコンバージェンスイノベーション拠点における研究開発プロジェクトを着実に推進しました。

1211 OIST 量子技術研究センターは、「量子未来社会ビジョン」に基づき、国際的な環境の中で学際的な研究とイノベーションの推進に努めました。根本香絵教授と本学の他の主任研究者によって、産学連携による量子人材の育成を目的とした「戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)」に採択されました。

1212 コアファシリティの学園外利用を促進し、外部資金の多様化を図った他、コアファシリティに関する情報を他機関と共有し、ネットワークを強化しました。

添付資料 1.2-1 令和 5 年度 OIST 研究施設学外利用者

(研究内容・成果の発信・公表)

1213 機関レポジトリは、研究成果を世界へ発信するための主要な手段であり、レポジトリへの論文登録を促進

す。文部科学省を含む政府機関への提出資料を含め、最も重要な学園の研究成果については、ネイチャーインデックスや同様の比較研究データを用いて記録をまとめます。ウェブサイトに学術誌に発表された論文に関するニュースを掲載します。また機関レポジトリへの論文登録にも力を入れます。

1214 学園について、ウェブサイト記事、プレスリリース、記者会見、記者懇談会、出版物や電子ニュースレター、ソーシャルメディア、幹部によるコミュニケーションや注目を引くような情報発信の機会等を活用して、国内外の科学学術関係者、一般への分かりやすい情報発信に努めます。

- 効果的なメディア戦略の実施で国内外の主要メディアでの露出を増やします。最新の科学成果に関するプレスリリースや記事、幅広い層が関心を持つ活動について、記者クラブ、及び主要なリリース配信会社など既存のルートを通じて沖縄県内や国内外のメディアに向けて配信します。
- 日本の他学術機関と協力してグローバルなネットワークを維持し、国内外の科学広報分野での貢献を高めます。
- ソーシャルメディアやその他のデジタルチャネルを引き続き強化していきます。

しました。各研究ユニットのウェブサイトで、研究成果を含む年次報告書を公表しました。その他、当該年度は、ユニットのウェブサイトを改善しました。

添付資料 1.2-2 OIST 論文・発表数

1214 研究、教育、イノベーションを含む本学に関する情報をさまざまな方法で発信するとともに、ネットワークの拡充と強化に努めました。

- 日英両言語での記事執筆・発信：94 本
- 記者会見：12 回
うち 1 件は、ニコニコ生放送の協力のもと、サンゴに関する最新の研究成果記者説明会をオンライン配信。1,600 名以上が視聴。
- イベントへのメディアの招待
- 報道機関とのミーティング：26 回
- 取材対応：102 回

当該年度は、多くのテレビ番組や新聞などで取り上げられ、本学の認知度の向上に大きくつながりました。

- テレビ番組「1 億人の大質問!?笑ってコラえて!」(日本テレビ系列) (6 月・11 月)
研究や学生へのインタビューなど。
- テレビ番組「きんくる～沖縄金曜クルーズ～」(NHK 沖縄)
生物学者で作家の福岡伸一氏のナビゲートによる OIST 特集

- 日本経済新聞「直言 Think with NIKKEI」第 1 回インタビュー（学長）
経営者や著名人を取り上げる大型インタビューシリーズ

沖縄関連の研究成果については、特に力を入れてプレスリリースとして報道機関に提供したことで、多くの注目を集めることができました。

- 「OIST が恩納村と開発した新種の高機能米の名称を「ちゅらおとめ」に決定」（6 月 28 日）
- 「世界初最新のゲノム情報を駆使したサンゴ礁保全プロジェクト「OIST サンゴプロジェクト」が始動」（7 月 11 日）
- 「うちなーぐちで「とびはねるアリ」をなんという？」（9 月 14 日）
- 「サンゴ礁に生きる小さな精霊 – 沖縄本島沿岸で新種の新種ヒメイカ 2 種を発見」（10 月 24 日）

また、国内外の科学コミュニケーターを対象としたイベント「Japan SciCom Forum」を 11 月 21 日から 22 日にかけて本学で開催した他、国内の研究機関や大学の広報担当者で構成される「科学技術広報研究会（JACST）」への参画、また、第 78 回国連総会にあわせてニューヨーク及びオンラインで開催された「科学サミット」に参加しました。さらに、九州大学とサイエンスコミュニケーション能力の向上を目的とした共同セミナーを開催しました。

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己評価
	<p>1215 学園の発展や成功に教職員及び学生が貢献できるよう、進捗状況や課題、達成状況について学内での情報周知を行う学内コミュニケーションチャンネルを強化していきます。</p> <p>1216 学術的地位をより強固なものとするために、国内外の研究者等との遠隔会議やセミナー等を円滑に遂行できるよう、教職員及び学生に対して充実した技術支援と適切なマニュアル及びトレーニングを提供します。</p>		<p>1215 学内コミュニケーションチャンネルを強化するため、学内ディスプレイモニターの更新、OIST ティータイムの回数拡大（月 1 回から 2 回）、学内ニュースレターの毎週月曜日の発行、全学的なエンゲージメントアンケートの企画・実施など、学内広報活動を通じて教職員や学生と広く情報を共有しました。</p> <p>1216 当該年度は、ハイブリッドセミナー（オンサイト及びオンライン同時開催）が多くあり、ライブ配信やオンラインセミナー開催を支援するとともに、必要に応じて主催者への事前トレーニングを提供しました。また、昨年度に引き続き、仮想空間でのコミュニケーションを促進するオンラインイベントに関するツールや機能を提供しました。</p>	
1.3 教員関係 目標	<p>卓越した学識と独創性のある研究を行い、学際的な研究に興味を持つ優れた能力を有する、全てのレベルの教員の採用活動を行います。また、教員評価、教員関連のミーティング、研究ユニットのスペース配分、研究者の採用や人事管理を行います。更に、教員や研究員のキャリアアデベロップメントやビジタープログラムなど、卓越した研究基盤強化のための活動を推進します。大学図書館、及びその他教員や研究員に関連する事項も推進します。また、全職員にキャリア開発プログラムを提供するとともに、学園内の全研究データの適切な記録・管理の徹底に取り組みます。</p>			A
1.3 教員関係 取組	<p>（教員の採用）</p> <p>1301 予算と研究スペースを考慮しながら戦略的な採用活動を行います。</p>	<p>・ 研究評価を実施した研究ユニット数</p>	<p>（教員の採用）</p> <p>1301 予算や利用可能な研究スペースについて、学内で検討し、戦略的に採用活動を行いました。</p>	

令和 5 (2023) 年度事業計画			令和 5 (2023) 年度業績	自己評価
<p>(教員・研究評価の実施)</p> <p>1302 雇用契約の交渉又は任用された教員が対象となる新テニュア審査を、国際的に高い水準において実施します。</p> <p>1303 4名の教員がテニュア審査、2名の教員が昇進審査を受ける予定です。</p> <p>1304 10の研究ユニットが研究ユニット審査を受ける予定です。</p> <p>1305 業績評価は、教員担当学監（必要であればプロボスト）が教員の研究、教育活動、大学行政サービスへの貢献、また外部資金の獲得などの項目について評価を行い、給与及びその他のリソースに反映させます。ただし（大学としての総計値とは異なり）、教員の個人的業績評価は学園外には公表されません。さらに教員が研究結果や研究活動について、ウェブサイトや年次報告書に掲載するよう、教員に働きかけます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ テニュア審査及び昇進審査の数 ・ 機関レポジトリへの論文登録数 	<p>(教員・研究評価の実施)</p> <p>1302 国際的に高い水準において、外部評価者による教員評価を行いました。</p> <p>1303 予定した4名の教員のうち、3名のテニュア審査を行いました。残りの1名については、令和6年度に行われるユニット審査に合わせ、実施時期を変更しました。その他、2名の昇進審査を行いました。</p> <p>1304 学外審査委員会で、8件のユニット審査がオンラインで行われました。2件のユニットは翌年度に開催される現地審査に変更となりました。</p> <p>1305 専任教員を対象に、年次業績評価を実施しました。教員の研究、教育活動、大学行政への貢献、外部資金の獲得などの項目について評価を行いました。また、研究事業に投じられた公費について、国民に対する説明責任を果たす観点から、各ユニットの年次報告書の更新状況や機関レポジトリへの論文登録数（オープンアクセス率）についても評価を行いました。また、責任ある研究行為に関しての研修履修状況の確認を行いました。</p> <p>添付資料 1.3-1 令和5年度研究に関する受賞実績 添付資料 1.3-2 令和5年度アウトリーチ活動実績</p>		
<p>(研究成果レポート)</p> <p>1306 オープンアクセス推進の取組を強化し、機関レポ</p>		<p>(研究成果レポート)</p> <p>1306 当該年度に本学の機関レポジトリ (OISTIR) に公</p>		

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績	自己評価
<p>ジトリへの登録論文数の増加を図ります。</p>		<p>開された論文は、296 件、総数 2,234 件でした。成果物のオープンアクセス率は毎年 90% 台の維持を保っており、研究成果を積極的に発信しています。</p>	
<p>(シニアレベルの教員の任用と定年)</p> <p>1307 定年を超えても研究延長に相応しいと認められ、かつ学長から申し出があった教員は厳格な審査を経て、研究の継続を検討します。</p>		<p>(シニアレベルの教員の任用と定年)</p> <p>1307 当該年度は、定年を超えた教員のユニット審査は実施しませんでした。</p>	
<p>(教員の能力開発)</p> <p>1308 令和 4 年度に設立した学園内の能力開発とキャリア支援を一元的に行う C ハブ (キャリアセンター) では、教員に研修プログラム、ワークショップ、リソース、個別カウンセリングを提供し、リーダーシップや管理能力、メンタリング、コミュニケーション、コラボレーション等の強化に取り組みます。</p>		<p>(教員の能力開発)</p> <p>1308 教職員及び学生の能力開発とキャリア支援の一環として、管理能力、メンタリング、コミュニケーションなどのベスト・プラクティスをまとめた「C ハブ・スポットライト」を公開しました。学内のみならず一般にも幅広く公開しました。</p> <p>その他、より公平・公正な採用となるよう、全教員を対象に「無意識のバイアス」研修を実施しました。</p>	
<p>(学生・研究員・事務職員の能力開発)</p> <p>1309 C ハブでは、教員のほかに、学生、研究員、事務職員の能力開発に取り組むため、リーダーシップ、管理能力、その他のスキル開発のための研修プログラムを提供します。</p>		<p>(学生・研究員・事務職員の能力開発)</p> <p>1309 学生とポストドクを対象に、指導法及びコースデザインに関する研修を提供し、27 名が受講しました。当該研修は、本学で初めてデジタル認定を導入したもので、対外的に受講したことを公式に示すことができるシステムを構築しました。</p> <p>C ハブが主催したプログラム及びコンサルテーションへの参加者数は、1,147 人でした (教員 : 38 人、研究者・ポストドク : 339 人、学生 228 人、事務職員 : 484 人)。</p>	

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己評価
	(アルムナイネットワーク (OAAN)) 1310 アルムナイ・アソシエーションネットワーク (OAAN) プラットフォームを活用し、在籍中の学生や職員が本学の同窓生や関係者と継続的に交流できる取組を行います。OAAN を通じて科学セミナー、ネットワークイベント、能力開発ワークショップやメンタリングプログラムを実施します。		(アルムナイネットワーク (OAAN)) 1310 オンライン及び地域ごとのイベントを設定することを想定し、プラットフォームの使用感について検討しました。	
1.4 世界的連携 目標	他大学や研究機関との合同シンポジウムやワークショップの開催、インターンの受入れ等を通じて、世界及び国内の科学コミュニティとの緊密なネットワークを構築します。先端的な基礎研究及び最優秀の科学者を育成することで社会向上を目指す研究大学院大学として国際的な知名度の向上を目指します。			A
1.4 世界的連携 取組	(世界的連携) 1401 沖縄を含む国内の他大学との交流機会（学生交流、ネットワーク構築、教育経験等）を学生に提供します。 1402 他大学・研究機関との交流・対話の促進等、ネットワーク強化のための活動に重点的に取り組むとともに、国内他大学におけるグローバル化促進や研究力強化等にも資するような連携方策等について検討を開始します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学が主催する国際ワークショップ及びコースの数 (14) ・ 国際ワークショップ及びコースの参加者からの感想・フィードバック ・ 国際的に競争力のある大学、研究機関との間で取組んだ新たなパートナーシッププログラムの数及び既存プログラムの拡 	(世界的連携) 1401 (1117 再掲) 修了生との交流会や企業説明会に加え、当該年度は、博士人材育成コンソーシアム (CCDP) を通じ、県内大学における 2 件の講義の機会とその他 10 件のイベントに参加する機会を提供し、35 名の学生が参加しました。また、3 名の学生が九州大学で開催された研究口頭発表セミナーに参加しました。 1402 パートナー機関とのワークショップ・セミナー、リサーチ・インターンシップ、サマーキャンプの企画・実行に取り組み、国内の大学生、若手研究者に対してグローバルな環境での研究経験を提供し、オンライン・オンサイトで国際的なネットワークの機会を提供することに努めました。若手教員らが国内他大学との連携活動に尽力し、若手研究者・学生の学際的・国際的交流の機	

1403 世界をリードする質の高い国際的なコースやワークショップを開催し、学園の学生や若手研究者が最先端の科学を学び、外部の優れた研究者と交流する機会を提供します。

- 大数
- RIKEN: シンポジウム 1 件、連携教員 1 名
 - 東京大学: オンライン・オンサイトハイブリッドのセミナー/ワークショップ 1 件
 - 東北大学: オンライン・オンサイトハイブリッドのセミナー/ワークショップ 1 件
 - 大阪大学: オンライン・オンサイトハイブリッドのセミナー/ワークショップ 1 件
 - 慶応義塾大学: オンライン・オンサイトハイブリッドのセミナー/ワークショップ 1 件
 - 京都大学: オンライン・オンサイトハイブリッドのセミナー/ワークショップ 1 件

- 会を増やしました。海外の研究機関との連携を開始し、国内外の研究機関間の協力体制を強化する取り組みを始動しました。これらの活動は、日本学術振興会による「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」の採択に貢献しました。
- 理研・東京大学: シンポジウム 1 件 (ハイブリッド)、連携教員 1 名
 - 東京大学: バイ・ラテラルセミナー 1 件 (ハイブリッド)
 - 大阪大学: セミナー 1 件 (オンサイト)
 - 慶應義塾大学: シンポジウム (ハイブリッド 1 件)、医学部生サマーキャンプ 18 名参加、長期リサーチ・インターンシップ 8 名
 - 東北大学: 国際シンポジウム 1 件 (ハイブリッド)、ワークショップ 1 件
 - 九州大学: シンポジウム 1 件 (ハイブリッド)
 - カリフォルニア大学サンタバーバラ校: シンポジウム 1 件 (オンサイト)
 - 国際コンソーシアム参加: 2 件 (オンサイト)

1403 当該年度は、OIST 国際ワークショップを 16 件、共催ワークショップを 1 件開催 (うち、12 件は対面形式、5 件はハイブリッド形式) し、1,076 名が現地参加、87 名がオンラインで参加しました。当該年度は、参加費として 9,052,900 円を徴収し、各種助成金・協賛費として約 110 万円を獲得しました。

[添付資料 1.4-1 OIST 主催によるワークショップ・ミニシンポジウム](#)

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己評価
	<p>1404 潜在的な研究能力が高い優秀な学生に対して、リサーチ・インターンシップ・プログラムの履修機会を提供します。</p> <p>1405 学生が学業に専念できるよう、転居手続、渡航準備、住居、語学支援、緊急時対応、経済的支援など、学生のニーズに応じて多様で柔軟な支援を提供します。</p>		<p>1404 (1108 再掲) リサーチ・インターンシップの履修機会を提供し、89 名のインターン生を受け入れました。4 月と 10 月に行った選考には 6,500 以上の応募がありました。</p> <p>1405 (1109 再掲) 移転や出張などの渡航サポートを引き続き提供しました。また、個別相談や代理行政申請手続き、語学支援、生活環境整備、緊急対応等、学生に対する支援を幅広く提供しました。</p>	
第 2 章 ガバナンス及び業務運営の透明性・効率性に関する事項				
<p>2.1 ガバナンス及び業務運営体制 目標 (1)</p>	<p>学園では、国内法人の伝統的な在り方とは異なり、学園法及び学園の寄附行為に基づき、学外理事を中心として理事会を構成しています。このような理事会は、学園及び大学院大学の業務運営に関し、最終的な責任を負います。また、評議員会は、地域社会の声を含め、幅広い意見を学園及び大学院大学の業務運営に反映させます。これらの二つの合議体が、法令及び学園の寄附行為に基づき、学園における透明で効果的なガバナンスを確保するために重要な役割を担います。これに対し、理事長・学長は、事業計画の実施についてリーダーシップを発揮し、理事会及び評議員会に対し説明責任を果たします。このように、理事会及び評議員会と理事長・学長との間の関係を適切に保つことによって、特色あるガバナンスを実現します。学園の寄附行為や PRP と、その他関連する法律と規則との一貫性を保ちます。また、学園の監事は業務運営の適切性・効率性が確保されるよう、海外の優れた事例との比較も取り入れ、厳格な監査を行います。</p>			A

2.1
ガバナンス及び業務運営体制
取組 (1)

(基本的な運営)

2101 定例の理事会を5月、9月・10月、2月に、定例の評議員会を5月、2月に開催します。5月の理事会においては、前年度の業務の実績を報告し、評価を行います。評価の結果は公開情報として内閣府へ報告されません。

2102 理事会及び評議員会は理事会運営委員会や分科会に重要な議題を事前に議論する機会を作るため、5月と10月の会議では、2日間の本会議以外に1日程度の事前会議を設けます。理事会運営委員会及び理事会と評議員会の分科会は事前会議の間に重要な事項について話し合い、また理事会運営委員会は教員評議会と会議を持つようにします。

2103 理事長・学長は、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画を着実に実施します。

2104 理事長・学長は隔週で開催される幹部会議等において、大学の重要なリスクの同定、対応策の策定及び実行を検討・準備し、これらを理事会に報告します。

(基本的な運営)

2101 定例の理事会は令和5年5月、9月及び令和6年2月に、定例の評議員会は令和5年5月と令和6年2月に開催されました。5月と9月の会議はハイブリッド(オンサイトとオンラインビデオ通話)、2月の会議はオンラインにて開催されました。5月の理事会会議では令和4年度の実績と成果が報告され、評価されました。この評価結果は内閣府に報告するとともに、本学ウェブページにて公開しました。

2102 各理事及び評議員の役割に焦点を当てた議論を深めるため、5月に理事会の分科会、5月及び9月に全理事会常任委員会を開催しました。当該年度理事会は、学長報告と理事及び評議員の選任について協議・投票するため、6月に臨時会議を開催しました。評議員会は2月の理事会に先立ち、10月に監事の選任・再任に関する臨時会合を開催しました。

2103 理事長・学長は、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画を着実に実施しました。

2104 新学長の戦略策定、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」の全学での計画的な執行等のため、原則毎週幹部会議で所要の審議を行いました。各幹部から理事会への報告については、簡潔明瞭を旨とし、理事会での議論求める事項を明らかにするなど新たなフォーマットを導入しました。

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績	自己評価	
	<p>2105 監事は、事前に作成する監査計画に基づき、内部監査や会計監査とも連携しつつ、予算執行、調達・入札、法令順守の状況をはじめ、業務全般について厳格な定期監査を実施するとともに、必要に応じて、臨時的監査を行います。監事は、監事体制の強化を踏まえ、より充実した監査を行うとともに、適切な形で中立性を維持しつつ、大学の他の役員や幹部職員との効果的なコミュニケーションを図ります。監事には、その活動に必要な十分な情報及び人的支援を提供します。監査計画及び監査結果については、理事会での報告等を通じて、業務運営への反映を促します。</p>		<p>2105 監事は、令和 5 年度の監事監査に関する計画を定め、「令和 5 年度の監事監査について」として令和 5 年 11 月理事長に通知し、当該計画に基づき、令和 6 年 4 月までの期間に定期監査を実施しました。定期監査の実施に当たっては、内部監査及び会計監査人監査との連携や活発な議論を行い、各ディビジョンと実際の業務プロセスについて、丁寧に意見交換や議論を行うことに留意しました。監事監査結果は、令和 6 年 5 月に開催予定の理事会及び評議会で報告予定です。</p> <p>また、定期監査以外の場において、副学長等の幹部職員と積極的に意見交換を行うとともに、会議へは原則として対面で参加し、決裁案件の回付等も含めた各種の手段により情報を入手するなど、本学の業務運営状況のさらなる把握に努めました。</p>	
<p>2.1 ガバナンス及び業務運営体制 目標 (2)</p>	<p>世界水準の国際的な大学院大学の効果的な運営に相応しい、海外の優れた事例を踏まえた事務組織の構築に努めます。また、予算執行及び業務運営について国への説明責任を果たすために、内閣府と密接なコミュニケーションを図ります。</p>			A
<p>2.1 ガバナンス及び業務運営体制 取組 (2)</p>	<p>(事務事業の構築)</p> <p>2106 理事長・学長、副理事長、他の幹部による会合を定期的に実施し、情報共有を促進するとともに業務運営の状況を確認します。また、大学の幹部と教授会による会議を隔月毎に開催し、上層幹部と教授間の情報の流れを改善していきます。報酬検討委員会も必要に応じて開催していきます。</p>		<p>(事務事業の構築)</p> <p>2106 理事長・学長、副理事長、他の幹部との定例会議を継続し、重要な意思決定の準備、情報の共有、業務執行状況の確認などを行いました。運営幹部から教授会に対し、運営に関する情報を共有する会議を継続して開催しました。報酬検討委員会も適宜開催しました。</p>	

令和 5 (2023) 年度事業計画

令和 5 (2023) 年度業績

自己
評価

2107 幹部間の調整が円滑に行われるように学長、事務局長、プロボストの 3 者で週 1 回の定例会議を行います。

2108 内閣府との定例協議会等を通じて密接なコミュニケーションを図るとともに、事業計画の実施状況等について適宜報告します。また、翌年度事業構想及び概算要求について、前広かつ綿密に打合せます。

2109 最先端の IT ツール、サービス、支援を提供し、世界をリードする大学を目指します。

2110 ユーザーが IT リソース及びサービスを適時適切に活用できるよう、簡潔明瞭かつ最新の知識ベース及びユーザー教育プログラムを提供します。

2111 学園の運営を支える基幹業務プラットフォームを、特定・評価・設計・展開、維持し、学園の発展に確実に対応できるように拡張します。

2112 研究と教育を向上させるため、自動化と効率化を可能な限り追求します。

2113 研究要件を満たす、柔軟で安全なネットワーク環境の継続性を確保します。

2107 学長と各幹部間の円滑な連携と意思疎通を図るため、毎週の定例会議を開催し、円滑に調整を行いました。

2108 4月、7月及び11月の定例協議会及び必要に応じた個別会議を通じて、内閣府との密接なコミュニケーションを維持しつつ、令和5年度事業計画の実施状況、令和6年事業構想、令和6年度概算要求及び令和6年度事業計画策定等について適時適切に情報共有しました。

2109 複数の部署のサービスや問い合わせ窓口を一本化し、サービス・ポータルを提供しました。また、法人文書管理システムや学生情報システムを更新し、同じサービス・ポータル上で提供を開始しました。

2110 IT リソースやサービスに関する情報を集約して、即時検索できるサービス・ポータルを提供し、その閲覧回数やフィードバックをもとに、適宜最適な情報を追加・更新しました。

2111 ERP システムの変更を念頭におき、システム更新の検討を開始しました。また、新たな文書管理システムの提供を開始しました。

2112 新学生情報システムを構築し、多くのビジネス・プロセスをデジタル化・自動化しました。

2113 増大するネットワーク需要に柔軟に対応するため、キャンパスのバックボーン・ネットワークを再構築

2114 事務業務の改善・効率化に関する検討状況も踏まえつつ、引き続き IT 戦略計画を検討、策定し、その承認、伝達を通じて、IT とビジネスの整合性を確保します。継続的な対話とフィードバックを通じて、ビジネス計画との整合性を確保します。

2115 外部機関による IT レビューを通じてベストプラクティスとの整合性を管理します。

2116 大学の諸業務を効率的に支えるエンタープライズ・システムとサービスを特定・開発・支援することにより、デジタル化を推進します。

2117 学園における研究や事務運営を強化・支援するため、地域やグローバルで行われている IT 活用の新しい取組について学園として最適なものを検討・選択し、沖縄の発展に一層貢献していきます。

2118 運用コストの削減及び安全性の増進を図る一方で、事務他部門と連携しデジタルトランスフォーメーションによる業務改革、働き方改革に貢献し、事務業務の簡易化・自動化を通じて作業環境の標準化及び効率化を促進します。

2119 情報セキュリティのガバナンスを強化するため

しました。

2114 IT 戦略委員会に承認された中期 IT 戦略やプロジェクト優先度にもとづいて、各ユーザー部署との対話・フィードバックを得つつ、各プロジェクトを推進しました。

2115 外部の研究機関からアドバイザーを招へいし、IT デイビジョンおよび CIO オフィスの組織体制、IT 戦略等についてアドバイスを得ました。

2116 新文書管理システムや学生情報システムを開発し、サービスを提供しました。また、キャンパスハウジングの予約管理システムの開発に着手しました。

2117 大学 ICT 推進協議会 (AXIES) や他大学との連携やワークショップを通じて最新の動向や地域・グローバルでの取組 (AI ポリシー策定等) について知見を深め、学園での IT 戦略や取組に活用しました。

2118 学内サービス・ポータル上で、財務システムの権限承認フロー等種々の業務プロセスやワークフローを実装し、効率化・自動化に貢献するとともに、ID カードの運用見直しなど業務の簡略化について提言を行いました。

2119 7月に新たな最高情報セキュリティ責任者が着任

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績	自己 評価
	<p>の体制を強化し、また情報セキュリティ教育、複数要素認証、及びデバイススペースのアクセス制御を通じ、情報セキュリティを継続的に強化します。既存のセキュリティ脅威の監視機能をさらに強化し、学園のネットワーク又はシステムの完全性を低下させる可能性のある悪意のあるソフトウェアやハッキングなどの脅威をリアルタイムに検出することを可能にするとともに、脆弱性の検知・対応や Web サイト改ざん等への対策を徹底します。</p> <p>2120 学園の各部署において発生する法的事項について法的助言を行うとともに、各部署が扱う契約について、ドラフト、交渉から締結に至るまで全面的に支援し、学園における適切な運営を確保します。</p> <p>2121 法廷内外の請求から学園を防御し、財政的損失及び社会的評判の失墜を防止します。</p> <p>2122 学園内外における問題行動を防止するため、全ての教職員及び学生に、毎年、日本の法令等（特に薬物規制、飲酒運転、銃刀携帯、刑事手続/国外強制退去、学園における懲戒等）の研修プログラムの受講を徹底します。</p>	<p>し、情報セキュリティ委員会を設立しました。多要素認証を VPN やその他のシステムに拡張して防御を強化するとともに、引き続きアンチ・ウィルスソフトやマルウェア検知・対応ツール等を活用し学園のネットワークを監視しました。全学を対象としたフィッシングメール訓練の頻度を昨年度から倍増するとともに学内ポータルサイト、ポスターなどを通じて注意喚起を行いました。</p> <p>2120 学園の各部署において発生する法的事項や契約について、助言を行い、適切な運営を確保しました。法律相談数は 156 件（昨年度比 110%）、契約レビュー数は 212 件（昨年度比 94%）でした。</p> <p>2121 当該年度は、2 件の訴訟を和解・終了し、経済的損失を最小限にとどめ、社会的評判を保つことに努めました。</p> <p>2122 月次のオンライン新入職員オリエンテーションの資料を提供しました。</p>	
<p>2.2 予算配分と執行 目標</p>	<p>国からの補助金をはじめとする予算の執行について、国やその他の資金提供者、さらには国民に対する説明責任を果たすため、実績を点検し、適正かつ効果的に予算を配分及び執行します。特に、国の財政の厳しい状況を踏</p>		<p style="text-align: center;">A</p>

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己 評価
	まえつつ、研究教育の維持及び発展に資するよう効率的な予算の執行を図ります。			
2.2 予算配分と執行 取組	<p>(予算配分と執行)</p> <p>2201 リソース（人件費、運営費、機器購入費等）の配分・再配分は、ストラテジック・リソース・アロケーション委員会が迅速かつ的確な配分案を策定し、最終的に理事長・学長が決定します。</p> <p>2202 予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分します。</p> <p>2203 各部署に配置された予算分析担当者と連携し、予算配分・執行状況報告のプロセスを強化します。また、施設整備費補助金を含む学園全体の予算の適切かつ一体的な管理を確保するため、予算執行状況確認のための月例内部会議において理事長・学長に報告します。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告します。</p> <p>2204 全ての研究関連予算の執行管理を綿密に行い、必要な修正及び調整を行うため、9月に配分の中間見直し、第4四半期の初めの1月に再度配分の見直しを行います。</p> <p>2205 一定額を超える個々の支出について、コンプライアンス担当が審査すること等を含め、法令や内部規則等を順守して予算執行の手続を行います。</p>		<p>(予算配分と執行)</p> <p>2201 当該年度リソース（人件費、運営費、機器購入費等）の配分・再配分は、ストラテジック・リソース・アロケーション委員会が的確な配分案を策定した上で、理事長・学長が決定しました。</p> <p>2202 当該年度予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分しました。</p> <p>2203 各部署に配置された予算分析担当者と連携し、当該年度予算配分・執行状況報告のプロセスを強化しました。また、施設整備費補助金を含む学園全体の予算の適切かつ一体的な管理を確保するため、予算執行状況確認のための月例内部会議において理事長・学長に報告しました。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告しました。</p> <p>2204 9月に配分の中間見直しを、そして第4四半期の初めにあたる1月にも別途見直しを実施しました。</p> <p>2205 一定額を超える随意契約については、法令・コンプライアンス・セクション・リーダー（500万円未満）及び事務局長及び同室准副学長（500万円以上）が、関</p>	

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績	自己評価	
	<p>2206 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、内部監査を実施するとともに、国の機関等が行う研修への継続的な参加等を通じて、担当職員の育成に努めます。</p> <p>2207 大型研究設備・機器の購入時は、内部規則に基づき、必要に応じ、外部の有識者を含めた委員会を設置し、同委員会により仕様書の審査を行う等、公正かつ透明な調達の実施に万全を期します。</p>		<p>連法令及び内部規則等に則って審査し、適切に予算を執行しました。</p> <p>2206 最高内部監査責任者の下内部監査計画に基づき、適切な契約・調達及び会計事務を行うため、内部監査を実施しました。国の機関等が行う研修へ定期的に内部監査スタッフを派遣し、担当職員の育成を継続しました。</p> <p>2207 大型研究設備・機器の購入に当たっては、内部規則に基づき、その都度、外部の有識者を含めた委員会を設置し、同委員会により仕様書の審査を行う等、公正かつ透明な調達の実施に万全を期しました。 委員会の開催件数：11 件</p>	
<p>2.3 事務事業の効率化 目標 (1)</p>	<p>業務運営における効率化を図るよう取り組みます。</p>			<p style="text-align: center;">A</p>
<p>2.3 事務事業の効率化 取組 (1)</p>	<p>(事務事業の効率化)</p> <p>2301 事務局長及び戦略実行担当副学長の総括の下、①戦略立案と実行、②政府との関係、③外部へのコミュニケーション、④人事、⑤IT の 5 つの領域において、事務業務の合理化・効率化等の改善を進めます。</p> <p>2302 研究資材や試薬等の単価契約や一括購入、複数年契約等の取組を継続することにより、研究事業を効率的に支援します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単価契約の件数：35 件以上 (令和 3 年度の確定値) ・ 競争入札や他の競争的な手法による契約件数の比率：62%以上 ・ 研究関連契約を除く入札における落札率 	<p>(事務事業の効率化)</p> <p>2301 引き続きこれら 5 領域での合理化、効率化等の改善を進めたほか、新学長の戦略策定の一環として、より広い範囲の業務全般について早急に解決する事項の洗い出しを行いました。</p> <p>2302 研究資材や試薬等の単価契約や一括購入、複数年契約等の取組を継続することにより、研究事業を効率的に支援しました。 単価契約件数：45 件</p>	

令和 5 (2023) 年度事業計画

令和 5 (2023) 年度業績

自己
評価

2303 システム・機器の保守費は、契約内容の見直し等により、コストの抑制を図ります。

2304 契約は、十分な透明性や競争性の確保を原則とし、随意契約によらざるを得ない場合には、その理由を含め公表する等、契約に関する情報公開を徹底します。随意契約手続についても、継続的に監視します。同時に、調達に関する規則等について、効率化や手続の簡素化の観点から継続的に見直しを行い、また大学院大学の規模拡充に対応すべく、調達に関する事務分掌や業務手順等の整理を継続します。

2305 これまでの内外価格差等の調査結果を踏まえ、内外価格差の是正や経費削減の促進に取り組みます。

2306 調達コストの抑制を図るため、これまでに取りまとめた研究資材や機器等の国内外の価格比較データを踏まえ、効果的な価格交渉方法について学園内へ情報提供します。

2303 システム・機器の保守費については、契約内容の見直し、複数年契約の適用等により、コストの抑制を図りました。

2304 契約は、十分な透明性や競争性の確保を原則とし、随意契約によらざるを得ない場合には、その理由を含め公表する等、契約に関する情報公開を徹底しました。随意契約手続については、随意契約基準額の引き下げの効果測定を含め、継続的にモニタリングしました。大学の規模拡充に対応すべく、調達に関する事務分掌や、例えば効率化・手続の簡素化及び経費節減の観点からコーポレート・クレジットカードの使用可の範囲を拡充するなど、業務手順や関連する規則の見直しを行いました。

競争入札や他の競争的な手法による契約の比率（件数）
件数：141（62.1%）〔令和4年度 124（58.2%）〕
研究関連契約を除く入札における落札率：89.9%

2305 これまでに蓄積した調査結果等を活用し、調達職員のスキルアップ、交渉能力の向上を目的とする研修会を実施しました。

2306 （2305再掲）これまでに蓄積した調査結果等を活用し、調達職員のスキルアップ、交渉能力の向上を目的とする研修会を実施しました。

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績	自己評価	
	<p>2307 教育研究活動をより効果的にサポートするため、旅費に関する規則等について、手続きの効率化・簡素化の観点から見直し、実情に応じた改定を行います。</p> <p>2308 第 5 研究棟供用開始、及び昨今のインフレ・光熱水費の高騰に対応すべく、固定費の削減を目指し検討を開始します。</p> <p>2309 国際化の推進に取り組む国立大学等の職員に対して事務国際化研修を実施し、当該大学等の事務国際化に貢献するとともに、同職員を通じて国立大学等の運営管理に関する知見を吸収し、学園の事務の効率化を図ります。</p>		<p>2307 手続きの効率化の観点から、旅費に関する規定を見直し、経費節減を図るため、国際航空券を手配する場合に、担当部署の裁量に基づき弾力的に手配ができるよう、推奨旅行代理店（Preferred Travel Agency）以外から手配することも可能としました。</p> <p>2308 学内で固定費ワーキング・グループを立ち上げ、パソコンの調達費、保険に係る経費、施設管理に係る経費等の削減の検討を行いました。</p> <p>2309 一橋大学より 2 名、大阪大学より 1 名の派遣職員を受入れ、当該派遣職員へ国際的な環境下での英語コミュニケーション能力向上へ貢献し、また、派遣先部署では国立大学の運営に関する知見を吸収し、学園の事務の効率化を図りました。</p>	
<p>2.3 事務事業の効率化 目標 (2)</p>	<p>施設・設備を最大限有効に活用します。</p>			A
<p>2.3 事務事業の効率化 取組 (2)</p>	<p>(施設の有効活用)</p> <p>2310 既存建物内のスペースに関する調査、施設管理ディビジョン・研究支援ディビジョン及びスペース配分・再配分を所管するスペースアロケーション委員会との連携や研究ユニットへのヒアリングを通じたニーズの把握に基づき、アカデミック、事務、研究設備スペース利用の最適化を推進します。</p>		<p>(施設の有効活用)</p> <p>2310 継続的にスペースアロケーション委員会に参加しました。スペース要請者との対面会議を行いました。定期的に開催される当該委員会に参加し、キャンパス設計・運用の観点からスペースの有効活用についてアドバイスを行いました。</p>	

令和 5 (2023) 年度事業計画			令和 5 (2023) 年度業績	自己評価
	2311 シーサイドハウスの補修と、施設のスペース利用最適化に取り組みます。		2311 当該年度には様々なワークショップや会議が開催され、シーサイドハウスの利用可能性を検討し、さらに施設の老朽化に伴い、維持管理の優先順位を決定しました。シーサイドハウスの機能強化と老朽化対策を一体的に図る大規模改修計画の策定に着手しました。	
2.4 人事管理 目標	優れた人材の獲得、保持、育成のため、教職員らの声を積極的に取り込みます。持続可能かつ効果的な人事制度の構築と継続的見直しを行い、法順守の精神の下、より多様性や包摂性が尊重された働きやすい職場環境の実現に努めます。国による高水準の財政支援により運営される法人として、教職員の総人件費の抑制により一層努めます。			A
2.4 人事管理 取組	(職員の採用) 2401 国際的採用競争力の維持と持続可能な人件費水準を達成するため、戦略的に人員計画を策定します。決定された人員枠・要件に基づき、公正で迅速な採用プロセスを構築し、優れた人材の獲得のための採用活動を展開します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職位毎の職員数(職種、国籍別、性別) ・ 全職員に対する事務部署の職員の比率 ・ 運営費に占める人件費の割合 ・ 職群・職位ごとの給与額(平均値・中央値・最頻値) ・ 研修の受講職員数 	(職員の採用) 2401 持続可能な人件費水準を保つため、採用部署と共に人員採用計画を策定しました。採用活動は採用プロセスに則り、国内外から幅広く人員募集をすると共に、内部人材の登用も積極的に行いました。 また、持続可能な学園運営のため、学内の業務プロセスを把握し、分析・改善するプロジェクト及び年間の人件費管理についてより効果的な仕組みを構築するためのプロジェクトを開始しました。 全職員に対する事務部門の職員の比率：36% 運営費に占める人件費の割合：45.4% (決算前のため概算値)	

2402 関係部局と連携し、ソーシャルメディアを用いた積極的な情報発信や潜在的候補者へのアプローチ、採用プロセスの改善により、優秀な人材をより早くより効率的に採用し、雇用者としてのブランド力向上に努めます。また、優秀な県内出身者の雇用に努めます。

2403 職務記述の標準化、求められるコンピテンシー、スキル、経験等を整理・可視化することにより、公正・公平かつ個々人の能力が最大化され組織の利益になるような外部採用・内部異動昇進の仕組の導入を検討します。

2404 全教職員と学生に公平で歓迎される職場環境を構築し、維持するための措置を講じます。

- 全ての教職員に「無意識の偏見」研修や、その他の多様性に関する適切なプログラムを提供します。
- 学園で働く妊婦及び親のために適切な施設を計画、設計、装備します。
- 性別・国籍・職位にかかわらず全ての職員がネットワークを構築できる機会を用意します。

- ・ 事務職員の年間学習時間（40 時間）

2402 オンライン、オフラインでの就職フェアに参加し、潜在的候補者へのアプローチに努めました。また、面接回数の効率化を試み、より早く採用できるプロセス構築に努めました。

添付資料 2.4-1 令和 5 年度 職位毎・国籍別職員数

	事務 職他	教員	技術員	研究員	合計	割合
沖縄県 出身者	178	0	23	7	207	21%
県外	305	79	102	309	795	79%
合計	483	79	125	316	1,003	100%

2403 より多様な母集団形成を目指し、採用部署と検討を重ね、職務記述内容をより明確にしました。

2404 当該年度は、多様性に関するプログラムとして「Inclusive Communication Symposium 2024」を実施しました。その他、コミュニケーション研修として「意見の衝突への対処 (Conflict Management)」研修、多様な意見を尊重できる場づくりを行う機会として「ファシリテーションスキル」研修を提供しました。

また、教職員、学生及び派遣職員を対象に、モチベーションや満足度についてよりよく理解するため、「エンゲ

令和 5 (2023) 年度事業計画

令和 5 (2023) 年度業績

自己
評価

- 学園及び沖縄コミュニティ向けのプレゼンテーションネットワークの機会を通じて、多様性、公平性、包括性を促進します。

2405 学園教職員がホットラインやその他のコミュニケーションチャンネルから通報できる手法、相談窓口についても教育します。

2406 管理職や日々の相談窓口となる職員に対しハラスメント防止や対応の研修を促進します。

2407 障がい者雇用において、外部の専門支援団体とも連携して、諸設備や日常の指示・連絡方法など職場における合理的配慮を検証・改善します。

2408 保健センターは、教職員・学生の健康診断、医療機関受診の支援など、信頼できる保健サービスを提供します。

2409 クリニックは、初期診療や医療機関の紹介などを行います。

ージメント・サーベイ」を実施しました。65%以上の回答があり、本学の強みや課題を再確認しました。

2405 ホットラインの連絡先を、学園教職員及び学生全員が随時確認できるよう、人事ディビジョンのウェブページに掲載しました。また、新入職員研修資料に相談方法を追記し、既存の教職員及び学生に対してはメールで案内するなど、相談窓口の周知徹底を図りました。

2406 ハラスメント防止の研修受講を全教職員に義務付けました。さらに、管理職を対象とし、ハラスメントへの発展を未然に防ぐための研修として、既存のコミュニケーション研修をカスタマイズし、より特化した内容にアレンジし提供しました。

2407 外部の専門支援団体と定期的な打ち合わせを持ち、職場環境や業務上での合理的配慮を検証し、整備しました。

2408 キャンパス内で定期健康診断、特殊健康診断を提供し、受診できなかった教職員及び学生には、外部医療機関での受診を案内しました。また、日々多くの医療機関への紹介依頼や、様々な医療情報の提供、簡単な医療処置を提供しました。

2409 当該年度中に保険診療を提供するクリニックを開設し、保険診療で認められた医療サービス（医学的診

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績	自己 評価
	<p>(処遇・給与水準)</p> <p>2410 国家公務員や国内外の大学、研究機関、民間企業等の給与水準を踏まえ、「特殊法人等における役職員の給与について(令和元年10月11日総務省行政管理局)」に対する取組を実行します。</p> <p>(人材育成・管理体制の強化)</p> <p>2411 外部コンサルタントによる組織診断の結果及び選抜された管理監督職層の参画を基に、以下に列挙した制度の運用を強化し、本学の戦略に基づいて生産性の向上と次世代人材育成を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 目標管理制度 - 採用制度 - 人事考課制度 - 職務等級制度 - 人事異動制度 <p>2412 管理監督者向け研修体系を再構築するとともに、オンライン研修を含む個人別年間学習時間目標(40時間)を設定して自己研鑽を活性化する。</p>	<p>察、検査や処方箋の発行など)の提供を開始しました。</p> <p>(処遇・給与水準)</p> <p>2410 現任者の給与分析、採用・退職分析、異動・昇進配置転換の指導を通じ、適正な給与水準の維持に努めました。また、最新の給与サーベイの情報を入手し、民間企業の給与水準と比較しました。</p> <p>添付資料 2.4-2 令和 5 年度 職員の給与水準</p> <p>(人材育成・管理体制の強化)</p> <p>2411 外部コンサルタントによる組織診断を基に、引き続き本学の戦略に基づいた生産性の向上と人材育成を推進しました。内部人材の登用を活発に行ったことで、求人案件の2割を内部人材で充足することができたとともに、採用の迅速化や、職員のキャリア形成の促進にもつながりました。</p> <p>2412 管理監督者向け研修体系の再構築に継続して取り組むとともに、個人別年間学習時間目標(40時間)を設定した自己研鑽を推奨しました。</p> <p>また、自己研鑽の一つとして、学園への帰属意識を高める目的で、学園主催のボランティア参加においても40時間に加算することとし、積極的なボランティア参加を促しました。</p> <p>添付資料 2.4-3 令和 5 年度 研修の受講職員数</p>	

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己 評価
2.5 コンプライア ンスの確保 目標	大学経営の全ての面において、コンプライアンスが確保される体制を構築します。			A
2.5 コンプライア ンスの確保 取組	<p>(コンプライアンスの確保)</p> <p>2501 予算執行状況、一定額以上の調達に係る契約、学園内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から審査します。</p> <p>2502 学園内規則類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ、統括弁護士オフィスと協力して適時適切に制定・改正するとともに、PRP 審査委員会を必要に応じて開催し、規則類全体の整合性を維持します。</p> <p>2503 業務運営上の意思決定及びその過程について、公文書等の管理に関する法律（平成 21 年法律第 66 号）及び同法に基づき整備した学園内規則に則り、適切に文書管理するとともに、その管理・保護等を徹底します。</p> <p>2504 個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）や行政手続における特定の個人を識別するため</p>		<p>(コンプライアンスの確保)</p> <p>2501 予算執行状況、500 万円以上の調達に係る契約、学園内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から適正に審査しました。</p> <p>2502 関連法令の改正に応じたアップデートや、現行 PRP と事業の運営・運用実態との乖離の解消など、状況の変化に合わせて、統括弁護士オフィスと協力して適時適切に学園内規則類を制定・改正しました。 また、3 月に PRP レビュー委員会を開催し、令和 5 年度の全体レビュー結果を報告するとともに、PRP 総点検に代わる「ポリシー」策定作業の進捗及び今後の進め方について確認しました。</p> <p>2503 業務運営上の意思決定及びその過程について、公文書等の管理に関する法律及び同法に基づき整備した学園内規則に則り、法人文書の作成、整理、保存及び廃棄について適切に管理しました。また、学長の交代など、必要に応じて遅滞なく学園の登記情報を更新し、対外文書等への公印押捺、電子署名など、適切に執行・管理しました。</p> <p>2504 個人情報の保護に関する法律や行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する</p>	

令和 5 (2023) 年度事業計画

令和 5 (2023) 年度業績

自己
評価

の番号の利用等に関する法律（平成 25 年法律第 27 号）及びその関連法令、ならびにそれらに基づき整備した学園内規則にのっとり、個人情報の取扱について適切に対応します。また、保有個人情報を管理する台帳等の整備など、学園内規則を教職員に遵守させることにより、個人情報に対する意識の向上を図ります。

2505 監事監査や内部監査による、規程類の実施状況を含むコンプライアンスの状況を厳格にチェックし、その結果に基づき見直します。

2506 学園の全ての役員及び教職員に対して、「利益及び責務相反の防止」ポリシーの規定に基づき、利益の相反を生じさせる可能性のある状況の評価を促進するため、学園外の活動と責務について、毎年度、書面で開示します。

2507 各専門委員会において研究や実験計画を審査し、学園の研究活動を関連法令や規制に準拠して実施することを確保します。

法律及びその関連法令、ならびにそれらに基づき整備した学内規則に則り、個人情報の取り扱いについて関係部署に対して助言する等適切に対応しました。

個人情報ファイルの点検作業を通じて、個人情報登録リスト（PIPL）を更新するとともに、個人情報の取り扱いについて適切に指導・助言し、教職員の当該意識の向上を図りました。

個人情報保護規則をレビューし、修正を要する箇所を確認し、適切に改定しました。

2505 随意契約について、100 万円以上 500 万円未満の購入案件は法令コンプライアンス・セクション・リーダーが、500 万円以上の案件は、さらに事務局長及び同室准副学長がその適切性を審査しました。

全職員に受講が義務付けられたコンプライアンス研修（法令・コンプライアンス・セクション主催）について、e ラーニング（入校者受講必修）による研修を提供しました。

2506 本学の全ての役員及び教職員に対して、PRP22 章に基づき、利益及び責務の相反による懸念や弊害を回避するため、学外の活動と責務について開示を求め、適切に管理しました。

2507 各専門委員会において研究や実験計画を審査し、学園の研究活動を関連法令や規制に準拠して実施しました。

令和 5 (2023) 年度事業計画

令和 5 (2023) 年度業績

自己
評価

2508 公的研究費不正使用防止計画のウェブサイト上での公表など、継続的に科研費等の競争的資金等の適切な管理を研究者に徹底します。

2509 また、研究費の不正使用防止のため、着任決定時から、教員、研究者に対し、研究費使用ルールの周知徹底・意識向上に関する取組等の対策を講じます。新規教員には、着任前の面談を通して研究費使用ルートを説明するほか、着任直後にも個別に詳細なオリエンテーションを実施します。

2510 全ての研究員が受講必須とされている「責任ある研究行為」のオンライントレーニングを提供し、教員、学生及び研究員に研究不正の再発防止の改善を向上するために、学内でセミナーや教育を継続的に開催します。

2511 不正の通報窓口を全職員に周知し、研究データの適切な記録と管理を徹底します。

2512 野外活動安全委員会による野外活動計画の厳格な審査を継続し、安全衛生委員会による職場巡視などで研究室の安全衛生を確保し、構築された安全管理システムで安全の向上を図ります。

2508 公的研究費不正使用防止計画のウェブサイト上での公表など、継続的に科研費等の競争的資金等の適切な管理を研究者に徹底しました。

2509 研究費の不正使用防止のため、新規教員及び研究者に対し、着任直後に個別に詳細なオリエンテーションを実施する等、研究費使用ルールの周知徹底・意識向上に関する取組を行いました。

2510 教職員及び学生、短期滞在者を含むすべての構成員が受講可能なオンライントレーニング「責任ある研究行為」を提供しました。

2511 不正の通報窓口や手続きについて、オンライン研修で周知しました。教授会で研究データ管理について議論し、その内容を全研究員に共有した上で、適切な管理に努めました。

2512 野外活動安全委員会について、委員構成の定期的な見直しにより、内部専門家 1 名（陸域分野）、学外専門家 1 名（海洋分野）を新たに任命し、野外活動の安全かつ適切な実施にあたり必要な事項や緊急事態に関すること、また安全に関する法令遵守について助言を行いました。

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己 評価
			当該年度は、米国水中アカデミー（AAUS: American Academy of Underwater Sciences）の基準に従い、ダイビング・コントロール・ボードを設置し、ダイビング安全マニュアルを新たに制定しました。	
2.6 情報公開及び 広報活動 目標	学園が急速な成長を遂げる中、教育研究や業務運営に関する透明性の確保、及び国民に対する説明責任の履行に向けた取組が非常に重要です。国内外から幅広い支援を得るとともに、国際的な認知度を高め、学園の知名度をよりあげるために、多様なステークホルダーとの間で積極的にコミュニケーションを図ります。			A
2.6 情報公開及び 広報活動 取組	<p>（情報公開及び広報活動）</p> <p>2601 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号）等により公開が義務付けられる情報は、ウェブサイト等に適切に公開します。</p> <p>2602 ニュース記事やマルチメディアを始め、ウェブサイト全般を継続的に改善し、デザインやレイアウト及びユーザーエクスペリエンスが最高水準となるようにします。学園に関して継続的に肯定的な報道がされるよう、県内外の記者が参加できるような説明会や会見等の機会を積極的に持つよう努めます。</p> <p>2603 ソーシャルメディアやデジタルチャンネルなどの写真や動画を共有するサイト及びその他のマルチメディアの内容を引き続き強化します。</p>	<p>（情報公開及び広報活動）</p> <p>2601 学校教育法や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律等によって公開が義務付けられる情報について、ウェブサイト等において適時適切に公開しました。</p> <p>2602 令和 4 年 12 月の全面リニューアルに続き、ユーザビリティを向上させるための改訂・修正を継続的に行いました。さらに、「地域連携・科学教育レポート」をトップページ下部に導入し、地域連携関連イベントの記録を公開することで、地域とのかかわりをよりわかりやすく提示しました。</p> <p>2603 当該年度は、新たに LINE と Instagram ストーリーへの投稿を開始し、全てのソーシャルメディアチャンネルあわせて 2,216 件（昨年度の 1,918 件から 16%増）の投稿を行いました。各メディアの平均エンゲージメント率は 6.9%（昨年比 8.7%増）となりました。</p>		

2604 OIST に対する理解が更に高まるよう、地元沖縄をはじめ国内外の方々など、幅広い層にアピールできる

インスタグラム：地元沖縄のインフルエンサーとのコラボレーション等を試行。フォロワー数は 43%増（昨年度は 28%増）。

LINE (JA)：フォロワー数 60%増（新規開設チャンネルのため、昨年度はデータなし）。

Facebook (EN)：フォロワー数 7%増（昨年度は 4%増加）。

Facebook (JA)：フォロワー数 29%増加（昨年度は 38%増加）。

X (EN)：フォロワー数 23%増加（昨年度は 19%増加）。

X (JA)：フォロワー数 17%増加（昨年度は 30%増加）。

LinkedIn：フォロワー数 19%増加（昨年度は 17%増加）。

Youtube：126 本の動画を公開。（昨年度は 136 本）

Flickr：約 8,300 枚の写真を編集した約 101 のアルバムを公開。

メールマガジン：合計 6,700 人以上の購読者があり、毎月 1~3%の割合で継続して増加しています。メインのメールマガジン「OIST Latest」では、英語レターはフォロワーが 14%増加（昨年度は 8%増加）、日本語レターはフォロワーが 23%増加（昨年度は 14%増加）しました。

さらに、キャリア情報の受け取りを希望する購読者に対し、求人情報へのリンクを配信する月刊メールマガジン「OIST キャリア」を創刊しました。専門能力開発センター（Cハブ）のニュースレターも作成しました。

2604 ポッドキャスターやインスタグラマーなど外部のリソースを利用した発信を行いました。週 2 回のガイ

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己 評価
	<p>ような情報発信や広報活動を推進するための新たな方策の検討を開始します。</p> <p>2605 学園内規則集をウェブサイトに掲載し、その維持と改善を図ります。</p> <p>2606 有事の場合、広報ディビジョンは統括弁護士オフィス、事務局長及び他役員に相談し、学園の評判や風評リスクに配慮した、適時適切な情報を発信します。</p> <p>2607 ソフトウェアの脆弱性を利用したゼロデイ攻撃からウェブサイトを守るため、OIST のウェブサイトは、セキュリティアップデートが迅速に適用されるサポートのもと運営します。</p>		<p>ド付きキャンパスツアーや、一般見学、科学・文化イベントを積極的に実施しました。</p> <p>2605 学内規則集をウェブサイトに適時アップデートの上、掲載し、維持・改善を図りました。</p> <p>2606 有事の際に大学の評判を保ちながら即座に対応できるよう、各メディアとのコミュニケーションを通して関係を構築・維持しました報道モニタリングの実施と問題への対策を検討し、起こりうる様々な可能性に備えました。また、有事のレピュテーション・マネジメントを強化するため、スポークス・パーソンを対象に外部講師によるメディア・トレーニングを行いました。</p> <p>2607 令和 6 年 3 月 22 日、ウェブサイトの 1 ページが外部ハッカーからの攻撃により改ざんされました。発見後、当該ページを速やかに復旧し、その後のアクセスを防止する措置を取り、数時間以内に事態を収束させました。</p>	
第 3 章 財務に関する事項 ー外部資金				
3 財務に関する 事項 目標:	前年度に再改訂した外部資金中期戦略を踏まえ、将来の自立的経営に向けて、競争的研究資金、寄付金等の外部資金獲得額の増加を図り、財政基盤の強化に戦略的に取り組みます。			A
3 財務に関する 事項 取組:	(競争的資金) 3101 競争的資金を戦略的・組織的に獲得するための体制強化を図ります。	・ 競争的資金の採択状況 (件数及び獲得額)	(競争的資金) 3101 目標とする競争的資金を同定し、それに対する応募支援を効果的に実施できるよう、必要な機能と役割分担について検討し、体制を強化しました。	

令和 5 (2023) 年度事業計画

令和 5 (2023) 年度業績

自己
評価

3102 ウェブサイトや個別の訪問を通じて、外部資金情報、応募に係る支援、国内他機関とのネットワークの重要性等を学園の研究者に伝える機会を増やすとともに、外国人研究者や若手研究者への支援を強化します。

3103 国内及び国際的なネットワークを活用した組織間連携を基盤とする大型の研究プログラムへの共同応募に対し、研究担当ディーンのリダーシップの下、戦略的に取り組みます。

3104 国内・国外のグラント情報を収集し、定期的に学園の研究者コミュニティに配信します。新規公募に係る情報収集のため、主要な資金提供機関とのコミュニケーションを図ります。

3105 大型グラント申請を戦略的に進めるため、研究担当ディーンを中心とするサポートチームが中心となって情報収集や分析等を行い、グラント毎に最適と考えられるテーマ設定や PI 構成等を提案するなど、プロジェクト企画促進に向けた組織的取組を推進します。

3106 研究者が企業と協力し、公共及び民間セクターのイノベーション助成金へ応募、契約することを奨励します。

・ 外部資金の伸び
(総額)：政府系受託研究と助成金、産業界からの受託研究及び共同研究、寄付金、受 講料及びその他の収入の合計が 1,800 百万円 (補助金予算の経常経費の 10.6%) を目標とします

3102 ウェブサイトと電子メールを通じて外部資金に係る情報提供をしました。また、個別に研究者に外部資金情報を説明することで、応募意欲を高め、さらに応募書類作成セミナーの開催などにより、支援強化を図りました。

3103 大型研究プログラムへの応募に向けて、パートナー大学と研究交流のためのワークショップを企画し、相手方を訪問しました。

3104 TIDA と電子メールを利用して、助成金情報を本学研究コミュニティに配信しました。オンライン開催の公募説明会や審議会への参加に加え、資金提供機関を直接訪問し、意見交換することにより情報収集に努めました。

3105 組織として応募すると決定した外部資金について、その応募支援に資する人材を活用し、効率的かつ効果的な支援体制を整え、応募しました。大型助成金を戦略的に獲得するための体制強化を継続し、令和 5 年 12 月には、日本学術振興会による「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」に採択されました。

3106 沖縄県、国、民間財団等から研究助成金を獲得しました。

- 6 件の民間財団助成金を獲得

3107 学園内におけるインセンティブ制度を通して外部資金の獲得を奨励することにより、外部資金の堅実な増加を図ります。

(共同研究等)

3108 産学連携を促進するための体制強化を図ります。企業との共同研究、スタートアップインキュベーション、起業家精神を促進するための取り組みを強化・支援します。

- ミサワホーム総合研究所と共同で、戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) に応募・採択
- 沖縄県からの助成金獲得
 - ・ 6年目となる OIST Innovation Accelerator を支援する助成金を獲得
 - ・ 3件の継続的な共同研成金継続事業と4件の新規助成金を獲得事業の資金確保
- 琉球大学 COI-NEXT プログラムより、OIST と琉球大学の起業家育成・スタートアップ支援に関する連携促進のための専門人材確保の資金獲得
- 沖縄総合事務局所管「沖縄型スタートアップ拠点化推進事業費補助金」の採択を受け、インキュベーター施設の支援業務の推進

3107 教員、サイエンス・テクノロジー・グループに所属する研究員に対するインセンティブとして、採択額に応じて、一時金を受け取ることができるスキームを継続しました。

添付資料 3.1-1 外部資金・寄付金獲得状況

(共同研究等)

3108 (3106再掲) 沖縄県、国、民間財団等から研究助成金を獲得しました。

- 6件の民間財団助成金を獲得
- ミサワホーム総合研究所と共同で、戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) に応募・採択
- 沖縄県からの助成金獲得
 - ・ 6年目となる OIST Innovation Accelerator を支援

			<p>する助成金を獲得。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 件の継続的な共同研成金継続事業と 4 件の新規助成金を獲得事業の資金確保 - 琉球大学 COI-NEXT プログラムより、OIST と琉球大学の起業家育成・スタートアップ支援に関する連携促進のための専門人材確保の資金獲得 - 沖縄総合事務局所管「沖縄型スタートアップ拠点化推進事業費補助金」の採択を受け、インキュベーター施設の支援業務の推進 <p>企業との複雑な契約交渉プロセスの効率化を図るため、包括的な連携協定締結に向けた MOU を 3 件締結しました。そのほか、より良い事業化戦略の構築に繋げるため、世界知的所有権機関 (WIPO) 「技術移転におけるインセンティブ」報告書作成にアドバイザーとして携わりました。</p> <p>OIST x SONY CSL 共同ラボを実施し、以下の取り組みを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 本学の 4 研究ユニットと連携 - 3 件の論文発表 - 5 件のセミナー開催 - OIST-KEIO Showcase Talk Series 5 に招待講演者として登壇 <p>OIST×コランダム・システム・バイオロジー共同研究開発ラボを実施し、以下の取り組みを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ロボットと実験装置の設置、クラスター・システムのプロトタイプの完成、サンプル処理の検証、実験 	
--	--	--	--	--

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己 評価
			プロトコルの最適化 - プロジェクト第一段階から商業化を加速させるための計画を策定 - NTT、東芝、沖縄電力と新たな戦略的パートナーシップを確立 - 企業と 12 件の新規委託研究、共同研究契約を締結 新規ライセンス/オプション契約 4 件締結	
	(寄付金) 3109 個人向け定期寄付制度、法人サポーター制度、ネーミングライツによる寄付制度、企業版ふるさと納税など、様々な手法を通じて積極的にフィランソロピーによる資金調達を行います。寄付金獲得活動等を推進するため、東京オフィスの体制強化を図ります。		(寄付金) 3109 令和 5 年度の寄付金総額は 2,800 万円を超え、過去 5 年間で最高となりました。「OIST サンゴプロジェクト」を佐藤矩行教授と発足し、県内外の企業 20 社から支援を受け、活動を推進しました。同プロジェクトは、「SDGs ジャパンスカラシップ岩佐賞」(SDGs 岩佐賞)を受賞し、メディアでも報道されたことで、本学の知名度及びブランドの認知度向上に貢献しました。	
第 4 章 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項				
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 目標	研究室から生まれた発明を社会的・経済的利益のため企業への技術移転を推進し、学園及び沖縄におけるイノベーションを発展させるため、以下の幅広い取組を行います。 a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及びマーケティング b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商用化を推進するべく POC (概念実証) プログラムを運営 c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向けて、他機関とも連携した起業家活動及びスター			A

令和 5 (2023) 年度事業計画			令和 5 (2023) 年度業績	自己評価
	<p>トアップの育成支援</p> <p>d) 新技術の開発や技術移転の促進のために企業との共同研究を拡大</p> <p>e) 沖縄のイノベーション・エコシステム (R&D クラスタ) 形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化</p> <p>f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定</p> <p>これらをより強力に進めるため、予算措置された新たなインキュベーター施設設備や体制強化を着実に実行します。</p>			
<p>4</p> <p>沖縄の自立的発展への貢献に関する事項</p> <p>取組</p>	<p>(技術移転及びイノベーションの促進)</p> <p>a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及びマーケティング</p> <p>4101 面談や啓発イベントを通じ、積極的に教員、研究者や学生に働きかけ、学園の知的財産を特定する機会を確保します。</p> <p>4102 知的財産の市場価値や競争環境を評価し、事業化戦略を強化します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の連携及びライセンスを見込んだ企業とのコンタクト数 (78) ・ 企業との連携事業数 (連携協定、共同研究契約、特許活用件数等) (24) ・ 知的財産の指標 (発明の開示数 (18)、特許申請 (55) 及び取得数 (36) 等、知的財産の事業化 (3) 等) ・ イノベーション、技 	<p>(技術移転及びイノベーションの促進)</p> <p>a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及びマーケティング</p> <p>4101 「知財入門」セミナーを 2 回開催し、教員や研究者との知的財産に関する会議を 100 回以上行い、知的財産に関する助言を行いました。教員及び研究者への知的財産に関する積極的な働きかけにより、以下の成果を得ました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 発明開示件数 : 11 件 - 新規特許出願件数 : 37 件 - 特許取得件数 : 8 件 <p>添付資料 4.1-1 特許状況</p> <p>4102 知的財産の市場価値や競争環境を評価分析が可能な、ソフトウェアやプラットフォームを活用し、事業化戦略を強化しました。</p>	

4103 ソーシャルメディアなど新しいマーケティングプラットフォームを利用して技術移転成果の増加を目指します。

b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商用化を推進するべく POC（概念実証）プログラムを運営

4104 ハンズオンサポートを提供することで POC（概念実証）プログラムとテクノロジー・パイオニア・フェローシップを支援し、商業化の取組を確実にします。

術開発、R&D クラスタ
ー開発関連トピック
において学園が企画
又は主催したシンポ
ジウム、会議、ワーク
ショップ、セミナーの
数（15）

・ イノベーション、技
術開発、R&D クラスタ
ー開発関連トピック
において学園が企画
又は主催したイベン
ト、コース、シンポジ
ウム、会議、ワークシ
ョップ、セミナーの参
加者の数（450）

・ POC のプロジェク
ト、及びテクノロジー
パイオニアフェロー
シップの採択件数
（21）

・ スタートアップ数、
スタートアップ・アク
セラレーター・プログ
ラム、インキュベータ

- PatSnap 分析ソフトウェアを商業化戦略に統合
- Inpart プラットフォームを活用し、研究開発企業と連携
- ライセンス供与可能な 81 件の知的財産のマーケティング資料を管理
- 知的財産の市場価値や競争環境評価に伴う企業との会議を 99 回開催

4103 LinkedIn を本学の技術を広めるマーケティングプラットフォームとして確立しました。

- LinkedIn フォロワー数：2,444
- 投稿平均エンゲージメント率：15%（同業技術移転機関より 125%高い）
- LinkedIn を介してライセンス付与や共同研究についての問い合わせを受けました

X、Facebook、Instagram を新たなマーケティングプラットフォームとして開設しました。

b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商用化を推進するべく POC（概念実証）プログラムを運営

4104 当該年度に 12 件の新規 POC プロジェクトを支度し、9 件のプロジェクトを継続支援しました。（合計 21 件）その内訳は以下の通りです。

- イノベティブ・テクノロジー研究（ITR）：3 件
- シードフェーズ I：5 件
- フェーズ I：3 件
- フェーズ II：4 件

一施設、起業家向けプログラムによって支援された起業プロジェクト件数 (30)

- ・ イノベーション・ネットワーク @ OIST (INO) への登録企業数 (35)
- ・ 視察や来訪者の数 (オープン・キャンパスの来訪者数を含む)
- ・ キャンパスを訪れた県内児童・生徒数
- ・ 県内児童・生徒を対象とした講義やイベントの数
- ・ 沖縄出身の職員数
- ・ 年間の新規採用者数における沖縄県在住者採用割合
- ・ 学園で開催された

- テクノロジー・パイオニア・フェローシップ: 6 件 POC プロジェクトのハンズオンサポートを提供しました。
- 160 時間のコンサルテーションを POC プロジェクトチームに提供
- 第 1 回 POC プログラムショーケースとネットワーキングイベントを開催
- 通常の POC プログラム申請サイクルの枠外で組成された有望なプロジェクトをタイムリーに支援し、機敏性、革新性、影響力を最大化できるよう、新たに「ファストトラック」申請プロセスを導入

添付資料 4.1-2 令和 5 年度 POC プロジェクト

4105 新たに 12 人のレビューアーと 20 名のメンターを採用し、グローバルに活躍する 120 名の専門家とネットワークを構築しました。

4106 商業化を促進するため、POC プロジェクトのプロモーションを強化しました。

- POC プロジェクトを産業界、投資家、一般向けに紹介するウェブサイトを新たに開設
- ポテンシャルパートナーや投資家向けマルチメディアマーケティング用のプロモーションビデオを 2 本制作
- 産業界支援型 POC プログラムの導入に関する議論と計画を開始
- 投資家とのつながりを強化した結果、POC プロジェクトから新たにスタートアップ企業 1 社が設立さ

4105 POC (概念実証) プログラムのための産業界からのレビューアーや、エキスパート及びメンターのパネルメンバーを拡充、強化します。

4106 POC プログラムの実施成果をスタートアップ設立などを含めた事業化へ着実につなげていくための新たなプログラム構築に向けた検討を開始します。

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績	自己 評価
<p>4107 POC (概念実証) プログラムを商業化へ向けてより適切に導くために、起業家育成教育や指導を強化します。</p> <p>4108 POC (概念実証) プログラムの商業化を強化します。</p>	<p>外部主催の国際会議及びワークショップの数、及びその参加者数</p>	<p>れ、他 2 者が起業検討中</p> <p>4107 MIT ベンチャー・メンタリング・サービスをモデルとした、OIST イノベーション・メンタリング・サービスを新設しました。</p> <p>4108 POC プロジェクト 1 件が商業化されました: スタートアップ企業「メタブル合同会社」</p> <ul style="list-style-type: none"> - POC プロジェクト 2 件がライセンス契約交渉中 	
<p>c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向け起業家活動及びスタートアップの育成支援</p> <p>4109 世界中の起業家を呼び込み、沖縄でスタートアップを育成するため、スタートアップアクセラレータープログラムを運営します。</p>		<p>c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向け起業家活動及びスタートアップの育成支援</p> <p>4109 当該年度は、2 チームを OIST Innovation Accelerator の参加者として選出しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Vyorius: ドローンやその他の無人ロボットの運用を管理するソフトウェア開発 - Sylcast: 持続可能な環境管理のための科学的根拠に基づく樹木の健康状態のセンシング、モニタリング、予測。 <p>OIST Innovation Accelerator 修了生の当該年度の実績:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Vyorius (令和 5 年度採択): <u>県内で法人設立</u>し、日本の大手航空会社が主催するレベル 4 のドローン輸送トライアルに参加。日本企業 3 社と秘密保持契約 (NDA) 3 件を締結し、日本市場進出のため 20 社以上の企業との連携開始。沖縄銀行から助成金を獲得 	

- Sylcast (令和 5 年度採択) : 県内で法人設立。沖縄銀行から助成金を獲得
- REPS Japan (平成 30 年度採択) : 沖縄振興開発金融公庫と沖縄銀行から 6,000 万円の資金を調達。沖縄県内のファミリーマート 300 店舗以上で「プロテインラムネ」を発売
- EF ポリマー (令和元年採択) : 5 億 5000 万円の資金を調達。G20 デジタルイノベーション・アライアンス・サミット、ICC サミット Kyoto 2023、Ascension 2023、Farmnote Summit 2023 にて多数の賞を受賞。東洋経済新報社が発表する「すごいベンチャー100 社」に選出
- Sage Sentinel (令和 4 年度採択) : 2 本の学術論文を発表。米国テキサス州オースティンで開催された日本貿易振興機構(ジェトロ)の「Beyond Japan Local Program」に選抜参加
- KanjuTech (令和 2 年度採択) : AWS Marketplace に製品をリリース
- GenomeMiner (令和 3 年度採択) : 本学、ekei labs 社、東南アジアの大手医療機関とパートナーシップを締結
- 大阪ヒートクール (令和 4 年度採択) : Consumer Electronics Show (CES) 2024 に出展。日本貿易振興機構(ジェトロ)の Berkeley SkyDeck Global Startup Accelerator Program に選抜参加
- HerLifeLab (令和 3 年度採択) : 7,000 万円の資金を調達、更年期症状に悩む女性のためのカウンセリングサービス「ビバエル」を開始

4110 教員、研究者、学生のニーズを満たすために、起業家精神促進のための多様な支援と教育の機会を提供します。

4111 スタートアップや企業との共同研究ラボの拡大に向けて、新たなインキュベーター施設等の具体的な計画を策定し、スタートアップのためのスペースの拡大や企業との共同研究ラボの運営支援を行います。

4112 OIST-Lifetime Ventures Fund およびその他のベンチャーキャピタルと連携しスタートアップ支援の拡大を図ります。

4113 ベンチャーキャピタルパートナーと連携し、起業家を目指す人材の育成活動を展開します。

添付資料 4.1-3 令和 5 年度スタートアップ数

4110 60 のセミナーとワークショップを開催し、2,162 人が参加しました。

添付資料 4.1-4 産業関連コラボレーション及びイノベーション関連セミナー・イベント

4111 インキュベーター・ワーキンググループを立ち上げ、最新の建設スケジュール（令和 7 年春完成予定）に基づく新施設の運営計画を策定しました。

内閣府沖縄総合事務局から外部資金を調達し、ビジネス、法律、財務相談サービスなどの起業支援サービスを確立しました。

4112 Lifetime Ventures とスタートアップ・イベントを開催し、外部ベンチャーキャピタルを呼び込み、スタートアップ支援の拡大を強化しました。

- スタートアップ・イベントを 2 回共催
- 50 時間の交流・調整会議を実施
- 23 スタートアップに投資し、うち 50%は OIST 関連

4113 人材育成を促進するため、Lifetime Ventures と共同で 3 つの共同イベントを開催しました。また、起業家志望者のための定期的な座談会「OIST アンタレプレナー・ラウンドテーブル (OISTER)」を構成しました。

4114 令和 4 年度に採択された文部科学省「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)」の目標に基づき、ブートキャンプなどのバイオコンバージェンス・スタートアップを加速させる新たなプログラムを展開します。

d) 新技術の開発や技術移転の促進のために企業との共同研究を拡大

4115 会議、展示会、各種ネットワークを通じて、企業との共同研究を促進します。企業会員プログラムを運営して、県内、国内、及びグローバル企業との連携を拡大します。

その他、一橋大学ビジネススクールから 6 名の MBA 学生インターンを受け入れ、本学のプロジェクトやスタートアップ企業と連携しました。

4114 COI-NEXT 事業を活用して OIST Innovation Accelerator プログラムを強化・拡大しました。

- バイオコンバージェンス を重点分野として追加
- 募集及び選考プロセス改善
- 起業家トレーニング及びスタートアップ・ブートキャンプの追加
- 23 カ国から 69 件の応募
-

d) 新技術の開発や技術移転の促進のために企業との共同研究を拡大

4115 本学の技術やスタートアップを促進するため、85 の企業と会議を開催したほか、研究及び技術を紹介する 10 の展示会に参加しました。

OIST イノベーション・ネットワーク (INO) プログラムを拡大しました。

- 会員数が 39 から 45 に増加(プレミアム会員数(13)、レギュラー会員数 (32))
- 会員向けに 2 つのイベントを開催:「生成 AI が世界に与えるインパクト」「サステイナビリティとアカデミア」
- サントリーとインターンシップ・プログラムを開始
- 内閣府が主導する、戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) の下、ミサワホーム総合研究所と共同

4116 沖縄県、国、民間財団等からの革新的な研究のための助成金獲得に向けて支援を継続します。

4117 複雑な企業との契約交渉プロセスの効率化を図り、事業化戦略を構築します。

研究を開始

4116 (3106 再掲) 沖縄県、国、民間財団等から研究助成金を獲得しました。

- 6 件の民間財団助成金を獲得
- ミサワホーム総合研究所と共同で、戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) に応募・採択
- 沖縄県からの助成金獲得
 - ・ 6 年目となる OIST Innovation Accelerator を支援する助成金を獲得
 - ・ 3 件の継続的な共同研成金継続事業と 4 件の新規助成金を獲得事業の資金確保
- 琉球大学 COI-NEXT プログラムより、OIST と琉球大学の起業家育成・スタートアップ支援に関する連携促進するための専門人材確保の資金獲得
- 沖縄総合事務局所管「沖縄型スタートアップ拠点化推進事業費補助金」の採択を受け、インキュベーター施設の支援業務の推進

4117 企業との複雑な契約交渉プロセスの効率化を図るため、包括的な連携協定締結に向けた MOU を 3 件締結しました。その他、より良い事業化戦略の構築に繋げるため、世界知的所有権機関 (WIPO) 「技術移転におけるインセンティブ」報告書作成にアドバイザーとして携わりました。

令和 5 (2023) 年度事業計画

令和 5 (2023) 年度業績

自己
評価

4118 共同研究の成果拡大に向け、企業との共同研究ラボを実施します。

4119 企業等との共同研究やライセンス契約の促進を図ります。

e) 沖縄のイノベーション・エコシステム (R&D クラスター) 形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化

4120 地域、国内及び海外の機関との交流を行います。

4118 (3108 再掲) OIST x SONY CSL 共同ラボを実施し、以下の取り組みを行いました。

- 本学の 4 研究ユニットと連携
- 3 件の論文発表
- 5 件のセミナー開催
- OIST-KEIO Showcase Talk Series 5 に招待講演者として登壇

OIST×コランダム・システム・バイオロジー共同研究開発ラボを実施し、以下の取り組みを行いました。

- ロボットと実験装置の設置、クラスター・システムのプロトタイプの完成、サンプル処理の検証、実験プロトコルの最適化
- プロジェクト第一段階から商業化を加速させるための計画を策定

4119

- NTT、東芝、沖縄電力と新たな戦略的パートナーシップを確立
- 企業と 12 件の新規委託研究、共同研究契約を締結
- 新規ライセンス／オプション契約 4 件締結

e) 沖縄のイノベーション・エコシステム (R&D クラスター) 形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化

4120 渋谷区 (Shibuya Startup Support)、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) とスタートアップ支援に関する連携協定を締結

4121 沖縄におけるイノベーション・エコシステムを強化する戦略アドバイスを取り入れるために、政府や産業界の専門家と交流します。

4122 産業界、政府、起業家、学术界などのイノベーションのための関係者を集めるための会議やイベントを開催します。

4123 新たなインキュベーター施設整備や体制強化、COI-NEXT 拠点形成等を契機に、琉球大学や沖縄高等専等県内関係機関とも協力して、地域の経済発展に寄与するための産学官金連携をより一層推進します。

- 経済同友会と2つの大型イベントを開催
- 沖縄電力と、脱炭素や持続可能な社会の実現を目指して連携する覚書を締結

4121 沖縄におけるイノベーション・エコシステムを強化する戦略アドバイスを取り入れるため、大学、政府関係機関、産業界の専門家による69件の視察を受け入れ、各方面との交流を深めました。

4122 (4110 再掲) 60 のセミナーとワークショップを開催し、2,162 人が参加しました。

4123 沖縄県内外関係の機関と以下のような取り組みを行いました。

- 琉球大学 COI-NEXT 主催、STARTUPLAB RYUDAI (RYULAB) のオープニングイベントに、琉球銀行、沖縄振興開発金融公庫、沖縄 IT イノベーション戦略センター、うむさんラボと参加
- 沖縄スタートアップ・エコシステム・コンソーシアムが主催する Okinawa Statrtup Festa にて琉ラボと共同企画のイベント「大学発スタートアップの最前線！～世界に注目される沖縄へ」を開催
- Shibuya Startup Support (渋谷区) とイベント「Shibuya x OIST Uniting for Startup Success」を共同開催
- RYULAB とイベント「世界に挑む！沖縄発スタートアップのマインドセット」を共同開催し、日本貿易振興機構 (ジェトロ) を招待

令和 5 (2023) 年度事業計画

令和 5 (2023) 年度業績

自己
評価

f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定

4124 学園や沖縄におけるイノベーション指標の分析を進めるために必要なパートナーシップ及び手法を構築します。

(地域連携に関する取組)

4125 沖縄県庁との間に定期的な意見・情報交換の場(沖縄県 OIST 連絡会)を通じ、「新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」への貢献や個別事業における一層の協力関係を構築します。

4126 年間を通じあらゆる層の地域の皆様に対しキャンパス見学や地域の皆様が参加できる科学普及プログラム、イベント・講演会、教育的アウトリーチ活動を実施します。地域のつながりを促進する沖縄やその他地域の文化を紹介するイベントを提供します。離島を含む沖縄県全域の皆様が参加できる機会を提供します。

- AgVenture Lab、JA おきなわとイベント「地域とつながるイノベーター～研究は地域にどう貢献するのか～」を共同開催

f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定

4124 イノベーション指標の追跡、分析ツールとして Salesforce を導入しました。

(地域連携に関する取組)

4125 沖縄県の科学技術振興課及び関連部署と定期及び不定期の情報交換や相互訪問を行い、より密接な協力関係を構築しました。

4126 以下のイベントを通じ、本学の取り組みを紹介するとともに、科学普及人材育成に向けたプログラムを実施しました。

- OIST 訪問者数：合計 23,203 名
ガイド付きキャンパスツアー 1,670 名
自由見学 16,311 名
学校訪問 4,373 名 72 校
視察 849 名 72 組
- 教育普及活動 (アウトリーチ活動)
年間 116 件 (内、OIST 主催、共催、後援イベント 27 件)

- ・ 2023 年ノーベル賞シーズン・スペシャルトーク 2022 年ノーベル生理学・医学賞受賞 / スバンテ・ペーボ教授講演会「デニソワ人とネアンデルタール人—私たちに受け継がれる遺伝子」来場者数：
合計 1,350 名
OIST 講堂：450 名（10 月 7 日）
アイム・ユニバースてだこホール：900 名（10 月 9 日）
- ・ 恩納村・OIST こどもかがく教室（8 月 14 日-18 日）参加者数：128 名（恩納村外の児童生徒を含む）
- ・ 高校生を対象としたサイエンス・コンテスト「第 12 回サイエンス in 沖縄 起業のための研究能力サイエンスフェア（SCORE!）」参加者数：47 名（8 校、16 チーム）
- ・ 文化・交流イベント「アートの壁プロジェクト」恩納小学校より 14 名が参加し、本学エネルギーセンター2 棟に壁画制作を実施
- ・ 沖縄「慰霊の日」トークイベント 参加者数：300 名（学内）
- ・ 沖縄伝統文化公演イベント「琉球の響き」 参加者数：500 名
- ・ 沖縄県立芸術大学の学生による作品展「Cycle 展」（於：本学トンネルギャラリー）
- ・ 一般向け科学体験イベント「OIST サイエンス・フェスタ」 参加者数：1,024 名
- ・ 離島での科学授業プログラム「OIST サイエンス

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己 評価
			<p>トリップ」 in 宮古島（宮古高校） 参加者数 123 名</p> <p>その他沖縄県、恩納村、読谷村他、自治体や他団体との共同イベントへ出展・参画しました。</p>	
	<p>（その他の取組）</p> <p>4127 新型コロナウイルス感染症の PCR 検査を実施できる体制を維持し、沖縄県内における同感染症のまん延防止に協力します。また、中長期的な計画について沖縄県と相談します。</p> <p>4128 コアファシリティ（共用研究施設）等で県内の学生がインターンシップをできる機会を提供し、学生の就業意識の向上や実地経験の獲得に協力します。</p>		<p>（その他の取組）</p> <p>4127 新型コロナウイルス感染症の PCR 検査を実施できる体制を維持し、沖縄県内における同感染症のまん延防止に協力しました。また、中長期的な計画について沖縄県と相談を行いました。</p> <p>4128 沖縄高専から 2 名の学生インターンを 1 週間、イメージングセクションと科学計算・データ解析セクションにて受け入れました。</p>	
第 5 章 キャンパス整備・大学コミュニティの形成、安全確保及び環境への配慮に関する事項				
5.1 キャンパス整備 目標	計画通りキャンパスの整備を進めます。			A
5.1 キャンパス整備 取組:	<p>（キャンパス整備）</p> <p>5101 新たなインキュベーター施設及び第 2 データセンターの建設についてはコスト管理・削減を徹底するとともに、工期を厳守するよう工事の進捗について注意深くモニターしながら管理します。</p> <p>5102 既存のキャンパスビルディング及び施設・設備について、現状を把握したうえで、中長期の視点で計画的</p>		<p>（キャンパス整備）</p> <p>5101 令和 6 年 3 月に、新たなインキュベーター施設の建設にかかる契約を締結しました。第 2 データセンターについては、同年 5 月の工事着工に向け、4 月中の契約締結となるよう、引き続き準備を進めます。</p> <p>5102 長期計画に基づき、既存の建物及び施設設備の実態に基づく長期修繕計画を作成しました。外部資金を活</p>	

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績	自己評価
	<p>に更新・修繕・維持管理し、長寿命化や省エネルギー化、スペースの有効活用を図るとともに、外部資金等も活用した施設整備にも取り組むことにより、持続性のある施設マネジメントを推進します。</p> <p>5103 既存施設における施設維持管理・更新（熱源、電力監視等）については、老朽化等の状況を踏まえ計画的に実行することとし、コスト管理・削減を徹底するとともに、工期を厳守するよう設計及び工事の進捗について注意深くモニターしながら管理します。</p> <p>5104 透明性確保のため、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）に基づき、入札スケジュールや結果等の入札前後の情報開示を推進します。</p>	<p>用してシーサイドハウスの浄化槽設備の一部を交換し、老朽部分の解消と省 CO2 対策に取り組みました。</p> <p>5103 施設の維持管理・更新については、長期修繕計画を踏まえ、その緊急性及び重要性が高いものを選定し、予算の維持に努めました。</p> <p>5104 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）に基づく手続きを順守し、入札・契約の実施及び関連情報の公表を随時・適宜行いました。</p>	
<p>5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 目標</p>	<p>OIST コミュニティは多様なバックグラウンドを持つメンバーで構成されているため、共通の体験や一体感を通してインクルーシブな学園文化を維持し、OIST コミュニティを活気づけるために、コミュニティの全てのメンバーに対して有意義でインパクトのある活動プログラムとサービスを提供します。</p>		A
<p>5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上</p>	<p>（大学コミュニティの形成）</p> <p>5201 教職員・学生及びその家族の日常生活をサポートするための高品質のプログラムを充実させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 家族のためのオンボーディング（文化や仕事の進め方に慣れるための教育）を強化します。 - 学園内の関連部署との連携を維持し、新規採用者 	<p>（大学コミュニティの形成）</p> <p>5201 教職員・学生及びその家族の日常生活について、よくある質問や、ある程度時期の決まっている項目に関して事前に情報収集し、適時適切にウェブサイトにて提供しました。</p> <p>教職員の転居・帰国のサポートについて、それぞれのサ</p>	

取組

とその家族が赴任する前に必要な、生活等に関する情報を提供する早期受入れプログラムを導入します。

- 引き続き、ファミリーアンバサダーネットワークを充実させます。ファミリーアンバサダーネットワークは教職員の配偶者で構成され、既に沖縄の生活に詳しい人の目線で見えた学園とその周辺の情報を、赴任者と家族に共有することが目的です。
- 人事ディビジョンと連携し、住居、チャイルドケアサービス、家族サポート、医療サービス、そして日常生活のニーズに対し適切な情報を提供し、教職員とその家族の円滑且つ効率的な受入れサポート体制を確保します。
- 客員研究員、招聘ゲストの情報をデータベースに登録・保存する等、受入れ窓口担当者のサポートを行うと共に、招聘者の滞在中のサポートを行います。

5202 多様な学園コミュニティに品質と費用効果の高いフードサービスを提供します。

5203 引き続き、フードサービスを提供するベンダーの品質を確保するための手順を開発し、管理・監督します。

ポートを遅延なく進めることができました。
来日する客員研究員や招聘するゲストの受け入れに際し、データベースに登録・保存する等、受け入れ窓口担当者の支援を行いました。

5202 ユーザーからの意見や要望を基に、フードサービス委員会において、より良いサービス提供に向けた方策を検討しました。SDGs の取り組みの一環として、1 月にはレストランにおいてビーガンイベントを開催しました。9 月に実施した自動販売機事業者の選定において、より一層コミュニティのニーズに合った飲料が販売されるよう販売事業者と調整を行いました。

5203 カフェ、レストラン、ショップの運営事業者と毎月ミーティングを行い、サービスの見直しや新たな取り

5204 がんじゅうサービスは、今後も質の高いエビデンスに基づくウェルビーイングの支援を学園コミュニティ全体（学生・職員・家族やその子ども）に提供し、全員が最善の状態でも活動・活躍できるよう支援します。また、今後も全てのステークホルダーと連携し、学園コミュニティのニーズに合ったサービス提供をします。要請があれば、不平等な状況に関する問題提起などを代わりに働きかけます。

5205 学園コミュニティのウェルビーイングを支援するためのワークショップ、個々のレジリエンスを高めるためのワークショップを引き続き提供し、ウェルビーイングへの取組支援を継続します。他のコミュニティーサービスと協力し、ここ数年 COVID-19 のより大きな影響を受けたコミュニティがやすらぎを取り戻せるよう努めます。

5206 レクリエーションサービスは、クラブ活動の促進と監督を含む、コミュニティが関わる活動を管理・監督します。

- ビレッジゾーン、フィットネスジム、シーサイドハウス（ラウンジ、デッキ、パティオ、テニスコート、サッカー場）、クレイファクトリー（製土工場）、新

組みについて検討しました。また、定期ミーティングだけではなく、改善点が見つかった際にはすぐに対応ができるよう、よりよい関係性を築くことに注力しました。

5204 コミュニティのウェルビーイングとメンタルヘルスをサポートするため、クオリティの高いサービスを提供しました。サービスを受けられるまでの期間を短縮出来るよう努めました。また、特定の問題が提起された場合には、関係するスタッフを集めて意見交換会を開催しました。

OIST 研究員コミュニティ（ORC）及び学生評議会とも協力関係を築き、活動に対してのサポートを提供しました。

5205 がんじゅうでは、カウンセリングだけでなく、より多くのコミュニティメンバーに学びの機会を提供できるよう、教職員や学生に対してワークショップを複数回開催しました。また、依頼のあった特定のセクションやチームに対して、カスタマイズされたワークショップを提供しました。

5206 クラブの立ち上げの相談やクラブの代表者と各担当部署との橋渡し役になることでクラブ活動への適切な支援を行いました。また、予約管理システムの更新も行い、より効率的に予約の管理運営ができるようにしました。

令和 5 (2023) 年度事業計画

令和 5 (2023) 年度業績

自己
評価

宿舎内ラウンジ等の学園のコミュニティスペースの使用を管理・監督します。

5207 肉体的、社会的、精神的な健康を促進する学園のコミュニティ全体ためのレクリエーション活動、イベント、クラス、セミナーの企画と補助をします。

- イベント開催や施設の共同利用により、地域コミュニティと連携する機会を特定します
- 学園のコミュニティメンバーが参加できる沖縄のレジャー活動及び沖縄の文化的な機会を特定します

5208 学園内外のレクリエーション及びスポーツ施設の利用可能性を調査し、利用を促進します。

5209 ニーズ調査結果に基づき、職員とその家族、県内コミュニティメンバー向けに提供される言語クラスのサービスの質を改善します。

5210 より柔軟な指導スケジュールと、より良いプログラムの提供について検討します。

(子弟の教育・保育環境)

5207 コミュニティメンバーからのレク活動のニーズに対応すべく、計 12 回のワークショップを開催しました。

沖縄国税事務所と共催で「泡盛ワークショップ」を計 2 回開催し、沖縄の伝統的な酒の文化をコミュニティに紹介しました。

5208 学外でクラブ活動を行う際に発生する、施設利用にかかる手続きをサポートしました。

5209 授業外で語学を使う機会をより増やしたい学生が多いというアンケート調査の結果を踏まえ、キャンパス内外で様々なイベントを行いました。特に漢字や発音を学びたいという学生のニーズに応えるため、授業内容に取り入れました。

5210 基礎から上級まで、すべてのレベルの英語クラスを開講しました。外部スタッフを講師として増員したことにより、より柔軟な授業スケジュールでプログラムを提供することができ、英語と日本語のクラスともに、さらに充実したプログラムを提供することができました。

(子弟の教育・保育環境)

5211 保育サービスにおいて、STEM 及び SEL (対人関係能力育成) プログラムを通じ、教職員及び学生の子弟の教育環境の向上を図ります。

5212 質の高い、完全なバイリンガル (英語・日本語) の就学前及び就学児童 (学童保育/長期休暇) のための保育プログラム/教室を、チャイルドディベロップメントセンター (CDC) 及び小中学校プログラム (SAP) を通じて提供・開発します。これらのプログラムへの登録者数は今後も増加すると予想されています。

- CDC 及び SAP の適切な人材配置モデルを再検討し、質の高い保育サービスを確保します。
- CDC 及び SAP の収益と経費を見直し、適切な予算と料金を通じて持続可能な資金調達モデルを確立します。
- CDC 及び SAP のスペースのニーズについて検討します。
- CDC と SAP プログラムの管理及び職員のトレーニングプロセスを改善します。
- CDC 連絡委員会は、CDC 及び SAP プログラムを補助するために必要に応じて会合します。
- CDC 監督委員会は、CDC 及び SAP プログラムの運営をレビューし、必要に応じて助言・勧告します。
- CDC 保護者会は、CDC の管理部署と定期的に会合し、助言・勧告します。

5211 CDC では、5 つの分野 (身体、言語と読み書き、アート、STEM (科学、技術、工学、数学)、SEL (対人関係能力育成) を含めた保育内容、アクティビティを計画立てて実施しました。小中学校プログラム (SAP) においても STEM 及び SEL プログラムを実施しました。

5212 チャイルドディベロップメントセンター (CDC) 及び小中学校プログラム (SAP) において、質の高いバイリンガル (英語・日本語) の就学前及び就学児童のための保育プログラムを提供しました。

国が定める保育士配置基準より高い比率を維持し、一人ひとりに丁寧な保育を提供しました。

また、質の高いバイリンガル・プログラムを提供できる環境を維持するため、世界最大の幼児教育者会議に職員を派遣し、最新の教育方法や指導技術を取り入れ、園内における定期的な研修において共有するなどし、スキルの向上を図りました。

CDC と SAP では、持続可能な資金調達モデルを確立するため、定期的に予算をモニタリングし、適切な運営を行いました。また、両プログラムへの登録者の増加を見越し、スペースの有効活用について検討しました。

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績	自己評価
<p>5213 県内の公立学校に通う教職員・学生の子弟に適切な英語教育の機会を提供します。また、優れた教職員及び学生の採用と確保のため、家族が国際的にも認められる学校教育にアクセスできるようインターナショナルスクールについての情報提供及び学校補助金プログラム支援等を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 外国人及び日本人の家族のための沖縄県内の既存の教育機会について評価・レビューし、保護者がこの情報を容易に利用できるようにします。 - 教職員・学生の家族及び地域コミュニティのための国際バカロレア IB K-12 学校の実現可能性について検討します。 - インターナショナルスクールの保護者満足度調査を定期的実施し、教育・サポートサービスについて検証するプロセスを開発します。 		<p>5213 県内（地域）の学校に通う英語を母語とする教職員及び学生の子弟への英語教育を継続し、またより簡単に学校情報が入手できるよう専用ウェブサイトの構造を変更し、適宜更新しました。</p> <p>教員の採用候補者に対して、沖縄県内の学校情報を対面またはオンラインにより提供しました。</p> <p>子どもをもつ教職員及び学生が、直接学校情報を入手できるように、本学で沖縄県内のインターナショナルスクールが参加する説明会を開催しました。</p> <p>また、保護者のニーズをより詳しく把握し、施策に取り入れるため、沖縄での教育環境に関するアンケート調査を実施しました。</p>	
<p>(学生支援)</p> <p>5214 学生に安全で健全な環境を提供するため、学生が抱える問題の早期発見を積極的に推進し、部局内での円滑な連携を行うとともに、教員や関係部局間のコミュニケーション向上を図るなど、包括的な支援体制を講じます。</p> <p>5215 肉体的、社会的、精神的な健康を促進する学生のためのレクリエーション活動、イベント、クラス、セミナーの企画や支援をします。</p>		<p>(学生支援)</p> <p>5214 (1110再掲) 個別の相談に応じたり、解決策や必要なサポートを迅速に提供するなど、学生の福利厚生と学業の両面から積極的に支援しました。</p> <p>5215 文化体験ワークショップを計 12 回開催し、教職員・学生のみならず、多くのインターン生に、沖縄と日本の文化を体験してもらうことができました。</p>	
<p>5.3 安全の確保</p>	<p>緊急対応計画、事業継続計画の実効性確認を進めるため運用及び実地訓練を実施するとともに、職場巡視を通じ</p>		<p>A</p>

令和 5 (2023) 年度事業計画		令和 5 (2023) 年度業績		自己 評価
目標 (1)	て各部署の安全及び緊急時対応を確保します。			
5.3 安全の確保 取組 (1)	<p>(安全の確保)</p> <p>5301 緊急対応計画、事業継続計画の運用及び実地訓練を進めます。</p> <p>5302 職場巡視を通じて各部署の安全及び緊急時の体制を確保します。</p> <p>5303 恩納村と協力しながら、災害に強いキャンパス作りを進め、災害の際にはキャンパス施設を近隣住民の避難場所として提供します。</p>		<p>(安全の確保)</p> <p>5301 消防署との連携のもと総合的な火災避難訓練を実施し、避難行動をシミュレーションするとともに防災意識の向上を図りました。</p> <p>5302 安全衛生管理体制の維持・向上を目指し、安全衛生委員会、産業医（毎月）及び衛生管理者（毎週）による定期的な巡視を実施し、各研究室に対して、必要に応じ指導及び助言を行いました。その他、事故防止に関する取組みとして、発生した労災事故及びニアミスの事例に関する調査報告書を作成し、安全衛生委員会でレビューを行いました。その結果得られた知見は、学内における類似事故の再発防止を目的とした情報発信や、安全教育活動のために活用しました。</p> <p>5303 大規模な緊急事態が発生した場合、本学を近隣住民の避難場所として提供するため、非常用食料等の備蓄品を確保しています。消費期限の過ぎた非常食の有無を確認し、必要に応じて入れ替えを行い、また災害時に使用する資器材の増やし、備蓄体制の維持・強化を図りました。</p>	
5.4 環境への配慮 目標	環境に配慮しながら事業を推進し、また、国連が掲げるSDGsの方針に沿った取り組みを行います。			A
5.4 環境への配慮 取組	<p>(環境への配慮)</p> <p>5401 リサイクル製品の使用を推進します。</p>		<p>(環境への配慮)</p> <p>5401 費用面で適切でない場合を除き、可能な限りリサイクル製品・材料を使用しました。</p>	

5402 温室効果ガス排出量とエネルギー消費を把握し、抑制に努めます。

5402 当該年度から、LNG コージェネレーションシステムを契約し、電力超過防止に活用することで、LNG の使用量は 38.17%増加しましたが、CO2 排出量（16.34%減）、電力使用量（13.1%減）を大幅に削減することができました。

測定項目	使用量 (職員一人当・月)		削減量 (%)
	2022 年度	2023 年度	
CO2 排出量 (tCO2)	1.35	1.13	-16.34%
電力使用量 (kwh)	1,577	1,370	-13.10%
水道使用量 (m3)	4.25	4.12	-3.06%
A 重油使用量 (Liter)	58.25	42.08	-27.76%
LP ガス使用量 (m3)	0.09	0.08	-11.15%
LNG ガス使用量 (m3)	14.69	20.30	+38.17%

令和 5 (2023) 年度事業計画

令和 5 (2023) 年度業績

自己
評価

5403 水の再利用システムの適切な運用管理により、周辺水域への環境負荷の低減に努め、地下水への影響が無いようにします。

5404 施設整備に伴う各種建設工事において、濁水プラント施設を設置するなど、十分な赤土流出対策を講じます。

5405 生態系の維持や固有生物種の保護に資するようキャンパス施設・敷地を管理します。

5406 発電能力 80 k w 規模の太陽光発電システムを導入します。さらに、令和 9 年までの 5 年間で合計 500 k w 程度の太陽光発電システムの設置を計画し、実行します。

5403 定期的な水質検査、環境モニタリング調査を行い、周辺水域への環境負荷が、地下水への影響が無いことを確認しました。

	恩納村基準値	OIST 排水基準値
BOD	10ppm	2ppm
SS	10ppm	2ppm
PH	5~7	5~7

5404 当該年度中に発生した台風の影響による小規模な土砂崩落等について、迅速に処置を施し、赤土の水路や海への流出を最小限に抑えるよう対応しました。また、キャンパス内に戦略的に設置した調整池を活用し、赤土流出をゼロにするための取り組みを継続して行いました。

5405 固有生物種の保護や生態系の維持に資する為、環境モニタリング調査を実施し、キャンパス施設・敷地を適切に管理するように努めました。

5406 発電能力 80kw 規模の太陽光発電システムをエンジニアリングサポートビルの屋上に設置し、その運用を開始しました。

令和5年度 業務実績報告 添付資料リスト

No.	File No.	資料名
1	1. 1-1	外部の奨学金等を獲得した学生数
2	1. 1-2	令和5年度 学術交流協定一覧
3	1. 1-3	学生に関する情報
4	1. 2-1	令和5年度 OIST 研究施設の外部利用者
5	1. 2-2	令和5年度 OIST論文・発表数
6	1. 3-1	令和5年度 研究に関する受賞実績
7	1. 3-2	令和5年度 アウトリーチ活動実績
8	1. 4-1	令和5年度 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム
9	2. 4-1	令和5年度 職位毎・国籍別職員数
10	2. 4-2	令和5年度 職員の給与水準
11	2. 4-3	令和5年度 研修の受講職員数
12	3. 1-1	外部資金・寄附金獲得状況
13	4. 1-1	特許出願状況
14	4. 1-2	令和5年度 POCプロジェクト
15	4. 1-3	令和5年度 スタートアップ
16	4. 1-4	令和5年度 産業関連コラボレーション及びイノベーション関連セミナー・イベント

List of Attachment Documents to the FY2023 Performance Report

No.	File No.	Document Name
1	1. 1-1	Number of Students Receiving External Scholarships, etc.
2	1. 1-2	FY2023 List of Agreements with Other Universities
3	1. 1-3	Students Information
4	1. 2-1	FY2023 The Number of Use of our Research Facilities by External Organizations
5	1. 2-2	FY2023 OIST Publications and Presentations
6	1. 3-1	FY2023 Number of Research Honors/Awards
7	1. 3-2	FY2023 Outreach by Faculty and Researchers
8	1. 4-1	FY2023 List of OIST Funded Workshops/Mini-Symposia
9	2. 4-1	FY2023 Number of Employees
10	2. 4-2	FY2023 Salary Level of Employees
11	2. 4-3	FY2023 Number of Employees Taking Training Programs
12	3. 1-1	FY2023 External Grants and Donations Table
13	4. 1-1	Patent Status
14	4. 1-2	FY2023 POC Projects
15	4. 1-3	FY2023 Startups
16	4. 1-4	FY2023 Industry-related Collaboration and Innovation Seminars and Events

添付資料1.1-1 / Attachment 1.1-1

1. Number of external scholarship received in FY23 / 令和5年（2023）年度外部の奨学金等を獲得した学生数

External Fund	外部資金の名称	# of students receiving the fund/ 受給者数
FY23 JSPS Fellows (DC)	令和5年度採用分日本学術振興会特別研究員（DC）	10
ANRI Scholarship	ANRI奨学金	1
Tobe Maki Scholarship Foundation 継続	公益財団法人 戸部真紀財団 継続	1

2. Number of grant applications supported and success ratio in FY23 / 令和5（2023）年度外部資金申請者数

External Fund	外部資金の名称	# of application/申請者数	# of Acceptance/獲得数	Success Ratio/獲得率
FY24 JSPS fellows (DC)	令和6年度採用分日本学術振興会特別研究員（DC）	70	8	11%
JSPS Ikushi Prize	令和5年度日本学術振興会育志賞	3	0	0%
FY2024 JEES・T.Banaji Indiann Student Scholarshi	令和6年度JEES・T.バナージインド留学生奨学金	1	0	0%
FY2023 Tobe Maki Scholarship Foundation	2023年度（令和5年度） 公益財団法人 戸部真紀財団	2	0	0%

Attachment 1. 1-2 FY2023 List of Student Exchange Agreements with Other Universities

添付資料1. 1-2 令和5年度 学生交流協定一覧

University / Institution	大学・機関	Country	国	Type of Agreement	協定のタイプ	New / Continue	新規/継続
University of the Ryukyus	琉球大学	Japan	日本	Agreement of Cooperation	連携協力に関する協定書	Continue	継続
Okinawa National College of Technology	沖縄工業高等専門学校	Japan	日本	Agreement of Cooperation	連携協力に関する協定書	Continue	継続
Graduate School of Medicine, Osaka University	大阪大学大学院医学系研究科	Japan	日本	Special Research Student	特別研究学生	Continue	継続
Institute of Medical Science, The University of Tokyo	東京大学医学研究所	Japan	日本	Academic Exchange Agreement	学術交流協定	Continue	継続
Okinawa Churashima Foundation	沖縄美ら島財団	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
School of Science, The University of Tokyo	東京大学 ・ 理学部	Japan	日本	Memorandum of Understanding on Student Exchange	学生交流に関する覚書	Continue	継続
The University of Tokyo	東京大学	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
Academia Sinica	中央研究院	Taiwan	台湾	Memorandum of Understanding on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する覚書	Continue	継続
RIKEN	理化学研究所	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
The Hebrew University of Jerusalem (HUJI)	ザ・ヒーブロー・ユニバーシティ・オブ・エルサレム	Israel	イスラエル	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導に関する合意書	Continue	継続
National Chiao Tung University	国立交通大学	Taiwan	台湾	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
Okinawa City Board of Education	沖縄市教育委員会	Japan	日本	Agreement on Mutual Collaboration and Cooperation on Academic Research and Human Resource Development	学術研究及び人材育成に係る相互連携・協力協定書	Continue	継続
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
University of Texas Health Science Center at San Antonio	テキサス大学サンアントニオ校健康科学センター	USA	米国	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	Continue	継続
Keio University	学校法人慶應義塾（慶應義塾大学）	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
Weizmann Institute of Science	ワイツマン科学研究所	Israel	イスラエル	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導のための契約締結について	Continue	継続
University of Tokyo	東京大学	Japan	日本	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導のための契約締結について	Continue	継続
Queen Mary University London	クイーン・メアリー ロンドン大学 (QMUL)	UK	英国	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	Continue	継続
Naha Coast Guard Office	那覇海上保安部	Japan	日本	Comprehensive Collaboration Agreement	包括業務協力に関する協定書	Continue	継続
Stanford University	スタンフォード大学	USA	米国	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	Continue	継続
Universidad Nacional de San Martín	サンマルティン国立大学	Argentina	アルゼンチン	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement (1901026)	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
Max Planck Institute for Neurobiology of Behavior - caesar (MPINB)	マクスプランク (MPINB)	Germany	ドイツ	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
Japan Advanced Institute of Science and Technology (JAIST)	北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST)	Japan	日本	MOU for sending an OIST staff for training	職員の派遣研修に係る覚書	New	新規
LOEWE Center for Translational Biodiversity Genomics ("LOEWE-TBG")	ロエベ・トランスレーショナル・バイオダイバーシティ・ゲノミクス・センター	Germany	ドイツ	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
Nara Institute of Science and Technology (NAIST)	奈良先端科学技術大学院大学	Japan	日本	Agreement on Special Research Students Exchange	特別研究学生交流に関する協定書	Continue	継続
Universidad Politécnica de Madrid (UPM)	ポリテクニカ・デ・マドリード大学	Spain	スペイン	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導のための契約締結について	Continue	継続

Attachment 1. 1-3 Students Information

添付資料1. 1-3 学生に関する情報

	Metrics	指標	Number / 数値
1	Number of applications for the PhD program (AY2023)	国内外からの博士課程志願者数 (令和5学年度)	825
	Japanese	国内	29
	International	海外	796
	Male	男性	569
	Female	女性	256
2	Number of admitted PhD students (Class 2023)	国内外からの博士課程入学者数 (令和5年度入学生)	55
	Japanese	国内	10
	International	海外	45
	Male	男性	33
	Female	女性	22
3	Number of graduates (Total)	博士課程修了者数 (合計)	140
	AY2016	平成28学年度	7
	AY2017	平成29学年度	13
	AY2018	平成30学年度	15
	AY2019	令和元学年度	25
	AY2020	令和2学年度	17
	AY2021	令和3学年度	23
	AY2022	令和4学年度	30
	AY2023*	令和5学年度*	10
4	PhD student retention rate (%)*	博士課程学生の定着率*	
	Class 2012	平成24年度入学生	85
	Class 2013	平成25年度入学生	85
	Class 2014	平成26年度入学生	85
	Class 2015	平成27年度入学生	88
	Class 2016	平成28年度入学生	91
	Class 2017	平成29年度入学生	84
	Class 2018	平成30年度入学生	88
	Class 2019	令和元年度入学生	87
	Class 2020	令和2年度入学生	87
	Class 2021	令和3年度入学生	93
	Class 2022	令和4年度入学生	94
	Class 2023	令和5年度入学生	98
5	Average number of students per faculty member*	教員1人あたりの平均学生数*	3
6	Average year for graduation**	卒業までに要した平均年数*	5.8
7	Number of applications for the RI program (GS fund and Unit fund)	リサーチインターンシップ・プログラム応募者数 (研究科オフィス及びユニットの予算負担)	
	AY2019	令和元学年度	2,894
	AY2020	令和2学年度	3,723
	AY2021	令和3学年度	3,118
	AY2022	令和4学年度	2,947
	AY2023*	令和5学年度*	6,547
8	Number of Research Interns (GS fund and Unit fund)	リサーチインターンの人数 (研究科オフィス及びユニットの予算負担)	
	AY2019	令和元学年度	52
	AY2020	令和2学年度	57
	AY2021	令和3学年度	117
	AY2022	令和4学年度	193
	AY2023*	令和5学年度*	89
9	Number of student exchange agreements with other universities* (List of FY2023 separately attached)	学生交流協定締結数* (令和5年度の締結分は「学生交流協定一覧」に別途記載)	29

添付資料 1.2-1 令和 5 年度 OIST 研究施設の外部利用者

Attachment 1.2-1 FY2023 The Number of Use of our Research Facilities by External Organizations

OIST 研究施設の外部利用者（令和 5 年度）

組織	機器	セッション数	利用金額 (税込 / 円)
大学 A	電子ビーム加熱真空装置	3	202,400
会社 A	レーザーカッター	1	5,060
会社 B	透過型電子顕微鏡	3	66,550
	フーリエ変換赤外線分光光度計	2	
	X 線回析装置	2	

The number of use of our research facilities by external organizations

Organization	Equipment	Number of sessions	Billed amount (tax included/JPY)
University A	E-beam evaporator	3	202,400
Company A	Laser cutter	1	5,060
Company B	TEM	3	66,550
	FTIR	2	
	XRD	2	

添付資料1.2-2 令和5年度 OIST論文・発表数

Attachment 1.2-2 FY2023 OIST Publications and Presentations

OIST 論文数・講演数

(ユニット別)

令和5年度

OIST Scientific Productivity

(by unit)

FY2023

	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術論文(国際会議論文含む)	セミナーの数, 学会でのプレゼン(ポスタープレゼン含む)の数	博士論文、オンラインデータベース等	ユニット別合計
	Total	16	572	1410	56	2054
1	Aaraj	0	0	0	0	0
2	Abdulla	0	4	6	0	10
3	Armitage	0	5	12	0	17
4	Bandi	0	1	11	0	12
5	Bourguignon	0	14	38	1	53
6	Busch	0	9	34	0	43
7	Chakraborty	0	2	12	0	14
8	Christine Luscombe	0	9	35	0	44
9	Cid	0	1	3	0	4
10	Dani	0	3	33	1	37
11	De Schutter	0	10	5	1	16
12	Dieckmann	0	10	5	0	15
13	Doya	4	17	49	2	72
14	Economo	0	33	21	0	54
15	Ekert	0	3	13	0	16
16	Elkouss	0	6	23	0	29
17	Feichtner-Kozlov	0	0	0	0	0
18	Feng	0	2	2	0	4
19	Fried	0	9	10	1	20
20	Froese	1	19	17	0	37
21	Fukai	0	5	10	1	16
22	Fukunaga	1	3	7	1	12

	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術論文(国際会議論文含む)	セミナーの数, 学会でのプレゼン(ポスタープレゼン含む)の数	博士論文、オンラインデータベース等	ユニット別合計
23	Gioia	0	0	2	0	2
24	Goda	0	2	11	0	13
25	Goryanin	0	13	10	4	27
26	Hikami	1	5	8	0	14
27	Höhn	0	7	24	0	31
28	Husnik	0	7	16	0	23
29	Ishikawa	0	1	2	2	5
30	Kabe	1	4	13	0	18
31	Kazu Unit	1	2	14	0	17
32	Khusnutdinova	0	7	9	1	17
33	Kitano	0	5	5	0	10
34	Kiyomitsu	0	1	4	0	5
35	Kondrashov	0	6	7	0	13
36	Kono	0	4	21	2	27
37	Konstantinov	0	2	7	0	9
38	Kuhn	1	4	8	0	13
39	Kusumi	0	4	12	0	16
40	Laudet	0	13	25	0	38
41	Laurino	1	19	48	7	75
42	Liu	0	3	8	0	11
43	Luscombe	0	9	4	0	13
44	Masai	0	1	13	1	15
45	Meitinger	0	1	11	0	12
46	Miller	0	2	8	0	10
47	Mitarai	0	4	18	1	23
48	Munro	0	3	13	0	16
49	Myers	0	5	4	4	13
50	Narita	0	12	26	0	38
51	Neiman	0	14	39	0	53

	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術論文(国際会議論文含む)	セミナーの数, 学会でのプレゼン(ポスタープレゼン含む)の数	博士論文、オンラインデータベース等	ユニット別合計
52	Nemoto	0	8	35	1	44
53	Nic Chormaic	0	17	59	2	78
54	Okada	0	1	22	3	26
55	Pääbo	0	1	6	0	7
56	Pao	0	1	17	1	19
57	Pigolotti	0	6	5	2	13
58	Qi	0	17	8	0	25
59	Ravasi	0	12	18	1	31
60	Reiter	0	3	19	0	22
61	Rokhsar	0	13	10	0	23
62	Rosti	0	11	38	2	51
63	Sallan	1	4	19	0	24
64	Satoh	0	11	7	1	19
65	Saze	1	3	13	0	17
66	Shannon	0	8	29	0	37
67	Shen	0	17	36	0	53
68	Shintake	0	4	6	0	10
69	Sitsel	0	2	0	0	2
70	Speyer	0	4	19	0	23
71	Stephens	0	4	16	4	24
72	Szöllösi	0	3	10	1	14
73	Takahashi Hiroki	0	0	15	0	15
74	Takahashi Tomoyuki	0	2	3	0	5
75	Tanaka	1	5	7	0	13
76	Tani	0	5	7	1	13
77	Terenzio	1	2	5	1	9
78	Toriumi	0	3	24	0	27
79	Touber	0	1	6	1	8
80	Tripp	0	8	34	0	42

	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術論文(国際会議論文含む)	セミナーの数, 学会でのプレゼン(ポスタープレゼン含む)の数	博士論文、オンラインデータベース等	ユニット別合計
81	Twamley	0	8	17	0	25
82	Uusisaari	0	0	19	0	19
83	Watanabe	0	3	14	1	18
84	Wickens	0	5	2	0	7
85	Wolf	0	9	10	0	19
86	Yamada	0	14	3	0	17
87	Yamamoto	0	5	19	0	24
88	Yazaki-Sugiyama	0	2	12	2	16
89	Yokobayashi	0	2	22	1	25
90	Yoshida	0	3	15	1	19
91	Zhou	0	3	8	0	11
-	Science and Technology Group	1	17	40	0	58

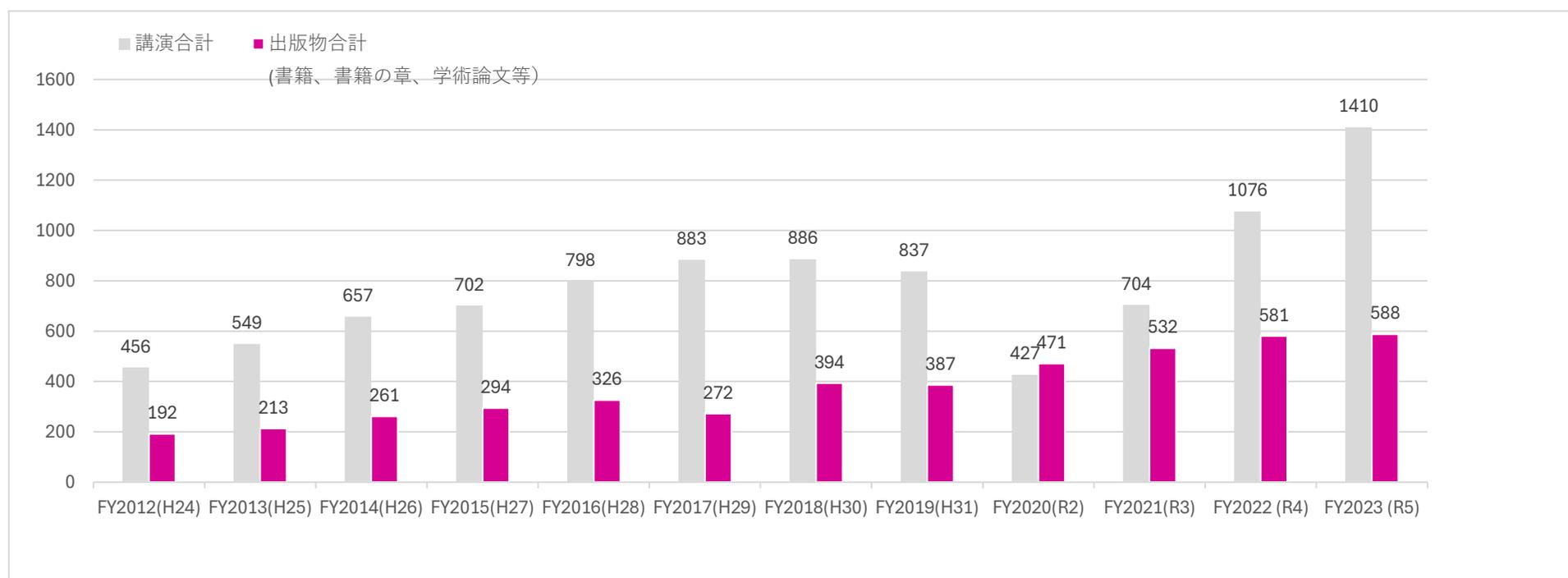
OIST論文数・講演数

(平成24-令和5年度)

OIST Scientific Productivity

(FY2012-2023)

	書籍の 執筆・編集	書籍の章及び 学術論文	学会での講演 (ポスタープレゼンを含 む)	セミナー	博士論文, オンライン データベース等	講演合計	出版物合計 (書籍、書籍の章、学術論 文等)
	Books and edited books	Book Chapters and Journal Articles	Presentations at conferences including poster presentations	Seminars	Dissertations, online databases, etc	Presentations and seminars	Publications (including books and book chapters)
FY2012(H24)		192	309	147	0	456	192
FY2013(H25)	2	211	430	119	0	549	213
FY2014(H26)		261	491	166	0	657	261
FY2015(H27)	2	292	535	167	1	702	294
FY2016(H28)	2	324	616	182	4	798	326
FY2017(H29)	2	270	692	191	7	883	272
FY2018(H30)	1	393	703	183	3	886	394
FY2019(H31)	7	380	641	196	16	837	387
FY2020(R2)	1	470	302	125	33	427	471
FY2021(R3)	3	529	487	217	33	704	532
FY2022 (R4)	2	579	783	293	62	1076	581
FY2023 (R5)	4	584	1065	345	56	1410	588



複数教員による共同出版数（令和5年度）

Number of joint publications between different faculty members (FY2023)

FY2023 OIST Internal Collaborative Publications

(1) Hirota, M., Tamai, M., Yukawa, S., Taira, N., Matthews, M. M., Toma, T., Seto, Y., Yoshida, M., Toguchi, S., Miyagi, M., Mori, T., Tomori, H., Tamai, O., Kina, M., Sakihara, E., Yamashiro, C., Miyagi, M., Tamaki, K., Wolf, M., Collins, M. K., Kitano, H., Ishikawa, H.;

Human immune and gut microbial parameters associated with inter-individual variations in COVID-19 mRNA vaccine-induced immunity. *Communications Biology* **2023**, 6, 368

<https://doi.org/10.1038/s42003-023-04755-9>

(2) Tamai, M., Taba, S., Mise, T., Yamashita, M., Ishikawa, H., Shintake, T.;

Effect of Ethanol Vapor Inhalation Treatment on Lethal Respiratory Viral Infection With Influenza A. *Journal of Infectious Diseases* **2023**, 228(12), 1720-1729

<https://doi.org/10.1093/infdis/jiad089>

(3) Silic, B., Aggarwal, M., Liyanagama, K., Tripp, G., Wickens, J. R.;

Conditioned approach behavior of SHR and SD rats during Pavlovian conditioning. *Behavioural Brain Research* **2023**, 443, 114348

<https://doi.org/10.1016/j.bbr.2023.114348>

(4) Dinets, V., Friedman, N. R., Ogasawara, M., Yoshimura, M., Economo, E. P.;

Impacts on Bats by a Supertyphoon vs. Ordinary Typhoons along a Habitat Urbanization Gradient. *Research in Ecology* **2023**, 5(2), 14-27

<https://doi.org/10.30564/re.v5i2.5748>

(5) Chan, S. T., Haward, S. J., Fried, E., McKinley, G. H.;

The rheology of saltwater taffy featured. *Physics of Fluids* **2023**, 35, 093106

<https://doi.org/10.1063/5.0163715>

(6) Hayashi, A., Sakurai, A., Nishio, S., Munro, W. J., Nemoto, K.

Impact of the form of weighted networks on the quantum extreme reservoir computation. *Physical Review A* **2023**, 108(4), 042609

<https://doi.org/10.1103/PhysRevA.108.042609>

(7) Zhu, X., Chen, Q., Zhao, H., Yang, Q., Goudappagouda, Gelléri, M., Ritz, S., Ng, D., Koynov, K., Parekh, S. H., Chetty, V. K., Thakur, B. K., Cremer, C., Landfester, K., Müllen, K., Terenzio, M., Bonn, M., Narita, A., Liu, X.

Intrinsic Burst-Blinking Nanographenes for Super-Resolution Bioimaging. *Journal of the American Chemical Society* **2024**, 146, 5195-5203

<https://doi.org/10.1021/jacs.3c11152>

The above collaborative publications were published by the following units:

- 1) Wolf, Kitano, Ishikawa
- 2) Ishikawa, Shintake
- 3) Tripp, Wickens
- 4) STG, Economo
- 5) Fried, Shen
- 6) Nemoto, Munro
- 7) Narita, Terenzio

添付資料1.3-1 令和5年度研究に関する受賞実績
受賞実績(教員)

No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
1	クリスティーヌ・ラスカム ユニット (パイ共役ポリマーユニット)	クリスティーヌ・ラスカム	Materials Horizons誌・2022年優秀レビュー賞	クリスティーヌ・ラスカム教授が筆頭著者である論文“Organic building blocks at inorganic nanomaterial interfaces”が、英国王立化学会の「Materials Horizons Outstanding Review Winner 2022」に選ばれました。	https://www.rsc.org/journals-books-databases/about-journals/materials-horizons/outstanding-paper-award-of-materials-horizons/	2023年4月25日
2	ニコーマック ユニット (量子技術のための光・物質相互作用ユニット)	シーレ・ニコーマック	ケムニッツ工科大学客員研究員賞	シーレ・ニコーマック教授はケムニッツ工科大学から研究パートナーシップの確立を評価され、客員研究員賞を受賞しました。		2023年5月16日
3	合田 ユニット (シナプス生物学ユニット)	合田裕紀子	欧州分子生物学機構Associate Member	欧州分子生物学機構 (EMBO) のAssociate Memberに合田裕紀子教授が選出されました。	https://www.embo.org/people/connecting-minds/	2023年7月4日
4	クリスティーヌ・ラスカム ユニット (パイ共役ポリマーユニット)	クリスティーヌ・ラスカム	Nanoscale誌・優秀査読者2022	英国王立化学会 (Royal Society of Chemistry) が発行するNanoscale誌において、reviewer (論文査読者) として多大な貢献を果たしたものとして、クリスティーヌ・ラスカム教授が“Outstanding Reviewers 2022”の一人に選出されました。Outstanding Reviewersは、査読数、迅速性、査読内容のクオリティによって選ばれます。	https://pubs.rsc.org/en/content/articlelanding/2023/nr/d3nr90105j	2023年7月6日
5	チー ユニット (エネルギー材料と表面科学ユニット)	ヤビン・チー	AVSフェロー	ヤビン・チー教授は、AVSの関心分野における継続的かつ顕著な貢献により、米国真空学会 (AVS) のフェローに選出されました。	https://avs.org/awards/society-honors/fellow-of-the-society/	2023年8月
6	ウーシサーリ ユニット (神経活動リズムと運動遂行ユニット)	マリルカ・ヨエ・ウーシサーリ	優秀プレゼンテーション特別賞	マリルカ・ヨエ・ウーシサーリ准教授と、博士課程学生のデヴィアナ・デイヴィッドさんは、2023年8月に米国で行われた「ゴードン・リサーチ・カンファレンス」学会において、優秀プレゼンテーション特別賞を受賞しました。		2023年8月
7	シェン ユニット (マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット)	エイミー・シェン	2022ウォルターズブライズ	エイミー・シェン教授とユニットメンバーのスタイリアノス・ヴァルカハニス博士、サイモン・ハワード博士は、論文によりウォルターズブライズを受賞しました。		2023年8月3日
8	バオラ ユニット (タンパク質工学・進化ユニット)	バオラ・ラウリーノ	ChemBioTalentに特集	バオラ・ラウリーノ准教授は、4年に1度発行されるChemBioTalentジャーナルで特集されました。このジャーナルは才能のある若手生物化学研究者を取り上げるものです。		2023年8月7日
9	深井 ユニット (神経情報・脳計算ユニット)	深井朋樹	2023年度日本神経回路学会学術賞	深井朋樹教授は、長年に亘って神経回路学分野の発展に貢献した研究者に贈られる、2023年度日本神経回路学会 (JNNS) 学術賞を授与されました。	https://jnns.org/winner/2023%e5%b9%b4%e5%ba%a6/	2023年9月6日
10	ペーボ ユニット (ヒト進化ゲノミクスユニット)	スバンテ・ペーボ	アメリカ自然史博物館名誉博士号	古代ネアンデルタール人のDNA塩基配列の解読など、驚異的な業績により2022年にノーベル賞を受賞した古遺伝学のパイオニア、スバンテ・ペーボ教授 (アジャンクト) にアメリカ自然史博物館より名誉科学博士号が授与されました。	https://www.amnh.org/about/press-center/richard-gilder-graduate-school-commencement-2023	2023年9月27日
11	ペーボ ユニット (ヒト進化ゲノミクスユニット)	スバンテ・ペーボ	中国科学院外国人会員	スバンテ・ペーボ教授 (アジャンクト) が、中国北京の中国科学院から外国人会員の称号を授与されました。	http://casad.cas.cn/ysxx2022/wjys/202312/t20231205_4990333.html	2023年10月
12	ペーボ ユニット (ヒト進化ゲノミクスユニット)	スバンテ・ペーボ	ウプサラ大学2023年最優秀学友賞	2022年にノーベル生理学・医学賞を受賞したスバンテ・ペーボ教授 (アジャンクト) に対し、ウプサラ大学2023年最優秀学友賞が贈られました。	https://www.uu.se/en/about-uu/academic-traditions/traditions/alumnus-of-the-year	2023年10月9日

No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
13	ダニ ユニット (フェムト秒分光法ユニット)	ケシャヴ・ダニ	Falling Walls Science Breakthrough in Physical Science, Winners 2023	ケシャヴ・ダニ教授はThe Falling Walls Foundationより「暗い励起子」の視覚化に成功した実績により Winner 2023 Falling Walls Science Breakthrough in Physical Science を受賞しました。	https://falling-walls.com/science-summit/winners/	2023年11月9日
14	チー ユニット (エネルギー材料と表面科学ユニット)	ヤビン・チー	クラリベイト高被引用研究者賞	ヤビン・チー教授は、その影響力のある研究成果により、クラリベイトの高被引用研究者として認められました。	https://clarivate.com/highly-cited-researchers/	2023年11月15日
15	クリスティーン・ラスカム ユニット (パイ共役ポリマーユニット)	クリスティーン・ラスカム	IUPAC (国際純正・応用化学連合) 理事就任	クリスティーン・ラスカム教授がIUPAC (国際純正・応用化学連合) の理事へ就任されました。	https://iupac.org/2023-nominees-for-election-of-iupac-officers-executive-and-science-boards/	2024年1月
16	クリスティーン・ラスカム ユニット (パイ共役ポリマーユニット)	クリスティーン・ラスカム	Materials Research Society 理事就任	クリスティーン・ラスカム教授がMaterials Research Societyの理事へ就任されました。	https://www.mrs.org/about-mrs/governance/board-of-directors	2024年1月
17	エカート ユニット (量子情報セキュリティユニット)	アーサー・エカート	The Royal Society Milner Award and Lecture	この賞は、ヨーロッパの傑出したコンピュータ科学者、多大な貢献をし、さらにトップレベルの業績を残すと思われる人物を表彰するために授与されるもので、この度アーサー・エカート教授 (アジャクト) が受賞しました。	https://royalsociety.org/medals-and-prizes/milner-award/	2024年1月
18	成田 ユニット (有機・炭素ナノ材料ユニット)	成田明光	JAFOE Best Speaker Award	成田明光教授は2023年7月18日から20日に開催された第16回日米先端工学 (JAFOE) シンポジウムにおける優れた講演により日本工学アカデミーと全米工学アカデミーからBest Speaker Awardを授与されました。	https://www.eaj.or.jp/?p=13454; https://www.eaj.or.jp/?ai/ec_event=event-20240118-jafoe-award2023	2024年1月18日
19	クリスティーン・ラスカム ユニット (パイ共役ポリマーユニット)	クリスティーン・ラスカム	Industrial Chemistry and Materials誌 優秀査読者 2023	英国王立化学会 (Royal Society of Chemistry) が発行するIndustrial Chemistry and Materials誌において、reviewer (論文査読者) として多大な貢献を果たしたものとして、クリスティーン・ラスカム教授が "Outstanding Reviewers 2023" の一人に選出されました。Outstanding Reviewersは、査読数、迅速性、査読内容のクオリティによって選ばれます。	https://blogs.rsc.org/im/2024/02/05/congratulations-industrial-chemistry-materials-outstanding-reviewers-2023/?doing_wp_cron=170	2024年2月5日
20	ダニ ユニット (フェムト秒分光法ユニット)	ケシャヴ・ダニ	第20回 (令和5年度) 日本学術振興会賞	ダニ・ケシャヴ教授は、第20回 (令和5年度) 日本学術振興会賞を「実空間および運動量空間における光励起現象の可視化」の功績により受賞した。	https://www.jsps.go.jp/j-jspz-prize/kettei.html	2024年3月7日
21	チー ユニット (エネルギー材料と表面科学ユニット)	ヤビン・チー	日本学術振興会賞	ヤビン・チー教授は、表面科学とペロブスカイト太陽電池への顕著な貢献により、日本学術振興会より日本学術振興会賞を受賞しました。	https://www.jsps.go.jp/j-jspz-prize/kettei.html	2024年3月7日
22	アミテージ ユニット (統合群集生態学ユニット)	デイヴィッド・アミテージ	日本生態学会宮地賞	日本生態学会宮地賞は、生態学に大きな貢献をしている本学会の若手会員に対して、その研究業績を表彰するものです。	https://www.esj.ne.jp/esj/award/index.html	2024年3月18日

受賞実績(研究員・学生)

No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
1	ウーシサーリ ユニット (神経活動リズムと運動遂行ユニット)	イグナトフスカ ヤンコフスカ ボグナ (研究員)	2023年度ICRS研究助成賞	ポストドクのイグナトフスカ ヤンコフスカ ボグナ博士は、国際カンナビノイド学会の「2023年度研究助成賞 (450米ドル)」を受賞しました。		2023年5月1日
2	シェン ユニット (マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット)	安倍紘平 (日本学術振興会特別研究員)	第13回アジアコーティングワークショップにて金賞	日本学術振興会特別研究員の安倍紘平博士は第13回アジアコーティングワークショップにて "In-situ measurement of particle-concentration profiles in a drying suspension with optical coherence tomography" と題した発表を行い金賞を受賞しました。		2023年5月12日

No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
3	新竹 ユニット (量子波光学顕微鏡ユニット)	安谷屋秀仁 (技術員)	顕微鏡学会編集委員賞	安谷屋秀仁博士 (技術員) が筆頭著者である、顕微鏡学会発行の"Microscopy" Vol.72 に掲載された"Low-energy scanning transmission electron microscopy applied to ice-embedded biological macromolecules" が、顕微鏡学会編集委員賞に選出されました。	https://doi.org/10.1093/jmicro/dfac056	2023年6月
4	ラウデット ユニット (海洋生態進化発生生物学ユニット)	柏本理緒 (博士課程学生)	日本動物学会 Zoological Science Award 2023 (論文賞)	博士課程学生の柏本理緒さんは、公益社団法人日本動物学会のZoological Science Award (論文賞) を受賞しました。 *Zoological Science Awardとは、年度内にZoological Scienceに掲載された論文のうち、特に優れた研究に対して贈られるものです。	https://www.zoology.or.jp/news/230617_zoological-science-award-2023	2023年6月17日
5	パオラ ユニット (タンパク質工学・進化ユニット)	落合佳樹 (博士課程学生)	日本生化学会九州支部例会ポスター賞	博士課程学生落合佳樹さんは令和5年日本生化学会九州支部例会でポスター賞を受賞しました。		2023年6月24日
6	パオラ ユニット (タンパク質工学・進化ユニット)	アレッサンドロ・ベピラクア (博士課程学生)	分子生物進化学会からの奨学金	分子生物進化学会のカンファレンスに参加費用と旅費を補助する奨学金を授与されました。		2023年7月11日
7	パオラ ユニット (タンパク質工学・進化ユニット)	落合佳樹 (博士課程学生)	プロテイン・ソサイエティ若手研究員トラベルアワード	第37回プロテイン・ソサイエティの学会でトラベルアワードを受賞しました。		2023年7月16日
8	エコノモ ユニット (生物多様性・複雑性研究ユニット)	水野理央 (研究員)	第25回大会 ポストドクトラ発表賞	水野理央博士 (ポストドクトラルスカラー) は、進化学の発展に寄与する研究を行っていることから、日本進化学会第25回沖縄大会から第25回大会ポストドクトラ発表賞優秀賞を授与されました。	http://sesj.kenkyuukai.jp/special/index.asp?id=41048#an1	2023年9月2日
9	サイエンス・テクノロジー・グループ	太田緑 (研究員)	トラベルアワード	トルコ開催EMBOワークショップのためのトラベルアワードを受賞しました。	https://meetings.embo.org/event/23-centrosomes	2023年9月26日
10	サイエンス・テクノロジー・グループ	太田緑 (研究員)	ベストポスター賞	トルコ開催EMBOワークショップにて、ベストポスター賞を受賞しました。	https://meetings.embo.org/event/23-centrosomes	2023年9月29日
11	エコノモ ユニット (生物多様性・複雑性研究ユニット)	レオナルド・トゼット (博士課程学生)	第26回シンポジウム・デ・ミルメロロジャ：国際アリ会議2023、マナウス、アマゾナス、ベストオーラルプレゼンテーション賞	レオナルド・トゼットさん (博士課程学生) は、アリの変態期間中の体の発達における急激な変化の理解に寄与したこと、そしてこれまであまり探求されてこなかったアリの多様性と発達の新しい側面を発表したことが認められ、「第26回シンポジウム・デ・ミルメロロジャ：国際アリ会議2023、マナウス、アマゾナス (XXVI Simpósio de Mimerologia: An International Ant Meeting 2023, Manaus, Amazonas)」のベストオーラルプレゼンテーション賞を受賞しました。	https://mirmeco.com.br/main	2023年10月26日
12	横林 ユニット (核酸化学・工学ユニット)	サミュエル・ハウフ (研究員)	大塚賞 (ISNAC Outstanding Oral Presentation Award for Young Scientist)	ハウフ博士は第50回国際核酸化学シンポジウム (ISNAC 2023) における口頭発表において、大塚賞 (ISNAC Outstanding Oral Presentation Award for Young Scientist) を受賞しました。	https://web.apollon.nta.co.jp/isnac2023/award_winners.htm	2023年11月2日

No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
13	チー ユニット (エネルギー材料と表面科学ユニット)	大野勝也 (研究員)	クラリベイト高被引用研究者賞	大野勝也博士は、その影響力のある研究成果により、クラリベイトの高被引用研究者として認められた。	https://clarivate.com/highly-cited-researchers/	2023年11月15日
14	パオラ ユニット (タンパク質工学・進化ユニット)	ベンジャミン・クリフトン (研究員)	日本生物物理学会若手招待講演賞	スタッフサイエンティストのクリフトン博士は生物物理学の発展に貢献する優秀な発表を行った会員に贈呈する若手招待講演賞を受賞しました。		2023年11月16日
15	根本 ユニット (量子情報科学・技術ユニット)	西尾真 (特別研究学生)	LOQCathon 2.0's Hackathon champions 第3位	特別研究学生の西尾真さんのTeam6は、フランス ハッカソンイベント LOQCathon 2.0において、優秀な発表として第3位に選ばれました。		2023年11月17日
16	河野 ユニット (膜生物学ユニット)	須田晃治郎 (博士課程学生)	ポスター賞	博士課程学生の須田晃治郎さんは、日中韓フォーサイトプログラム キックオフミーティングでの優れた発表に対して、日本学術振興会 日中韓フォーサイト事業部からポスター賞を受賞しました。	https://www.a3senescence2023jfc.jp/exchange/20231012/index.html	2024年1月12日
17	エコノモ ユニット (生物多様性・複雑性研究ユニット)	エイドリアン・リヒター (研究員)	第25回 R.J.H. Hintelmann 動物分類学賞	エイドリアン・リヒター博士 (リサーチフェロー) は、進化生物学 (特に動物学に焦点を当てたもので、動物分類学、系統学、古生物学、形態学、動物学、または動物地理学が含まれる) における優れた業績に対して、ミュンヘン州立動物園コレクション友の会 (Friends of the Zoological State Collection Munich) から第25回R.J.H. Hintelmann賞を受賞しました。	https://de.wikipedia.org/wiki/Hintelmann_Wissenschaftspreis https://www.bcr-zoologische-systematik.de/freunde-zsm.de/aktivitaeten/	2024年1月12日
18	サラーン ユニット (大進化ユニット)	久保泰 (研究員)	古生物学会学術賞	スタッフサイエンティストの久保泰博士は「主竜形類を中心とした四肢動物の進化古生物学的・機能形態学的研究」に対して古生物学会から学術賞を授与されました。	https://www.palaeo-soc-japan.jp/awards/	2024年1月31日
19	パオラ ユニット (タンパク質工学・進化ユニット)	アレックスandro・ベビラクア (博士課程学生)	国際生化学・分子生物学連合トラベルアワード	博士課程学生のアレックスandro・ベビラクアさんは、ヤングサイエンティストフォーラムおよび欧州生化学会連盟の学会の参加費用となるトラベルアワードを授与されました。		2024年2月13日
20	トリップ ユニット (発達神経生物学ユニット)	イザベラ・ステファニア・ボレブスカ (博士課程学生)	最優秀ポスター・プレゼンテーション賞	博士課程学生のイザベラ・ステファニア・ボレブスカさんは、第15回HOPEミーティングにて日本学術振興会より最優秀ポスター・プレゼンテーション賞を受賞しました。	https://www.jsps.go.jp/j-hope/	2024年3月

Attachment 1. 3-2 Outreach by Faculty and Researchers / 1. 3-2 令和5年度アウトリーチ活動実績

延べ数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Collaborator Name	研究ユニット/セクション Unit/Section	内容/Contents	会場/Venue	グループ/ Group	参加者数 / Number of people
1	1	2023/4/20	開邦中学校 School visit program	Tatsuki Hamamoto	Experimental Quantum Information Physics Unit 量子情報物理実験ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	OJ	80
2	2	2023/4/20	アメリカンスクール沖縄 AmerAsian School in Okinawa	Krishna Jadeja	Quantum Machines Unit 量子マシンユニット	Research outline/研究紹介	アメリカンスクール沖縄	OJ	20
3	3	2023/4/22	親子映画会「Our Planet」 Movie Screening ~Our Planet~	Manon Mercader Dewi	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Science event/科学イベント	OIST	G	450
4	4	2023/4/27	沖縄クリスチャンインターナショナル スクール School visit program	Tatsuki Hamamoto	Experimental Quantum Information Physics Unit 量子情報物理実験ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	OH	16
5	5	2023/5/8	鏡原中学校 School visit program	Michael Izumiyama	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	OJ	220
6	6	2023/5/16	The American School in Japan School visit program	Nonno Hasegawa	Integrative Community Ecology Unit 統合群集生態学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	H	27
7	7	2023/6/28	うんな中学校職業体験（6/28-6/29開 催） Work Experience program for Unna jr. high school students	Tomoka Yoseyama	Memory Research Unit 記憶研究ユニット	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	3
8		2023/6/28		Hisashi Gakiya	Media Relations Section メディア連携セクション	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
9		2023/6/28		Mari Takenouchi	Translation and Interpretation Team 翻訳・通訳チーム	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
10		2023/6/28		Fuka Kojia	Instrumental Analysis Section 機器分析セクション	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
11		2023/6/28		Minato Miyake	Evolutionary Neurobiology Unit 進化神経生物学ユニット	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
12		2023/6/28		Riou Mizuno, Adrian Richter Gaurav Agavekar	Biodiversity and Biocomplexity Unit 生物多様性・複雑性研究ユニット	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
13		2023/6/28		Hidetoshi Saze Harukawa Yoshiko	Plant Epigenetics Unit 植物エピジェネティクスユニット	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
14	8	2023/7/13	与勝緑が丘中学校 ADHDトーク Yokatsu Midorigaoka Junior High School ADHD Talk	(Unit Members)	Human Developmental Neurobiology Unit 発達神経生物学ユニット	Science talk/サイエンストーク	与勝緑が丘中学校	OJ	80
15	9	2023/7/13	与勝高校 ADHDトーク Yokatsu High School ADHD Talk	(Unit Members)	Human Developmental Neurobiology Unit 発達神経生物学ユニット	Science talk/サイエンストーク	与勝高校	OH	80
16	10	2023/7/14	山田小学校サイエンスクラブ Yamada Elementary School Science Club	Jonas Fisher	Visiting Programs Section 客員プログラムセクション	Science program/科学プログラ ム	山田小学校	OE	12
17	11	2023/7/18	南風原高校 School visit program	Temma Fujishige	Memory Research Unit 記憶研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	40
18	12	2023/7/21	宜野座高校 School visit program	Hiroto Ashitomi	Memory Research Unit 記憶研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	24
19	13	2023/7/22	親子映画会「Walking with Dinosaurs」 Screening of "Walking with Dinosaur ~ Sea Monster~"	Lauren Sallan	Macroevolution Unit 大進化ユニット	Science event/科学イベント	OIST	G	450
20	14	2023/7/27	キッズキャンパスツアー Kids Campus Tour	Kota Ishikawa	Marine Biophysics Unit 海洋生態物理学ユニット	Science event/科学イベント	OIST	OE	45
21	15	2023/7/28	知念高校 School visit program	Kazuma Takada	Embodied Cognitive Science Unit 身体性認知科学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	80
22	16	2023/8/9	キッズキャンパスツアー Kids Campus Tour	Kota Ishikawa	Marine Biophysics Unit 海洋生態物理学ユニット	Science event/科学イベント	OIST	OE	43
23		2023/8/14	恩納村×OISTこどもかがく教室 幼児クラス School of Science	Aleksandra Gavrilova	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	
24		2023/8/14	恩納村×OISTこどもかがく教室 1-2年生クラス School of Science	Ken Maeda Laurie Mitchell Emma Gairin Manon Mercader	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	
25		2023/8/14		Alexey Vylegzhanin	Light-Matter Interactions for Quantum Technologies Unit 量子技術のための光・物質相互作用ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	

延べ数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Collaborator Name	研究ユニット/セクション Unit/Section	内容/Contents	会場/Venue	グループ/ Group	参加者数 / Number of people
26	17	2023/8/14	恩納村×OISTこどもかがく教室 1-3年生クラス	Bernd Kuhn Kazuo Mori	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	106
27		2023/8/14	School of Science	Radmila Neiman	Biological Physics Theory Unit 理論生物物理学ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	
28		2023/8/14		Federico Sangati	Cognitive Neurorobotics Research Unit 認知脳ロボティクス研究ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	
29		2023/8/14		Tomoka Yoseyama	Memory Research Unit 記憶研究ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	
30		2023/8/14	恩納村×OISTこどもかがく教室 3-4年生クラス	Tai Kubo	Macroevolution Unit 大進化ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	
31		2023/8/14	School of Science	Yohsuke Moriyama	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジー・グループ	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	
32		2023/8/14	恩納村×OISTこどもかがく教室 5-6年生クラス	Evan Lloyd	Project Planning and Implementation Section (IT) プロジェクト企画実装セクション (IT)	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	
33		2023/8/14	School of Science	Darshini Ravishankar	Developmental Neurobiology Unit 神経発生ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	
34		2023/8/14	恩納村×OISTこどもかがく教室 中学生クラス	Jonas Fischer	Visiting Programs Section 客員プログラムセクション	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	
35		2023/8/14	School of Science	Kiyoto Kurima Yumiko Akamine	Neurobiology Research Unit 神経生物学研究ユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	
36	18	2023/8/16	恩納村×OISTこどもかがく教室 オープンクラス School of Science	Samantha Phan	pi-Conjugated Polymers Unit パイ共役ポリマーユニット	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OE	22
37	19	2023/8/21	県民会議総会	Noriyuki Sato	Marine Genomics Unit マリゲノミクスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	G	100
38		2023/8/21	General Meeting of the Council for Promotion	Keiko Kono	Membranology Unit 膜生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	G	
39		2023/8/21		Narayan	EF Polymer EFポリマー	Research outline/研究紹介	OIST	G	
40	20	2023/8/22	福岡県立小郡高等学校 School visit program	Erina Kawai	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	4
41	21	2023/8/23	令和5年度子ども科学人材育成事業ポ トムアップ型体験プログラム	Yuki Tara	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Science event/科学イベント	OIST	OH	20
42	22	2023/8/24	こどもかがく教室特別キャンパスツ アー School of Science special Campus Tour	Bernd Kuhn	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Science event/科学イベント	OIST	OE	30
43	23	2023/8/29	女子聖学院中学校高等学校 School visit program	Kina Hayashi	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	40
44	24	2023/9/4	沖縄高専インターンシップ(9/4-9/8開 催) c National Institute of Technology, Okinawa College Internship	Ami Chinen Jan Moren	Scientific Computing & Data Analysis Section 科学計算・データ解析セクション	Science program/科学プログラ ム	OIST	OH	2
45		2023/9/4		Koji Koizumi Shinya Komoto	Scientific Imaging Section イメージングセクション	Science program/科学プログラ ム	OIST	OH	
46	25	2023/9/6	サイエンステックキャラバンin渡嘉敷/ サイエンストリップ Science Tech Caravan in Tokashiki/Science Strip	Fabienne Ziadi	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit 非線形・非平衡物理学ユニット	Science talk/サイエンストーク	渡嘉敷中央公民館	OE	58
47	26	2023/9/7	ALLやんばるサイエンスクラブ大北小 学校出前授業 Science Club Visiting Class at Ohoku Elementary School	Yohsuke Moriyama	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジー・グループ	Research outline/研究紹介	大北小学校	OE	18
48	27	2023/9/16	令和5年子ども科学技術人材育成事業 ハイレベル型体験プログラム (9/16- 9/18開催)	Yoshikatsu Nakano	Marine Science Section 海洋科学セクション	Science event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習 センター	OJ	20
49	28	2023/9/22	沖縄カトリック高等学校 School visit program	Sutashu Tomonaga	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	65
50	29	2023/9/29	オキナワインターナショナルスクール School visit program	Christian Amor Rodriguez	Complex fluids and flows Unit 複雑流体・流動ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OJ	39

延べ数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Collaborator Name	研究ユニット/セクション Unit/Section	内容/Contents	会場/Venue	グループ/ Group	参加者数 / Number of people
51	30	2023/10/3	小田原高校 School visit program	Nonno Hasegawa	Integrative Community Ecology Unit 統合群集生態学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	140
52	31	2023/10/4	小田原高校 School visit program	Nanako Okabe	Macroevolution Unit 大進化ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	176
53	32	2023/10/7	スバンテ・ペーボ教授講演会 in OIST	Svante Pääbo	Human Evolutionary Genomics Unit ヒト進化ゲノミクスユニット	Science talk/サイエンストーク	OIST	G	450
54	33	2023/10/9	スバンテ・ペーボ教授講演会 in てだこホール	Svante Pääbo	Human Evolutionary Genomics Unit ヒト進化ゲノミクスユニット	Science talk/サイエンストーク	てだこホール	G	900
55	34	2023/10/10	広島なぎさ高等学校 School visit program	Kazuma Takada	Embodied Cognitive Science Unit 身体性認知科学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	21
56	35	2023/10/12	恩納小学校 School visit program	Riou Mizuno	Biodiversity and Biocomplexity Unit 生物多様性・複雑性研究ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	OE	57
57	36	2023/10/18	オルタナティブスクール実りの泉 School visit program	Nanami Tomoda	Femtosecond Spectroscopy Unit フェムト秒分光法ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	8
58	37	2023/10/20	浦添高等学校 School visit program	Temma Fujishige	Memory Research Unit 記憶研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	84
59	38	2023/10/25	神奈川県立相模原中等教育学校 School visit program	Michael Izumiyama	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	34
60	39	2023/10/31	沖縄市美里中学校 Visiting Class	Yumiko Masukagami	Evolution, Cell Biology, and Symbiosis Unit 進化・細胞・共生の生物学ユニット	Career education/キャリア教育	美里中学校	OJ	223
61		2023/10/31		Yumiko Akamine	Neurobiology Research Unit 神経生物学研究ユニット	Career education/キャリア教育	美里中学校	OJ	
62		2023/10/31		Ai Takahashi	Memory Research Unit 記憶研究ユニット	Career education/キャリア教育	美里中学校	OJ	
63	40	2023/11/1	文教大学付属高校 School visit program	Prof. Kenji Doya	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	326
64	41	2023/11/11	サイエンスフェスタ science festival	(Unit Members)	Quantum Materials Science Unit 量子物質科学ユニット	Science event/科学イベント	OIST	G	1024
65		2023/11/11		(Unit Members)	Environmental Science and Informatics Section 環境科学・インフォマティクスセクション	Science event/科学イベント	OIST	G	
66		2023/11/11		(Unit Members)	Protein Engineering and Evolution Unit タンパク質工学・進化ユニット	Science event/科学イベント	OIST	G	
67		2023/11/11		(Unit Members)	Cognitive Neurorobotics Research Unit 認知脳ロボティクス研究ユニット	Science event/科学イベント	OIST	G	
68		2023/11/11		(Unit Members)	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Science event/科学イベント	OIST	G	
69		2023/11/11		(Unit Members)	Quantum Machines Unit 量子マシンユニット	Science event/科学イベント	OIST	G	
70		2023/11/11		(Unit Members)	Visiting researcher (Cybernetic Humanity Project) 客員研究員 (Cybernetic Humanity Project)	Science event/科学イベント	OIST	G	
71	42	2023/11/13	南部商業高校 School visit program	Alexandru Mihai	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	28
72	43	2023/11/16	Okinawa Christian School International School visit program	Andrew Liu	Genomics and Regulatory Systems Unit ゲノム・遺伝子制御システム科学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	OJ	16
73	44	2023/11/16	美里小学校 サイエンスクラブ Visiting Class	Xiaobing Sheng	Mathematical and Theoretical Physics Unit 数理理論物理学ユニット	Science program/科学プログラム	美里小学校	OE	15
74	45	2023/11/23	サイエンステックフェス in 宮古島 Science Tech Fest in Miyakojima	Aleksandra Gavrilova	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Science event/科学イベント	北中学校	OJ	220
75	46	2023/11/24	球陽中学校 School visit program	Vishnu Ravindran	Fluid Mechanics Unit 流体力学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OJ	80
76	47	2023/11/24	サイエンストリップ in 宮古島 Visiting Class	Aleksandra Gavrilova	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Research outline/研究紹介	宮古高校	OH	123
77	48	2023/11/24	八洲学園国際高等学校 Visiting Class	Shinya Komoto	Scientific Imaging Section イメージングセクション	Research outline/研究紹介	八洲学園国際高等学校	OH	50
78	49	2023/12/1	茨城県若狭学園中学校 School visit program	Yuji Kanagawa	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	J	96
79	50	2023/12/4	宇都宮短期大学附属高等学校	Aswathy Mukundan Sajila	Complex fluids and flows Unit 複雑流体・流動ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	160

延べ数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Collaborator Name	研究ユニット/セクション Unit/Section	内容/Contents	会場/Venue	グループ/ Group	参加者数 / Number of people
80	50	2023/12/4	School visit program	Andrew Liu	Genomics and Regulatory Systems Unit ゲノム・遺伝子制御システム科学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	10
81	51	2023/12/5	西武学園文理高等学校 School visit program	Akira Kawano	Developmental Neurobiology Unit 神経発生ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	35
82	52	2023/12/13	兵庫県立豊岡高校様 School visit program	Masako Ogasawara	Environmental Science and Informatics Section 環境科学・インフォマティクスセクション	Career education/キャリア教育	OIST	H	6
83	53	2023/12/16	SCORE!	Youhei Morita	Conference and Workshop Section カンファレンス・ワークショップ・セクション	Science event/科学イベント	OIST	OH	200
84		2023/12/16		Christine Luscombe	pi-Conjugated Polymers Unit パイ共役ポリマーユニット	Science event/科学イベント	OIST	OH	
85	54	2023/12/17	サイエンストーク (サイエンステック フェスin那覇)	Tomoka Yoseyama	Memory Research Unit 記憶研究ユニット	Science talk/サイエンストーク	おきみゆー Okinawa Prefectural Museum & Art Museum	G	
86	55	2023/12/20	百名小学校出前授業 Visiting Class	Yoshikatsu Nakano	Marine Science Section 海洋科学セクション	Research outline/研究紹介	百名小学校	OE	83
87	56	2023/12/21	アメラジアンスクール・イン・オキナ ワ School visit program	Michael Mansfield	Genomics and Regulatory Systems Unit ゲノム・遺伝子制御システム科学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	OE	40
88	57	2023/12/21	富里中職場体験(12/21-12/22開催) Work Experience Program	Tomoka Yoseyama	Memory Research Unit 記憶研究ユニット	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	5
89		2023/12/21		Hisashi Gakiya	Media Relations Section メディア連携セクション	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
90		2023/12/21		Makoto Kuroda	Engineering Section エンジニアリングセクション	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
91		2023/12/21		Yoshiteru Iinuma	Instrumental Analysis Section 機器分析セクション	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
92		2023/12/21		Yoshiteru Fujimatsu	Grants Section 外部研究資金セクション	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
93		2023/12/21		Yohsuke Moriyama	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジー・グループ	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
94		2023/12/21		Justin Charles Foster Sutherland	Language Education Section ランゲージ・エデュケーション・セクション	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
95		2023/12/21		Mari Takenouchi	Translation and Interpretation Team 翻訳・通訳チーム	Science program/科学プログラ ム	OIST	OJ	
96	58	2023/12/22	美原小サイエンスクラブ Visiting Class	Rachel Wheatley	Visiting Researcher from TSVP TSVP客員研究員	Science program/科学プログラ ム	美原小学校	OE	13
97	59	2024/1/10	神戸市立科学技術高校 School visit program	Rikako Ozaki	Macroevolution Unit 大進化ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	80
98	60	2024/1/20	サイエンストーク in那覇 Science Talk in Naha	Samantha Phan	pi-Conjugated Polymers Unit パイ共役ポリマーユニット	Science talk/サイエンストーク	沖縄県立図書館 Okinawa Prefectural Library	G	120
99	61	2024/1/24	那覇商業高校 School visit program	Yutaka Kojima	Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユ ニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	39
100	62	2024/1/25	恩納村立恩納小学校 School visit program	Fabienne Ziadi	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit 非線形・非平衡物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	OE	37
101	63	2024/1/27	科学はおもしろい！サイエンスセミ ナー@OIST	Jann Zwahlen	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Science event/科学イベント	OIST	OH	110
102		2024/1/27		Javier Pagan Lacambra	Analysis and Partial Differential Equations Unit 解析と偏微分方程式ユニット	Science event/科学イベント	OIST	OH	
103		2024/1/27		Tomoka Yoseyama	Memory Research Unit 記憶研究ユニット	Science event/科学イベント	OIST	OH	
104	64	2024/2/3	読谷まなびフェスタ	Fabienne Ziadi	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit 非線形・非平衡物理学ユニット	Science event/科学イベント	読谷村文化センター	G	120
105	65	2024/2/7	広島県立広島高等学校 School visit program	Aleksandra Gavrilova	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	97
106	66	2024/2/10	サイエンストーク in恩納村 Science Talk in Onna	Shunishi Kasahara	Visiting Researcher 客員研究員	Science talk/サイエンストーク	恩納村博物館 Onna Village Musium	G	120

延べ数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Collaborator Name	研究ユニット/セクション Unit/Section	内容/Contents	会場/Venue	グループ/ Group	参加者数 / Number of people
107	67	2024/2/13	中部農林高校 School visit program	Maria Lucia Reyes Suarez	Macroevolution Unit 大進化ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	40
108	68	2024/2/13	沖縄県進路指導研究会	Arisa Ikeda	Community Relations Section 地域連携セクション	Career education/キャリア教育	OIST	G	6
109	69	2024/2/14	美里高校 School visit program	Ai Takahashi	Memory Research Unit 記憶研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	21
110	70	2024/2/16	具志川高等学校 School visit program	Yuki Tara	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	120
111		2024/2/16		Rikako Ozaki	Macroevolution Unit 大進化ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	
112	71	2024/2/19	具志川高等学校 School visit program	Yutaka Kojima	Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	120
113		2024/2/19		Rikako Ozaki	Macroevolution Unit 大進化ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	
114	72	2024/2/26	嘉手納高校 School visit program	Maria Lucia Reyes Suarez	Macroevolution Unit 大進化ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	8
115	73	2024/3/6	聖心ウルスラ学園聡明中学校高等部 School visit program	Yuji Kanagawa	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	25
116	74	2024/3/7	ノートルダム女学院高等学校 School visit program	Mana Oguchi	Human Developmental Neurobiology Unit 発達神経生物学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	H	21
117	75	2024/3/7	チェリオ	(Company Members)	EF Polymer EFポリマー	Science talk/サイエンストーク	OIST	G	7
118	76	2024/3/21	名護高校 School visit program	Yuji Kanagawa	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	OH	75
119	77	2024/3/25	第12回スコア！インターンシッププログラム(3/25-3/26開催) Internship Program for the 12th SCORE! winning teams	Shunishi Kasahara	Cybernetic Humanity Studio	Science program/科学プログラム	OIST	OH	4
120		2024/3/25		Yuimaru Kubo, Hamamoto Tatsuki	Hybrid Quantum Device Team	Science program/科学プログラム	OIST	OH	
121		2024/3/25		Riou Mizuno, Christine Sosiak	Biodiversity and Biocomplexity Unit 生物多様性・複雑性研究ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	OH	
122		2024/3/25		Henrique Carlos Oyama, Jeffrey Queisser	Cognitive Neurorobotics Research Unit 認知脳ロボティクス研究ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	OH	
123		2024/3/25		Wataru Ohata	EF Polymer EFポリマー	Science program/科学プログラム	OIST	OH	
124	78	2024/3/27	若狭学園中学校高等学校 School visit program	Ryota Kabe	Organic Optoelectronics Unit 有機光エレクトロニクスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	J	20

OE 県内小学校/Elementary school in Okinawa
OJ 県内中学校/Middle school in Okinawa
OH 県内高校/High school in Okinawa
E 県外小学校/Elementary school outside Okinawa
J 県外中学校/Middle school outside Okinawa
H 県外高校/High school outside Okinawa
G 一般/General visitors
Other その他

添付資料1.4-1 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム

*Keyword: OIST Workshop

令和5年度OIST主催によるワークショップ

開催状況/ 開催形式	開始日	終了日	テーマ	開催場所	中止/延期されたイベントの 予定参加者数	参加者数（リ モート参加含 む）	内、会場参加 者	内、リモート 参加者	内、海外参加 者（リモート 参加含む）
1 会場開催	2023年4月4日	2023年4月14日	OISTワークショップ「再帰、復活、組み合わせ論、おいで学会」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	50	50	0	22
2 会場開催	2023年5月30日	2023年6月2日	OISTワークショップ「Potential and random analysis in metric spaces」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	37	37	0	19
3 会場開催	2023年6月5日	2023年6月10日	OISTワークショップ「ハック代数の表現論と圏化理論の進展」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	69	69	0	51
4 会場開催	2023年6月12日	2023年6月16日	OISTワークショップ「解析と偏微分方程式」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	38	38	0	16
5 会場開催	2023年6月19日	2023年7月6日	OISTワークショップ「OIST計算神経科学コース2023」	OISTシーサイドハウス	非該当	46	46	0	23
6 会場開催	2023年7月11日	2023年7月23日	OISTワークショップ「OIST神経科学コース2023」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	56	56	0	26
中止	2023年7月26日	2023年7月28日	OISTワークショップ「シナプスシグナル機構の原理と」睡眠制御	-	65	-	-	-	-
7 ハイブリッド	2023年7月31日	2023年8月4日	OISTワークショップ「確率論から重力理論への共形理論の新しい潮流」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	26	24	2	11
8 ハイブリッド	2023年8月21日	2023年8月23日	OIST-RIKEN 合同脳シンポジウム	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	39	38	1	2
9 会場開催	2023年9月26日	2023年10月5日	OISTワークショップ「物理サマースクール おきなわ: コヒーレント量子ダイナミクス (2023)」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	85	85	0	40
10 会場開催	2023年10月17日	2023年10月24日	形態の進化的解析に関するOISTワークショップ	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	47	47	0	26
11 ハイブリッド	2023年11月6日	2023年11月9日	OISTワークショップ「タンパク質工学におけるライブラリデザイン」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	57	41	16	13
12 会場開催	2023年11月13日	2023年11月17日	OISTワークショップ「身体性認知科学国際会議 (ECogS)」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	51	51	0	28
13 会場開催	2023年11月27日	2023年12月1日	OISTワークショップ「量子機械のフィードバック制御」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	83	83	0	40
14 ハイブリッド	2024年1月15日	2024年1月18日	OISTワークショップ「偏微分方程式の幾何学的側面」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	106	41	65	23
ハイブリッド	2024年1月29日	2024年2月2日	OISTワークショップ「応用トポロジ」	-	35	-	-	-	-
15 会場開催	2024年2月26日	2024年3月1日	OISTワークショップ「Manifolds in Nature」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	57	57	0	18
16 ハイブリッド	2024年3月5日	2024年3月8日	OISTワークショップ「手足の運動を制御する神経回路」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	94	91	3	65
延期	2024年3月11日	2024年3月15日	OISTワークショップ「光電子デバイス国際シンポジウム」	-	65	-	-	-	-
合計						941	854	87	423

*Keyword: OIST Jointly Funded WS

令和5年度開催のOIST共催ワークショップ

開催状況	開始日	終了日	テーマ	開催場所	中止/延期されたイベントの 予定参加者数	参加者数（リ モート参加含 む）	内、会場参加 者	内、リモート 参加者	内、海外参加 者（リモート 参加含む）
1 会場参加	2023年12月5日	2023年12月8日	The 16th IEEE International Conference on Nano/Molecular Medicine and Engineering	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	222	222	0	193
合計						222	222	0	193

添付資料1.4-1 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム

*Keyword: Acad/OIST Co-Hosted; Acad/Section Co-hosted; Acad/Section Hosted; Acad/Unit Co-hosted; Acad/Unit Hosted; GradSchool/Section hosted

令和5年度OISTセクション・ユニット主催/共催及びOIST名義上共催学術会議

	開催状況/ 開催形式	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数(リ モート参加含 む)	内、会場参加 者	内、リモート 参加者	内、海外参加 者(リモート 参加含む)
1	会場開催	2023年4月13日	2023年4月15日	JST-OIST Joint Symposium on Circularly Polarized Luminescence and the Related Phenomena	OISTメインキャンパス	25	25	0	0
2	会場開催	2023年4月17日	2023年4月19日	MODEST-23 JM	OISTシーサイドハウス	17	17	0	7
3	ハイブリッド	2023年4月21日	2023年4月21日	メタバースとバーチャルリアリティ: デジタルワールドを行き来する科学技術	OISTメインキャンパス	105	66	39	10
4	会場開催	2023年5月18日	2023年5月19日	情報処理学会MBL/ITS/DPS・電子情報通信学会SeMI合同研究会	OISTメインキャンパス	100	100	0	0
5	会場開催	2023年5月23日	2023年5月26日	ERATO深津共生進化機構プロジェクト全体会議	OISTメインキャンパス	80	80	0	0
6	ハイブリッド	2023年5月29日	2023年5月29日	A recipe for scientific synergy -Series 4- "Advancing biotechnology through multidisciplinary approaches"	大阪大学	88	35	53	0
7	会場開催	2023年6月26日	2023年6月30日	G-Lectures: Discussion on Soft matter and Statistical Physics	OISTメインキャンパス	20	20	0	6
8	ハイブリッド	2023年6月29日	2023年7月1日	本回の主議題は、「機械学習によるバイオデータマイニング、一般」とし、4つの研究会が合同で開催した。	OISTカンファレンス・センター	138	103	35	0
9	ハイブリッド	2023年7月25日	2023年7月27日	"Integrability, Deformations and Chaos" Workshop	OISTメインキャンパス& シーサイドハウス	26	25	1	10
10	ハイブリッド	2023年7月26日	2023年7月26日	量子生物学における最先端	OISTメインキャンパス	22	20	2	2
11	会場開催	2023年7月31日	2023年8月9日	OIST-KEIO International Research Summer Camp 2023	OISTメインキャンパス& シーサイドハウス	60	60	0	0
12	ハイブリッド	2023年8月7日	2023年8月9日	シルバークンワークショップV1: 複素幾何学と関連トピック	OISTメインキャンパス	28	20	8	3
13	会場開催	2023年8月14日	2023年8月18日	SHIMA 2023	OISTメインキャンパス、 シーサイドハウス、カン ファレンス・センター &GODAC	31	31	0	0
14	会場開催	2023年8月30日	2023年8月30日	量子断熱制御とショートカット (QUACS)	OISTメインキャンパス	32	32	0	9
15	ハイブリッド	2023年9月4日	2023年9月15日	[Symposium] Frontiers in Nonlinear Differential Equations and Stokes Phenomena	OISTメインキャンパス	52	49	3	28
16	ハイブリッド	2023年10月11日	2023年10月13日	1st International Workshop on Quantum Information Engineering (QIE2023)	OISTメインキャンパス	68	66	2	11
17	ハイブリッド	2023年10月26日	2023年10月27日	視覚科学フォーラム 2023	OISTカンファレンス・セ ンター	112	31	81	3
18	会場開催	2023年10月30日	2023年11月3日	2023 Japan-US Seminar on Polymer Chemistry- -Meeting the Challenges of a Sustainable Society with Macromolecules-	OISTメインキャンパス	58	58	0	15
19	ハイブリッド	2023年11月4日	2023年11月5日	学術変革領域研究 (A) 統一理論 第2回領域会議	OISTカンファレンス・セ ンター	35	32	3	2
20	ハイブリッド	2023年11月16日	2023年11月17日	OIST-KEIO Showcase Talk Series 5 -科学と社会の交差点で: 持続可能で幸せな地球の未来を考える	OISTメインキャンパス	278	194	84	2
21	ハイブリッド	2023年11月17日	2023年11月17日	第39回遺伝子研究安全管理協議会総会及び安全研修会	OISTカンファレンス・セ ンター	201	60	141	1
22	会場開催	2023年11月20日	2023年11月22日	Japan Scicom Forum 2023	OISTカンファレンス・セ ンター	100	100	0	30
23	会場開催	2023年11月20日	2023年11月20日	第1回ナノエレクトロニクス・ワークショップ 第II部 (アカデミックセッション)	OISTメインキャンパス	40	40	0	0
24	会場開催	2023年12月15日	2023年12月16日	ONNA2023: ナノ光ファイバーの諸応用	OISTメインキャンパス	32	32	0	0
25	ハイブリッド	2023年12月17日	2023年12月19日	第49回量子情報技術研究会 (QIT49)	OISTカンファレンス・セ ンター	211	184	27	1
26	会場開催	2023年12月20日	2023年12月22日	OIST-RIKEN Joint Workshop on Prediction Science	OISTメインキャンパス	50	50	0	0
27	会場開催	2024年1月19日	2024年1月19日	OIST-JST JOINT WORKSHOP Biomolecular Super Assembly insights	OISTメインキャンパス	71	71	0	1
28	会場開催	2024年1月25日	2024年1月26日	8th ABIS Advanced Light Microscopy Course at OIST	OISTメインキャンパス	18	18	0	2
29	会場開催	2024年2月8日	2024年2月8日	OIST x NTT Joint Workshop	OISTメインキャンパス	60	60	0	0
30	会場開催	2024年2月13日	2024年2月14日	The 4th Nobel Turing Challenge Initiative Workshop	日本橋ライフサイエンスハ ブ(LINK-J)、東京	123	123	0	106
31	ハイブリッド	2024年2月20日	2024年2月20日	2023年度 COI-NEXT 年次シンポジウム "Cutting-edge science toward social implementation" (社会実装に向けた卓越研究)	OISTメインキャンパス	164	127	37	0
32	ハイブリッド	2024年2月29日	2024年2月29日	OIST-Kyudai Joint Symposium Series 1: Bio-Inspired Wonders and Energy Innovations	OISTメインキャンパス	124	104	20	1
33	ハイブリッド	2024年3月4日	2024年3月6日	OIST x iTHEMS workshop series - Will We Find Answers? Exploring the Mysteries of the Universe and Life - Series 1 Cosmic ray and Life project	OISTメインキャンパス	75	64	11	2
34	ハイブリッド	2024年3月4日	2024年3月15日	The Machine Learning Summer School in Okinawa 2024	OISTカンファレンス・セ ンター	228	227	1	148
35	ハイブリッド	2024年3月7日	2024年3月8日	Inclusive Communication Symposium 2024	OISTメインキャンパス	127	126	1	19
36	会場開催	2024年3月9日	2024年3月11日	結び目理論、LMO不変量と関連するトピック	OISTメインキャンパス	15	15	0	1
37	ハイブリッド	2024年3月16日	2024年3月16日	Neural Computation Workshop 2024	OISTメインキャンパス	53	44	9	1
38	会場開催	2024年3月18日	2024年3月19日	The 1st International Workshop on Cognitive Neurobotics	OISTカンファレンスセ ンター	50	50	0	5
39	会場開催	2024年3月25日	2024年3月28日	TSPV Workshop: The Future of Response Diversity and Ecosystem Stability	OISTメインキャンパス	60	60	0	27
40	会場開催	2024年3月26日	2024年3月26日	OIST-UCSB Mini Symposium "Materials of Tomorrow: Harnessing Responsiveness, Intelligence, and Sustainability"	OISTメインキャンパス	79	79	0	6
合計						3,256	2,698	558	459

添付資料2. 4-1 令和5年度職位毎・国籍別職員数

区分	役職名称	定年制				任期制				非常勤				派遣				総計				総計	
		女性	男性	うち 外国人	定年制 集計	女性	男性	うち 外国人	任期制 集計	女性	男性	うち 外国人	非常勤 集計	女性	男性	うち 外国人	派遣 集計	女性	男性	うち 外国人	合計		
Admin	副学長					2	5	4	7									2	5	4	7	7	
	准副学長					2	2	2	4									2	2	2	4	4	
	リサーチユニットアドミニストレーター					50	2	3	52									50	2	3	52	52	
	シニアマネジャー			3	3	3	8	2	11									3	11	2	14	14	
	マネジャー		1		1	10	10	4	20									11	10	4	21	21	
	アシスタントマネジャー					8	5	2	13									8	5	2	13	13	
	リサーチサポートスペシャリスト					2	4	5	6									2	4	5	6	6	
	スペシャリスト		1	1	2	25	22	17	47									26	23	17	49	49	
	情報技術エンジニア						12	9	12										12	9	9	12	12
	アドミニストレイティブスタッフ		1	1	2	147	34	25	181									148	35	25	183	183	
非常勤										1	4		5				1	4		5	5		
派遣職員														66	11	12	77	66	11	12	77	77	
Admin 集計		3	5	8	249	104	73	353	1	4		5	66	11	12	77	319	124	85	443	443		
Research Support Division (RSD)	リサーチサポートリーダー		1	1	2		6	3	6									1	7	3	8	8	
	サイエンス・テクノロジーアソシエイト					1		1	1									1		1	1	1	
	シニアマネジャー						2	1	2									2	2	1	2	2	
	マネジャー					2	2	1	4									2	2	1	4	4	
	准副学長			1	1														1			1	1
	リサーチサポートスペシャリスト					11	23	20	34									11	23	20	34	34	
	情報技術エンジニア						2	2	2										2	2	2	2	2
	リサーチサポートテクニシャン					1	4	3	5									1	4	3	5	5	
	アドミニストレイティブスタッフ					8	2	1	10									8	2	1	10	10	
	非常勤									2			2					2			2	2	
派遣職員													7	9	5	16	7	9	5	16	16		
RSD 集計		1	2	3	23	41	32	64	2			2	7	9	5	16	33	52	37	85	85		
Research Unit	教授					8	38	26	46									8	38	26	46	46	
Researcher	准教授					8	25	21	33									8	25	21	33	33	
	グループリーダー					4	14	8	18									4	14	8	18	18	
	サイエンス・テクノロジーアソシエイト					10	7	9	17									10	7	9	17	17	
	スタッフサイエンティスト					16	61	52	77									16	61	52	77	77	
	ポストドクトラルスカラー					58	146	190	204									58	146	190	204	204	
Technician	リサーチユニットテクニシャン					62	63	70	125									62	63	70	125	125	
RUA	リサーチユニットアドミニストレーター					17			17									17			17	17	
Temp Staff	非常勤									19	12	7	31				19	12	7	31	31		
派遣職員													4	1		5	4	1		5	5		
RU 集計					183	354	376	537	19	12	7	31	4	1		5	206	367	383	573	573		
総計					11	455	499	481	954	22	16	7	38	77	21	17	98	558	543	383	1101	1101	

添付資料2. 4-1 令和5年度職位毎・国籍別職員数

2024/03/31現在

		国籍	Admin	RSD	研究部門	研究部門	合計
					(Faculty/Researcher)	(左記以外)	
1	AR	アルゼンチン			1		1
2	AT	オーストリア			2	1	3
3	AU	オーストラリア	2	1	5		8
4	BD	バングラデシュ		1	3		4
5	BE	ベルギー			7	1	8
6	BG	ブルガリア	1			1	2
7	BJ	ベニン			1		1
8	BR	ブラジル			9		9
9	CA	カナダ	4	1	4		9
10	CH	スイス	1	1	1		3
11	CN	中国	2		30	8	40
12	CO	コロンビア			1		1
13	CR	コスタリカ			1		1
14	CZ	チェコ			3	1	4
15	DE	ドイツ	3		20	1	24
16	DK	デンマーク	1		1		2
17	DZ	アルジェリア			1		1
18	EG	エジプト			2	2	4
19	ES	スペイン	2		8		10
20	FI	フィンランド			2		2
21	FR	フランス	1	2	17	2	22
22	GB	イギリス	7	1	15	6	29
23	GE	ジョージア			1		1
24	GH	ガーナ			1		1
25	GR	ギリシャ			1	2	3
26	HK	香港			1		1
27	HU	ハンガリー			1		1
28	ID	インドネシア	1	2	3	2	8
29	IE	アイルランド		1	6		7
30	IL	イスラエル	2		1	2	5
31	IN	インド	8		46	3	57
32	IR	イラン			4		4
33	IT	イタリア		1	13	1	15
34	JO	ヨルダン			1		1
35	JP	日本	358	48	89	101	596
36	KR	韓国	3	2	5	1	11
37	KZ	カザフスタン			1	1	2
38	LK	スリランカ				1	1
39	LT	リトアニア			2	1	3
40	MA	モロッコ			1		1
41	MG	マダガスカル		1			1
42	MX	メキシコ	1		5	2	8
43	MY	マレーシア			2		2
44	NL	オランダ	1			2	3
45	NO	ノルウェー			1		1
46	NP	ネパール				1	1
47	NZ	ニュージーランド	1	1	4		6
48	PE	ペルー	1		2		3
49	PH	フィリピン	2	1	1	1	5
50	PK	パキスタン			1		1
51	PL	ポーランド	1		3		4
52	PT	ポルトガル			3		3

		国籍	Admin	RSD	研究部門	研究部門	合計
					(Faculty/Researcher)	(左記以外)	
53	RO	ルーマニア			2	1	3
54	RU	ロシア連邦	1	2	13	7	23
55	SA	サウジアラビア	1				1
56	SE	スウェーデン		1		1	2
57	SK	スロバキア			2		2
58	TH	タイ	1		1	1	3
59	TN	チュニジア		1		1	2
60	TR	トルコ			3	1	4
61	TW	台湾	3	5	13	4	25
62	UA	ウクライナ	1		1	2	4
63	US	アメリカ	22	8	23	14	67
64	VN	ベトナム	1		3	1	5
65	YE	イエメン				1	1
66	ZA	南アフリカ	2	1			3
67	ZM	ザンビア			1		1
68	ZZ	海外	8	3			11
総計			443	85	395	178	1,101

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任に鑑み、国際水準も考慮した報酬支給水準を設定している。
特に、理事長(学長)については、有為な人材確保に向けた国際競争が厳しい中で、世界最高水準の研究機関における組織管理を行った実績や国際的に高い水準の教授陣を統率しうる研究者、教育者としての人望・実績を有する優れた人材を確保する必要があることから、相応の処遇が必要となる。

② 令和4年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

常勤役員については、特に必要と認める場合に、特別調整手当を支給することができることとしている。

③ 役員報酬基準の内容及び令和4年度における改定内容

法人の長

- 役員報酬基準の内容
役員の報酬等は、報酬、特別調整手当、通勤手当、住居手当及び退職手当であり、報酬の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、それぞれ、理事会において決定する。
- 令和4年度の改定内容
改定なし。

理事

- 役員報酬基準の内容
役員の報酬等は、報酬、特別調整手当、通勤手当、住居手当及び退職手当であり、報酬の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、それぞれ、理事会において決定する。
- 令和4年度の改定内容
改定なし。

理事(非常勤)

- 役員報酬基準の内容
非常勤役員の報酬については、その勤務形態を考慮し、職に応じて、理事会において決定する。
- 令和4年度の改定内容
改定なし。

監事

- 役員報酬基準の内容
役員の報酬等は、報酬、特別調整手当、通勤手当、住居手当及び退職手当であり、報酬の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、それぞれ、理事会において決定する。
- 令和4年度の改定内容
改定なし。

監事(非常勤)

1. 役員報酬基準の内容
非常勤役員の報酬については、その勤務形態を考慮し、職に応じ
て、理事会において決定する。
2. 令和4年度の改定内容
改定なし。

2 役員報酬等の支給状況

役名	令和4年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	支給総額	報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
A法人の 長	千円 56,268	千円 22,500	千円	千円 33,768 <small>(通勤/ 特別調整手当)</small>		12月31日	
B法人の 長	千円 10,500	千円 7,500	千円	千円 3,000 <small>(特別調整手当)</small>	1月1日		
A理事	千円 23,154	千円 20,000	千円	千円 3,154 <small>(通勤/ 特別調整手当)</small>	4月1日		*※
B理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ()			※
C理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ()			
D理事 (非常勤)	千円 1,091	千円	千円	千円 ()		10月31日	
E理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ()			
F理事 (非常勤)	千円 205	千円	千円	千円 ()	1月1日		
G理事 (非常勤)	千円 1,060	千円	千円	千円 ()			
H理事 (非常勤)	千円 580	千円	千円	千円 ()			
I理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ()			
J理事 (非常勤)	千円 660	千円	千円	千円 ()			
K理事 (非常勤)	千円 660	千円	千円	千円 ()			
L理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ()			
M理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()			

N理事 (非常勤)	千円 1,060	千円	千円	千円 ()			
O理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()			※
P理事 (非常勤)	千円 1,133	千円	千円	千円 ()			
Q理事 (非常勤)	千円 580	千円	千円	千円 ()			
A監事	千円 15,000	千円 15,000	千円	千円 ()			◇
B監事 (非常勤)	千円 3,400	千円 3,400	千円	千円 ()			
C監事 (非常勤)	千円 3,400	千円 3,400	千円	千円 ()			

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

3 役員の報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性・職務の困難度、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性・職務の困難度、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性、ノーベル賞受賞者等その識見に照らし妥当である。

監事

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

監事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

【主務大臣の検証結果】

沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、重要な科学論文のランキングにおいて世界第9位・国内トップの評価を得るとともに、2022年ノーベル生理学・医学賞受賞者を輩出したほか、スタートアップ支援においても着実に成果を挙げており、沖縄において世界最高水準の教育研究を行うことにより、沖縄の振興と自立的発展、世界の科学技術の発展に着実に寄与しているものと評価することができる。

このような状況を踏まえると、大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する役員の報酬水準は、国際的水準との均衡等からみても、妥当なものと考えられる。

4 役員退職手当の支給状況(令和4年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	前職
	千円	年	月			
法人の長	該当者なし					
元・R理事	523	0	3	3月31日	1.0	*※
監事	該当者なし					

注1:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

注2:元・R理事(令和4年3月31日退職)については、業績勘案率が決定したため退職手当を支給した。

注3:A法人の長が令和4年12月31日に退職しているが、退職手当未支給のため本表に記載しない。

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	該当者なし
元・R 理事	退職手当支給額は、「独立行政法人、特殊法人及び認可法人の役員の退職金について」(平成15年12月19日閣議決定(平成27年3月24日一部改正))に準じた方法により算出されており、また、業績勘案率は外部有識者も参画する委員会において、在職期間中の業績を勘案して決定されており、妥当なものであると考えられる。
理事B	該当者なし
理事A (非常勤)	該当者なし
理事B (非常勤)	該当者なし
監事A	該当者なし
監事B	該当者なし
監事A (非常勤)	該当者なし
監事B (非常勤)	該当者なし

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

特に必要と認める場合に、特別調整手当を支給することができる仕組みを導入済みである。今後もこの仕組みを継続する。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、教員の約6割、学生の約8割が外国人という国際的な大学であることから、職員は、原則としてビジネスレベルの英語力が不可欠であり、こうした能力を前提にした上で、職種毎に、国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準の動向等を踏まえた適切な年俸範囲を定め、その範囲内で個々の業績を反映させた給与水準を決定している。
特に、研究部門においては、職員が有する専門的な知見をいかし、世界的に最高水準の研究者に対する研究管理や支援・評価を行うことができる者が求められており、国際競争が厳しい中で、優れた人材を確保する必要があることから、相応の処遇が必要となる。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させている。

③ 給与制度の内容及び令和4年度における主な改定内容

- 給与制度の内容
給与の種類:年俸、超過勤務手当、その他の手当(通勤、住居手当等)
給与体系:年俸制(職種(教員、研究者、事務スタッフ等)と職層に基づく給与レンジを設定)
- 令和4年度における主な改定内容
なし

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	令和4年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内	うち通勤手当	うち賞与
常勤職員	人	歳	千円	千円	千円	千円
	9	52.3	10,102	10,102	145	0
事務・技術	人	歳	千円	千円	千円	千円
	9	52.3	10,102	10,102	145	0
研究職種	人	歳	千円	千円	千円	千円
	-	-	-	-	-	-

任期付職員	人	歳	千円	千円	千円	千円
	669	43.6	7,421	7,421	85	0
教員	人	歳	千円	千円	千円	千円
	69	50.6	17,314	17,314	30	0
事務・技術	人	歳	千円	千円	千円	千円
	365	44.7	6,037	6,037	113	0
研究職種	人	歳	千円	千円	千円	千円
	235	39.9	6,666	6,666	56	0

在外職員	人	歳	千円	千円	千円	千円
	-	-	-	-	-	-

注1:常勤職員については、在外職員を除く。

注2:常勤職員、任期付職員の該当者がいない職種については記載を省略。

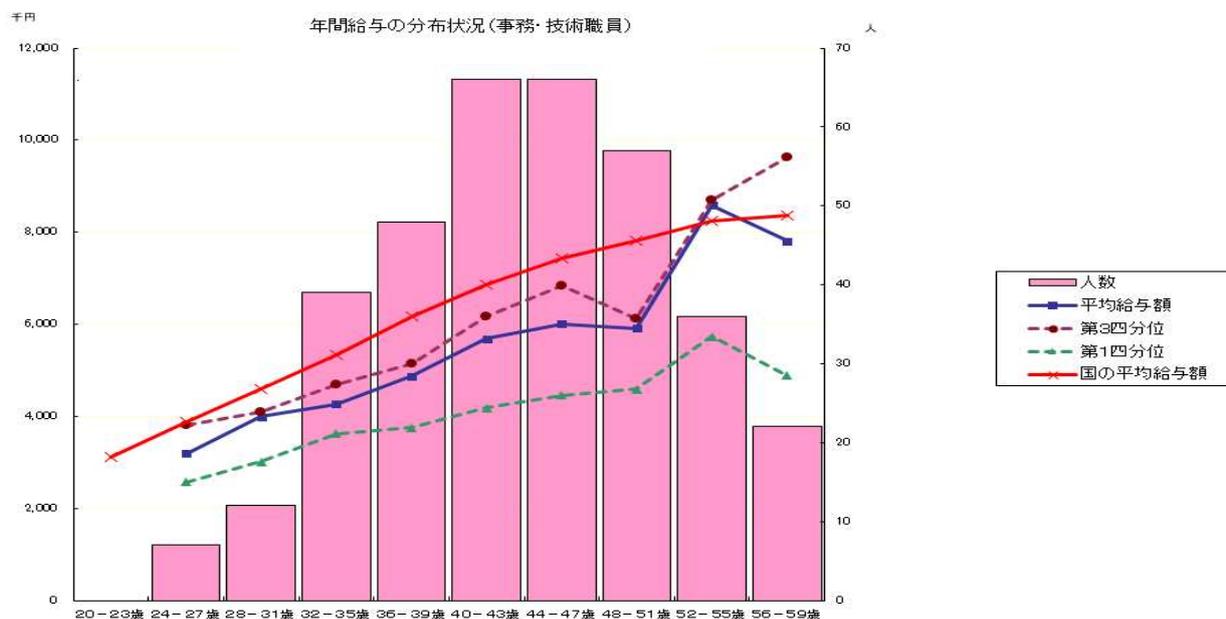
注3:再任用職員及び非常勤職員は該当者がいないため記載を省略。

注4:常勤職員、任期付職員は全て年俸制適用者である。

注5:在外職員とは海外拠点の年俸制適用者である。

注6:該当者が2人以下の場合、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、区分以外は省略。全体の数値からも除外。

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員)〔在外職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2:【20-23】の年齢層において、2名以下であることからグラフの作成は行わない。

③ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員)
(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額	
			平均	最高～最低
部長相当	25	53.2	14,951	25,150 ～ 9,468
課長相当	30	50.1	8,869	11,997 ～ 6,222
課長補佐相当	57	46.9	6,920	10,840 ～ 5,035
主任相当	124	45.7	5,326	7,711 ～ 3,935
係員	137	40.7	4,033	8,677 ～ 2,506

④ 賞与(該当者なし)

区分		夏季(○月)	冬季(○月)	計
管理 職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	%	%	%
		最高～最低	～	～
一般 職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	%	%	%
		最高～最低	～	～

3 給与水準の妥当性の検証等

○事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢勘案 83.9 ・年齢・地域勘案 93.6 ・年齢・学歴勘案 82.4 ・年齢・地域・学歴勘案 92.7
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	
給与水準の妥当性の 検証	<p>(法人の検証結果) 年齢勘案で、令和3年度84.0、令和4年度83.9と対国家公務員指数は100以下となっている。これまで講じてきた給与水準の引下げに向けた種々の取組により、給与水準の適正化が図られている。</p> <p>(主務大臣の検証結果) 沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、教員の約6割、学生の約8割が外国人という国際的な環境の下、世界最高水準の教育研究を行っており、このような研究者の支援を担う事務職員については、高い語学力を前提に、科学技術に関する幅広い知見も併せ有することが求められており、こうした人材を確保するためには、相応の処遇が必要であると考えられる。</p> <p>こうした状況にあっても、給与水準の適正化が図られてきた結果、対国家公務員指数については、国に比べて低く抑えられており、おおむね妥当な水準といえる。</p> <p>今後とも、有為な人材確保に向けた国際競争が厳しい中で、優れた人材の確保が図られるよう留意しつつ、給与水準が適正なものとなるよう、引き続き注視していく。</p>
講ずる措置	<p>今後とも引き続き、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①能力に遜色がない場合は、中堅・若年層を計画的に採用 ② 業務評価を徹底し、昇給反映の厳格化 <p>を行うことで適正な給与水準を保つ。</p>

4 モデル給与

注:年俸制のみのため、記載を省略

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させる。今後もこの仕組みを継続する。

Ⅲ 総人件費について

区 分	前年度 (令和3年度)	当年度 (令和4年度)
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 7,347,390	千円 7,627,852
退職手当支給額 (B)	千円 15,693	千円 41,109
非常勤役職員等給与 (C)	千円 64,078	千円 61,633
福利厚生費 (D)	千円 816,427	千円 861,932
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 8,243,588	千円 8,592,526

総人件費について参考となる事項

・沖縄科学技術大学院大学(OIST)においては、国際的に卓越した教育研究を行っており、有為な人材確保に向けた国際競争が厳しい中で、優れた人材を確保する必要があることから、相応の処遇が必要となる。

・「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)を踏まえ、役職員の退職手当について、平成25年4月1日から、国家公務員の退職手当の改正に準じて、退職手当の算定額に調整率(平成25年10月から平成26年6月まで92/100、平成26年7月以降は87/100)を乗じた額を支給することにより減額し、平成30年1月以降は、平成29年11月17日閣議決定に基づき、さらに83.7/100へ引き下げた。

・令和4年度における総人件費の増は、職員の退職に伴う退職手当の増及び福利厚生費の増に伴うもの。

Ⅳ その他

特になし。

Attachment 2. 4-3 Number of Employees Taking Training Program

添付資料2.4-3 令和5年度研修の受講実績

令和5年度 (FY2023) 研修実績・HR

2024.3.31時点

区分 Training Category	コース名 Course Name	実施方法 Method	実施回数 # of times	参加人数 # of participation
新入職員 New Employee Training	実務者研修 (新入職員向け) Accounting and Document Management Training	対面 In person	11	51
	新卒研修 New Grads Business Training	対面 In person	1	1
管理職研修 Management Development	コンフリクトマネジメント Conflict Management	対面 In person	2	14
職員研修 Staff Development	コンフリクトマネジメント Conflict Management	対面 In person	2	42
	ファシリテーションスキル Facilitation Skills	対面 In person	4	52
Total			20	160

For-T (Forty-Hour Learning Target) FY2023	対象者数 (休職中、年度途中の退職者を除く) # of subjects (excl. employees on leave and resigned during the year)	平均学習時間 Ave. hours of study	学習時間達成率 Archived Rate	目標達成者数 # of employees archived target
	420	14.5	19%	78

LinkedIn Learning	登録者数 # of registered users	ログインユーザー # of logged in users	ログイン率 Login rate	平均視聴時間 (分) Average viewing time (min.)
エンゲージメント Engagement	641	270	42.10%	269

※FY2023より、新入職員オリエンテーションは全てオンライン化

"All new employee orientations in FY2023 have been conducted online."

Attachment 2. 4-3 Number of Employees Taking Training Program
添付資料2. 4-3 令和5年度研修の受講実績

令和5年度 セミナー・会議・コース

セミナー・会議・コース	対象者（記入例：アドミ、研究者、業者等）	参加人数	登壇者（発表言語）	開催日
科研費説明会	アドミ、研究者	13 (Admin11, Researcher2)	藤松 佳晃（日本語）	2023/7/21
科研費説明会	アドミ、研究者	8 (Admin4, Researcher4)	井上 裕紀子（英語）	2023/7/21
KAKENHI Clinic #1 若手	研究者	38	Nicholas Luscombe（英語）	2023/8/4
KAKENHI Clinic #1 基盤B/C	研究者	27	Nicholas Luscombe（英語）	2023/7/31
KAKENHI Clinic #2 若手	研究者	26	Nicholas Luscombe（英語）	2023/9/5
KAKENHI Clinic #2 基盤B/C	研究者	27	Denis Konstantinov（英語）	2023/8/28
FOREST Clinic #1	研究者	11	合田 裕紀子（英語）	2023/9/21
FOREST Clinic #2	研究者	9	杉原 忠（英語）	2023/10/13
受託研究費説明会	アドミ	56 (on site16, zoom40)	井上 裕紀子（日本語）	2023/11/13

科研費支援セッション

内容	対象	参加者	担当	開催日
科研費交付申請	研究者	4	天願、藤松	2023/4/4
科研費交付申請	研究者	8	天願、藤松、井上	2023/4/5
科研費交付申請/実績報告/成果報告	研究者	3	天願、藤松、井上、ホフマン	2023/5/10
実績報告/成果報告	研究者	5	天願、藤松、ホフマン	2023/5/15
実績報告/成果報告	研究者	11	天願、藤松、井上、ホフマン	2023/5/17
科研費応募	研究者	7	天願、藤松、井上、ホフマン、前門、杉原	2023/8/29
科研費応募	研究者	3	藤松、井上、ホフマン、前門	2023/8/30
科研費応募	研究者	11	天願、藤松、井上、ホフマン、前門	2023/8/31

FY2023 Seminar/Meeting/Course

Seminar/Meeting/Course	Participants (e.g. admin staff, researchers, vendors etc.)	# of participants	Speaker (language)	Date
KAKENHI Explanatory Session	Admin staff, researchers	13 (Admin11, Researcher 2)	Yoshiteru Fujimatsu (Japanese)	2023/7/21
KAKENHI Explanatory Session	Admin staff, researchers	8 (Admin4, Researcher4)	Yukiko Inoue (English)	2023/7/21
KAKENHI Clinic #1 Early Career	Researchers	38	Nicholas Luscombe (English)	2023/8/4
KAKENHI Clinic #1 SR B/C	Researchers	27	Nicholas Luscombe (English)	2023/7/31
KAKENHI Clinic #2 Early Career	Researchers	26	Nicholas Luscombe (English)	2023/9/5
KAKENHI Clinic #2 SR B/C	Researchers	27	Denis Konstantinov (English)	2023/8/28
FOREST Clinic #1	Researchers	11	Yukiko Goda (English)	2023/9/21
FOREST Clinic #2	Researchers	9	Tadashi Sugihara(English)	2023/10/13
SR Explanatory Session	Admin staff	56 (on site16, zoom40)	Yukiko Inoue (Japanese)	2023/11/13

KAKENHI Support Session

Content	Participants	# of participants	Person in Charge	Date
Payment Request	Researchers	4	Tengan, Fujimatsu	2023/4/4
Payment Request	Researchers	8	Tengan, Fujimatsu, Inoue	2023/4/5
Payment Request/Annual Report/Final Report	Researchers	3	Tengan, Fujimatsu, Inoue, Hoffman	2023/5/10
Annual Report/Final Report	Researchers	5	Tengan, Fujimatsu, Inoue, Hoffman	2023/5/15
Annual Report/Final Report	Researchers	11	Tengan, Fujimatsu, Inoue, Hoffman	2023/5/17
FY24 Application	Researchers	7	Tengan, Fujimatsu, Inoue, Hoffman, Maekado, Sugihara	2023/8/29
FY24 Application	Researchers	3	Fujimatsu, Inoue, Hoffman, Maekado	2023/8/30
FY24 Application	Researchers	11	Tengan, Fujimatsu, Inoue, Hoffman, Maekado	2023/8/31

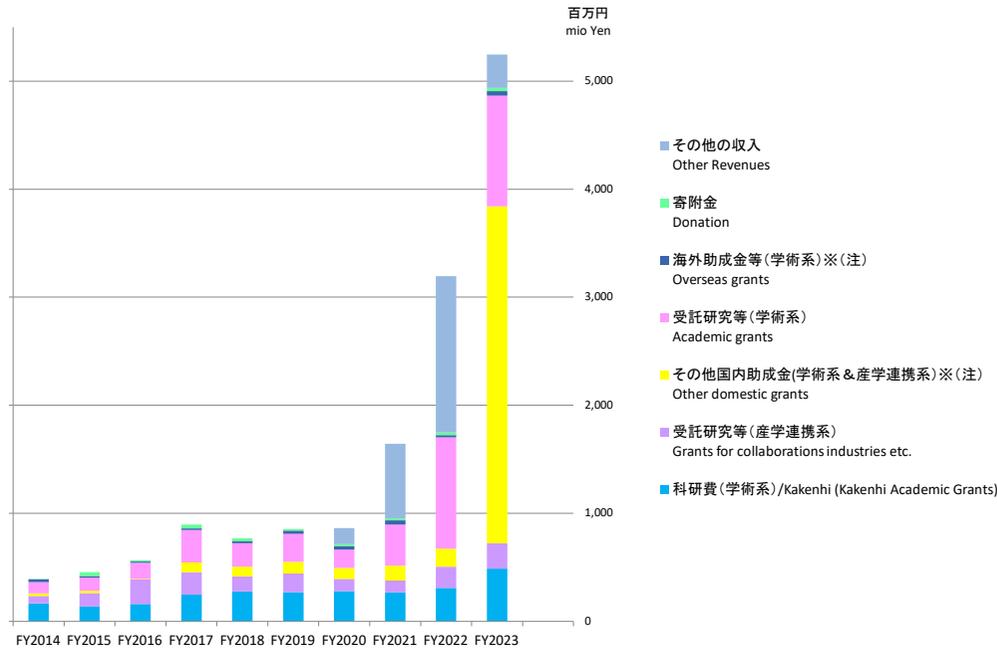
Attachment 3. 1-1 FY2023 External Grants and Donation Table 添付資料

3. 1-1 外部資金・寄附金獲得状況

Acquisition of External Funding (as of March 31, 2024)/外部資金獲得状況

分類 Category	FY2014		FY2015		FY2016		FY2017		FY2018		FY2019		FY2020		FY2021		FY2022		FY2023	
	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#								
科研費(学術系)/Kakenhi (Kakenhi Academic Grants)	165,266,341	54	137,160,016	47	158,517,697	56	245,254,159	86	276,201,309	109	270,013,444	122	279,366,196	126	266,250,000	127	308,720,377	136	487,142,951	165
受託研究等(産学連携系) Grants for collaborations industries etc.	69,994,690	10	124,337,784	10	227,151,400	18	210,513,791	20	140,701,256	21	173,956,670	17	113,827,496	14	110,444,030	17	197,708,273	23	234,896,880	41
その他国内助成金(学術系&産学連携系)※(注) Other domestic grants	22,635,500	11	20,989,419	6	7,116,234	10	87,587,000	37	87,523,000	48	105,620,345	55	100,231,726	40	137,844,000	54	165,102,058	79	3,118,488,100	67
受託研究等(学術系) Academic grants	104,967,000	5	120,758,500	7	149,131,000	6	302,781,001	10	217,504,200	10	258,767,900	13	169,562,500	21	379,884,880	27	1,031,706,842	26	1,024,100,792	30
海外助成金等(学術系)※(注) Overseas grants	27,166,059	3	16,015,264	3	11,916,945	1	13,335,884	2	18,395,330	4	30,798,406	4	33,552,811	6	39,242,711	11	18,926,962	7	43,750,345	10
寄附金 Donation	1,075,960	7	36,417,498	13	10,644,779	13	34,747,672	27	28,227,199	24	15,975,729	39	18,407,587	54	18,048,052	102	24,433,551	62	28,217,555	47
その他の収入 Other Revenues													149,222,149	8	691,980,599	6	1,448,700,027	16	311,205,760	29
	391,105,550		455,678,481		564,478,055		894,219,507		768,552,294		855,132,494		864,170,465		1,643,694,272		3,195,298,090		5,247,802,383	

※(注) FY2017以降はフェローシップの金額を含む Fellowship is included from FY2017

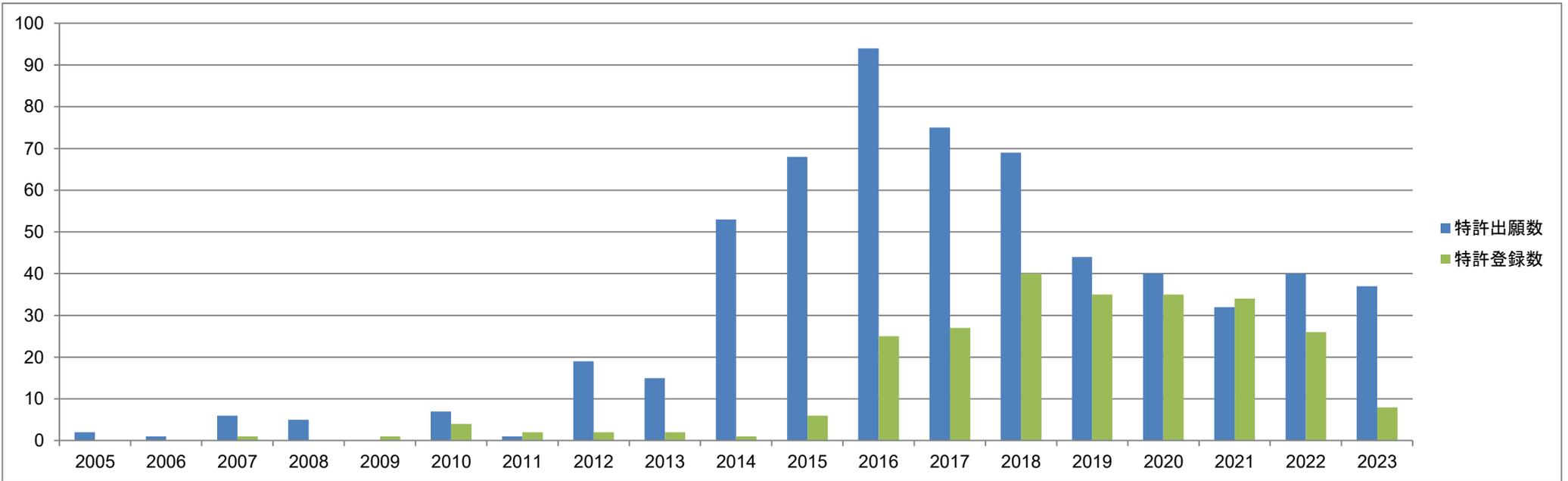


添付資料4. 1-1特許状況

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
特許出願数	0	2	1	6	5	0	7	1	19	15	53	68	94	75	69	44	40	32	40	37
特許登録数	0	0	0	1	0	1	4	2	2	2	1	6	25	27	40	35	35	34	26	8

* FY2023(令和5年度) は見込み数

**数値は特許以外の知的財産を含む(商標等)



添付資料4.1-2 令和5年度 POC プロジェクト

POC プロジェクト

No	プロジェクト名	新規/継続	代表研究者	プロジェクトタイプ (ITR, フェーズ I/II, TPF)
1	レーザー駆動マイクロプラズマを利用した極紫外線光源装置の開発	継続	ケシャブ ダニ	ITR
2	空気中で安定な有機蓄光材料の開発	継続	嘉部 量太	ITR
3	コンピュータを利用したリアルタイム交流による精神障害リスクの早期発見	継続	トム フロース	ITR
4	フェムト秒レーザーを用いたアテローム切除術を可能にするファイバーエンドキャップ装置の開発	継続	ヴィクトラス リスソヴァス	TPF
5	ハイスループットプロテオミクス用タンパク質マイクロアレイ・ナノアレイ	継続	サティッシュ シヴァニ	TPF
6	アスリートの身体機能管理をサポートする尿検査サービスの開発	継続	照屋 貴之	TPF
7	脳疾患用の創薬スクリーニングのためのシナプスプロテオミクスと幹細胞リプログラミング	継続	高橋 智幸	Phase II
8	養豚場向け低コスト・低メンテナンスのスケールアップ高度排水処理装置の開発	継続	イゴール ゴリヤニン	Phase II
9	再生医療用3次元スキャフォールド、ハイドロゲル、およびインプラント用のナノファブリケーションシステム	継続	マルコ テレンツィオ	Phase I
10	中枢神経系ニューロンに特異的に遺伝子導入する新規ウイルスベクター	新規	サーヒル アチャリヤ	TPF
11	おきなわ糸づくりプロジェクト	新規	新里 瞳	TPF
12	オピオイドの鎮痛作用を増強し、耐性発現を抑制するペプチド医薬品	新規	チョウ ペン	TPF
13	Well Parent Japan (WPJ) の普及と実践に関する研究	新規	ゲイル トリップ	Phase II
14	研究・医療用途の3次元スキャフォールド、ハイドロゲル、インプラント開発のためのハイブリッド3次元ナノファブリケーション技術	新規	吉田 富	Phase II
15	スピンをを用いた極低温マイクロ波量子デバイス	新規	久保 結丸	Phase I
16	磁気的に調整可能なレンズ	新規	ジェイソン トゥワムリー	Phase I
17	量子ネットワーキングのためのイオントラップと共振器の開発	新規	高橋 優樹	Seed Phase
18	ポリフルオロ化合物を効率的に分解する大腸菌株の設計	新規	パオラ ラウリーノ	Seed Phase
19	ナノ粒子に搭載した siRNA による、効果的な治療法開発	新規	山本 雅	Seed Phase
20	食肉類似物の栄養特性と知覚特性を向上させる機能性成分としての微細藻類	新規	エイミー シェン	Seed Phase

添付資料 4. 1-3 令和5年度（2023）のスタートアップ・インキュベーター入居企業

スタートアップ・入居企業

No	企業名	新規/継続	タイプ (OIST技術/アクセラレーター/外部)	場所 (ラボ3/インキュベーター/その
1	BioAlchemy株式会社	継続	OIST技術	インキュベーター
2	Watasumi株式会社	継続	OIST技術	インキュベーター
3	株式会社ACIリサーチ	継続	OIST技術	インキュベーター
4	メタブル合同会社	新規	OIST技術	第5研究棟
5	アティエーラ株式会社	新規	OIST技術	インキュベーター
6	株式会社REPS JAPAN	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
7	EF Polymer株式会社	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
8	Sage-Sentinel Smart Solutions株式会社	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
9	Genome Miner	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
10	HerLifeLab株式会社 (Menopause and Beyond)	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
11	株式会社Tree Oceans (ANDA)	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
12	大阪ヒートクール株式会社	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
13	株式会社SAVORY	継続	外部	インキュベーター
14	株式会社ハナハナワークスおきなわ	継続	外部	インキュベーター
15	株式会社SPEC	継続	外部	インキュベーター
16	特定非営利活動法人ミラツク	継続	外部	インキュベーター
17	株式会社エッセンス	継続	外部	インキュベーター
18	株式会社マネリア	継続	外部	インキュベーター
19	株式会社ハヤト・インフォメーション	継続	外部	インキュベーター
20	Haitai株式会社(Kenko Leaf)	継続	外部	インキュベーター
21	Cgreen(Miwa Mega)	継続	外部	インキュベーター
22	株式会社Cultivera	継続	外部	インキュベーター
23	H.KLAB.	継続	外部	インキュベーター
24	琉球アスティーダスポーツクラブ株式会社	継続	外部	インキュベーター
25	株式会社MTG Ventures	継続	外部	インキュベーター
26	一般社団法人 HAPPY EARTH	継続	外部	インキュベーター
27	Shima & Co.株式会社	継続	外部	インキュベーター
28	株式会社いいにおい	継続	外部	インキュベーター
29	株式会社リリーフアシスト(株式会社クリビオ)	継続	外部	インキュベーター
30	株式会社レキサソ	継続	外部	インキュベーター
31	株式会社バイオマスレジソホールディングス	継続	外部	インキュベーター
32	レコテック株式会社	継続	外部	インキュベーター
33	株式会社グローバルウェイ	継続	外部	インキュベーター

No	企業名	新規/継続	タイプ		場所	
			(OIST技術/アクセラレーター/外部)		(ラボ3/インキュベーター/その)	
34	Anantha株式会社	継続	外部		インキュベーター	
35	Morpheus株式会社	継続	外部		インキュベーター	
36	合同会社アラネア	継続	外部		インキュベーター	
37	ジャパンプレミアムベジタブル株式会社	新規	外部		インキュベーター	
38	合同会社HAKKI	新規	外部		インキュベーター	
39	株式会社ARTH	新規	外部		インキュベーター	
40	ライフタイムベンチャーズ	新規	外部		インキュベーター	
41	株式会社ショーン	新規	外部		インキュベーター	
42	株式会社ekei labs	新規	外部		インキュベーター	
43	株式会社シンク・ネイチャー	新規	外部		インキュベーター	
44	フラットミニマ	新規	外部		インキュベーター	

受託研究等（産学連携）

No	事業名	新規・継続	連携機関	分野	OIST研究ユニット／部署
1	譲渡契約	継続	機密	センサー	シーレ・ニコーマック
2	譲渡契約	新規	機密	創薬	横林洋平
3	大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援（PARKS）	新規	科学技術振興機構	スタートアップ	OIST Innovation
4	沖縄・ハワイ等アジア太平洋島嶼地域連携推進事業	新規	沖縄県	環境	ティモシー・ラバシ
5	大学発SDGs社会課題解決型科学技術プロジェクト創出支援事業	新規	沖縄県	健康医療	古川絵美
6	共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）琉球大学	継続	科学技術振興機構	スタートアップ	OIST Innovation
7	沖縄イノベーション・エコシステム共同研究推進事業	継続	沖縄科学技術振興センター	環境	貝沼真美
8	沖縄イノベーション・エコシステム共同研究推進事業	継続	沖縄科学技術振興センター	医療	山本雅
9	沖縄イノベーション・エコシステム共同研究推進事業	継続	沖縄科学技術振興センター	環境	佐藤矩行
10	沖縄県外来種対策事業	継続	沖縄県環境科学センター	環境	環境科学・インフォマティクスセクション
11	包括協定	継続	日本政策投資銀行	スタートアップ	OIST Innovation
12	包括協定	継続	インスパイア	スタートアップ	OIST Innovation
13	委託研究	新規	機密	環境	佐藤矩行
14	委託研究	新規	機密	環境	佐藤矩行
15	委託研究	新規	機密	環境	佐藤矩行
16	委託研究	新規	機密	食品	佐瀬英俊
17	委託研究	新規	機密	植物	佐瀬英俊
18	委託研究	継続	機密	環境	佐藤矩行
19	委託研究	継続	ハイアットリージェンシー瀬良垣アイランド沖縄	環境	ティモシー・ラバシ
20	共同研究	新規	機密	健康医療	横林洋平
21	共同研究	新規	機密	健康医療	横林洋平
22	共同研究	新規	機密	化学	田中富士枝
23	共同研究	新規	機密	健康医療	シャルル・ブレン
24	共同研究	新規	機密	エネルギー	科学計算・データ解析セクション
25	共同研究	新規	機密	量子	根本香絵
26	共同研究	新規	機密	データサイエンス	山田誠
27	共同研究	継続	機密	環境	御手洗哲司
28	共同研究	継続	機密	食品	エイミー・シェン
29	共同研究	継続	機密	健康医療	山本雅
30	共同研究	継続	機密	健康医療	銅谷賢治
31	共同研究	継続	機密	健康医療	河野恵子
32	共同研究	継続	機密	健康医療	柳田充弘
33	共同研究	継続	機密	健康医療	横林洋平
34	共同研究	継続	機密	健康医療	カハル・キャッセディ
35	共同研究	継続	機密	エネルギー	新竹積
36	共同研究	継続	コランダム・システム・バイオロジー	健康医療	北野宏明
37	共同研究	継続	NTTドコモ九州支店	環境	佐藤矩行
38	共同研究	継続	機密	健康医療	ユージン・クロール
39	共同研究	継続	機密	健康医療	トム・フロース
40	共同研究	継続	機密	健康医療	北野宏明
41	共同研究	継続	機密	量子	根本香絵
42	共同研究	継続	機密	エネルギー	ヤビン・チー
43	共同研究	継続	機密	AI	北野宏明
44	ライセンス契約	新規	機密	健康医療	横林洋平
45	ライセンス契約	新規	機密	環境	イゴール・ゴリヤニン
46	ライセンス契約	継続	沖縄プロテントモグラフィー	健康医療	ウルフ・スコグランド

No	事業名	新規・継続	連携機関	分野	OIST研究ユニット／部署
47	ライセンス契約	継続	O-Force	健康医療	山本雅
48	ライセンス契約	継続	機密	環境	佐藤矩行
49	ライセンス契約	継続	機密	環境	柳田充弘
50	ライセンス契約	継続	機密	化学	田中富士枝
51	ライセンス契約	継続	機密	健康医療	柳田充弘
52	オプション契約	新規	機密	環境	イゴール・ゴリヤニン
53	オプション契約	継続	機密	健康医療	OIST Innovation
54	共同特許出願契約	新規	機密	環境	新竹積
55	特許管理契約	継続	機密	健康医療	OIST Innovation
56	試料移転契約	新規	機密	食品	佐瀬英俊
57	試料移転契約	新規	機密	食品	佐瀬英俊
58	試料移転契約	新規	機密	食品	佐瀬英俊
59	試料移転契約	新規	機密	健康医療	渡邊寛
60	試料移転契約	新規	機密	食品	佐瀬英俊
61	試料移転契約	新規	機密	健康医療	佐瀬英俊
62	試料移転契約	新規	機密	健康医療	佐瀬英俊
63	試料移転契約	新規	機密	健康医療	佐瀬英俊
64	試料移転契約	継続	機密	健康医療	バオラ・ラウリーノ
65	覚書	新規	渋谷区	スタートアップ	OIST Innovation
66	覚書	新規	機密	スタートアップ	OIST Innovation
67	覚書	新規	新エネルギー・産業技術総合開発機構	スタートアップ	OIST Innovation
68	覚書	新規	日本電信電話	複数	OIST
69	覚書	新規	東芝	複数	OIST
70	覚書	新規	沖縄電力	エネルギー	OIST
71	覚書	継続	機密	脳科学	トム・フロース
72	覚書	継続	機密	環境	実験動物セクション
73	覚書	継続	機密	スタートアップ	OIST Innovation
74	覚書	継続	沖縄銀行	スタートアップ	OIST Innovation
75	覚書	継続	リウボウ商事	スタートアップ	OIST Innovation
76	覚書	継続	ディーブコア	スタートアップ	OIST Innovation
77	覚書	継続	沖縄振興開発金融公庫	スタートアップ	OIST Innovation
78	覚書	継続	機密	スタートアップ	OIST Innovation
79	覚書	継続	AgVenture Lab	スタートアップ	OIST Innovation
80	覚書	継続	機密	環境	環境科学・インフォマティクスセクション
81	覚書	継続	FC琉球	脳科学	トム・フロース
82	覚書	継続	沖縄県産業振興公社	スタートアップ	OIST Innovation
83	覚書	継続	株式会社Srurst	スタートアップ	OIST Innovation
84	覚書	継続	機密	スタートアップ	OIST Innovation
85	秘密保持契約	新規	機密	環境	ヤビン・チー
86	秘密保持契約	新規	機密	健康医療	楠見明弘
87	秘密保持契約	新規	機密	Paola	エイミー・シェン
88	秘密保持契約	新規	機密	健康医療	横林洋平
89	秘密保持契約	新規	機密	健康医療	高橋智幸
90	秘密保持契約	新規	機密	食品	エイミー・シェン
91	秘密保持契約	新規	機密	食品	ジョナサン・ミラー
92	秘密保持契約	新規	機密	食品	ジョナサン・ミラー
93	秘密保持契約	新規	機密	健康医療	柳田充弘
94	秘密保持契約	新規	機密	健康医療	横林洋平

No	事業名	新規・継続	連携機関	分野	OIST研究ユニット／部署
95	秘密保持契約	新規	機密	健康医療	横林洋平
96	秘密保持契約	新規	機密	健康医療	田中富士枝
97	秘密保持契約	新規	機密	食品	ジョナサン・ミラー
98	秘密保持契約	新規	機密	食品	ジョナサン・ミラー
99	秘密保持契約	新規	機密	化学	クリスティーン・ラスカム
100	秘密保持契約	新規	機密	物理	ケシャヴ・ダニ
101	秘密保持契約	新規	機密	健康医療	ユージン・クロール
102	秘密保持契約	新規	機密	健康医療	ユージン・クロール
103	秘密保持契約	新規	機密	健康医療	エイミー・シェン
104	秘密保持契約	新規	機密	健康医療	横林洋平
105	秘密保持契約	新規	機密	環境	マヘッシュ・バンディ
106	秘密保持契約	新規	機密	環境	新竹積
107	秘密保持契約	新規	機密	スタートアップ	イミル・トゥベール
108	秘密保持契約	継続	機密	環境	マヘッシュ・バンディ
109	秘密保持契約	継続	機密	脳科学	ペアン・クン
110	秘密保持契約	継続	機密	データサイエンス	イミル・トゥベール
111	秘密保持契約	継続	機密	データサイエンス	イミル・トゥベール
112	秘密保持契約	継続	機密	健康医療	イゴール・ゴリヤニン
113	秘密保持契約	継続	機密	データサイエンス	イミル・トゥベール
114	秘密保持契約	継続	機密	脳科学	杉山（矢崎）陽子
115	秘密保持契約	継続	機密	脳科学	杉山（矢崎）陽子
116	秘密保持契約	継続	機密	物理	ケシャヴ・ダニ
117	秘密保持契約	継続	機密	食品	エイミー・シェン
118	秘密保持契約	継続	機密	データサイエンス	ジョナサン・ミラー
119	秘密保持契約	新規	機密	健康医療	OIST Innovation
120	秘密保持契約	新規	機密	環境	OIST Innovation
121	秘密保持契約	新規	機密	スタートアップ	OIST Innovation
122	秘密保持契約	新規	機密	バイオ	OIST Innovation
123	秘密保持契約	新規	機密	センサー	エイミー・シェン
124	秘密保持契約	継続	機密	環境	OIST Innovation
125	秘密保持契約	継続	機密	データサイエンス	イミル・トゥベール
126	秘密保持契約	継続	機密	データサイエンス	イミル・トゥベール
127	秘密保持契約	継続	機密	脳科学	トム・フロース
128	秘密保持契約	継続	機密	脳科学	トム・フロース
129	秘密保持契約	継続	機密	環境	イゴール・ゴリヤニン
130	秘密保持契約	継続	機密	工学	OIST
131	秘密保持契約	継続	機密	データサイエンス	イミル・トゥベール
132	秘密保持契約	継続	機密	物理	OIST Innovation
133	秘密保持契約	継続	機密	素材	野村陽子
134	秘密保持契約	継続	機密	量子	久保結丸
135	秘密保持契約	継続	機密	健康医療	河野恵子
136	秘密保持契約	継続	機密	食品	佐瀬英俊
137	秘密保持契約	継続	機密	量子	トマス・ブッシュ
138	秘密保持契約	継続	機密	食品	ジョナサン・ミラー
139	秘密保持契約	継続	機密	イノベーション	OIST Innovation
140	秘密保持契約	継続	機密	食品	ジョナサン・ミラー
141	秘密保持契約	継続	機密	食品	ジョナサン・ミラー
142	秘密保持契約	継続	機密	食品	ジョナサン・ミラー

No	事業名	新規・継続	連携機関	分野	OIST研究ユニット／部署
143	秘密保持契約	継続	機密	イノベーション	OIST Innovation
144	秘密保持契約	継続	機密	食品	ジョナサン・ミラー
145	秘密保持契約	継続	機密	食品	ジョナサン・ミラー
146	秘密保持契約	継続	機密	イノベーション	OIST Innovation
147	秘密保持契約	継続	機密	食品	ジョナサン・ミラー
148	秘密保持契約	継続	機密	センサー	新竹積
149	サービス契約	継続	ライフタイムベンチャーズ	スタートアップ	OIST Innovation
150	その他契約	継続	ノバルティスバイオメディカル研究所	創薬	OIST Innovation
151	その他契約	継続	機密	物理	マヘッシュ・バンディ

展示会

No	事業名	開催日	場所	主催	内容
1	JST新技術説明会	2023年6月	オンライン	JST	プレゼンテーション
2	KEET 2023	2023年9月	韓国	Kimdaejung Convention Center / Kotra / Korea	商談会
3	RE+	2023年9月	米国	Solar Energy Trade Shows, LLC (RE+	商談会
4	BioJapan バイोजパン	2023年10月	横浜	BioJapan組織委員会	ブース、商談会
5	CPHI Worldwide	2023年10月	スペイン	Informa Markets	商談会
6	BioEurope 2023 バイオヨーロッパ	2023年11月	ドイツ	EBD Group	商談会
7	Matching Hub Hokuriku 2023 マッチングハブ北陸	2023年11月	金沢	JAIST	ブース、商談会
8	MEDICA メディカ	2023年11月	ドイツ	メッセ・デュッセルドルフ	商談会
9	J-Innovation Hub Exhibition (KOKOKARA Fair in Autumn 2023) J-イノベーションハブ展示会	2023年11月	東京	日刊工業新聞	ブース、商談会
10	nano tech ナノテック	2024年1月	東京	nano tech実行委員会	ブース、商談会

OIST Innovation主催のセミナー・イベント

No	演題	開催日	参加者数
1	イベント：OIST Innovation Society - What Makes a Great Entrepreneur	2023年4月	70
2	イベント：Inspired.Lab	2023年6月	50
3	INO 6月イベント東京	2023年6月	60
4	イベント：Sustainable Transport Hackathon	2023年6月	25
5	イベント：AgVenture Lab - JA Okinawa- OIST Collaboration Beer Press Conference	2023年7月	20
6	イベント：OIST x AgVenture Lab Startup Okinawa Night	2023年7月	70
7	イベント：Kyunokai Kick-off Meeting	2023年8月	20
8	セミナー：Pitch Training for Startups by Scott Morgan	2023年8月	10
9	セミナー：Communication Training by Scott Morgan	2023年8月	25
10	セミナー：Finance for Early Tech Startups	2023年8月	8
11	イベント：OIST Innovation tea time	2023年9月	50
12	イベント：OLTV Investor Gathering 2023	2023年9月	25
13	セミナー：未来起業家へのベンチャー投資講座ー野村證券	2023年9月	42
14	イベント：Lean Startup -Boot Camp with PARKS	2023年9月	28
15	ワークショップ：Lean Startup Program	2023年9月	30
16	セミナー：Introduction to Lean Startup	2023年9月	22
17	セミナー：Finance for Early Tech Startups	2023年9月	9
18	イベント：OIST Innovation x OIST Researcher Appreciation Month	2023年10月	50
19	イベント：Meet-up with Stanford MBA School Alumni	2023年10月	19
20	ワークショップ：Video Editing	2022年10月	30
21	INO 11月イベント	2023年11月	70
22	セミナー：OIST Deep Tech Entrepreneurship Training - session 1	2023年11月	30
23	セミナー：起業を考える上で知っておきたい事/補助金活用ガイドライン	2023年11月	41
24	セミナー：OIST Deep Tech Entrepreneurship Training - session 2	2023年11月	30
25	セミナー：How to create a successful university startup	2023年11月	75
26	セミナー：OIST Deep Tech Entrepreneurship Training - session 3	2023年11月	30
27	イベント：Startup Synapse - Where researchers and startups connect	2023年11月	85
28	セミナー：English Presentation	2023年12月	20
29	セミナー：Introduction to IP	2023年12月	71
30	セミナー：Go Austria Startup Program by Advantage Austria	2023年12月	20
31	ワークショップ：DBIC Workshop	2023年12月	48
32	イベント：OIST-Shibuya (～自治体と大学の連携を考える～)	2023年12月	38
33	イベント：JAFCO Online Meetup	2023年12月	6
34	イベント：POC Projects Showcase and Networking	2023年12月	40

No	演題	開催日	参加者数
35	イベント：CO2 Removal Challenge Hackathon	2023年12月	30
36	イベント：OIST-LINK-J（革新的な基礎研究から社会実装への架け橋～OIST Innovationの挑戦～）	2024年1月	253
37	イベント：Startup Accelerator Bootcamp	2024年1月	40
38	イベント：世界に挑む！沖縄発スタートアップのマインドセット	2024年1月	70
39	イベント：OIST x Okinawa Startup Ecosystem Meetup	2024年1月	30
40	イベント OIST Innovation New Year's Networking	2023年2月	17
41	セミナー：Okinawa Medtech	2024年2月	0
42	イベント：Connecting Innovators and Communities - AgVenture Labx JA沖縄	2024年2月	60
43	イベント：Borderless Startup: Global Foundations Conference	2024年2月	40
44	イベント：Teatime with Suntory	2024年2月	25
45	ワークショップ：OIST x NTT Joint Workshop	2024年2月	60
46	イベント：OISTER Meet-up #1: EF Polymer	2024年2月	7
47	イベント：OISTER Meet-up #2: Kanju Tech	2024年2月	5
48	イベント：OISTER Meet-up #3: ekei Labs	2024年2月	7
49	イベント：沖縄経済同友会OIST視察及び意見交換	2024年2月	32
50	イベント：OISTER Meet-up #4: GenomeMiner	2024年2月	5
51	セミナー：Menopause in Your 40's	2024年3月	25
52	セミナー：VMS Mentor Training	2024年3月	20
53	イベント：OISTER Meet-up #5:-Lenovo	2024年3月	9
54	イベント：OISTER Meet-up #6-三菱JFJ信託銀行	2024年3月	7
55	イベント：Okinawa Campus Idea Pitch Contest Finale	2024年3月	50
56	セミナー：Masterclass 1: Marketing and Branding	2024年3月	12
57	イベント：NEDO Debriefing Session @RYULAB	2024年3月	10
58	セミナー：Masterclass 2: Negotiation strategies and tactics	2024年3月	8
59	イベント：経済同友会×OISTシンポジウム	2024年3月	64
60	セミナー：Masterclass 3: Valuation, term sheets and investment types	2024年3月	9
		Total Participan	2162